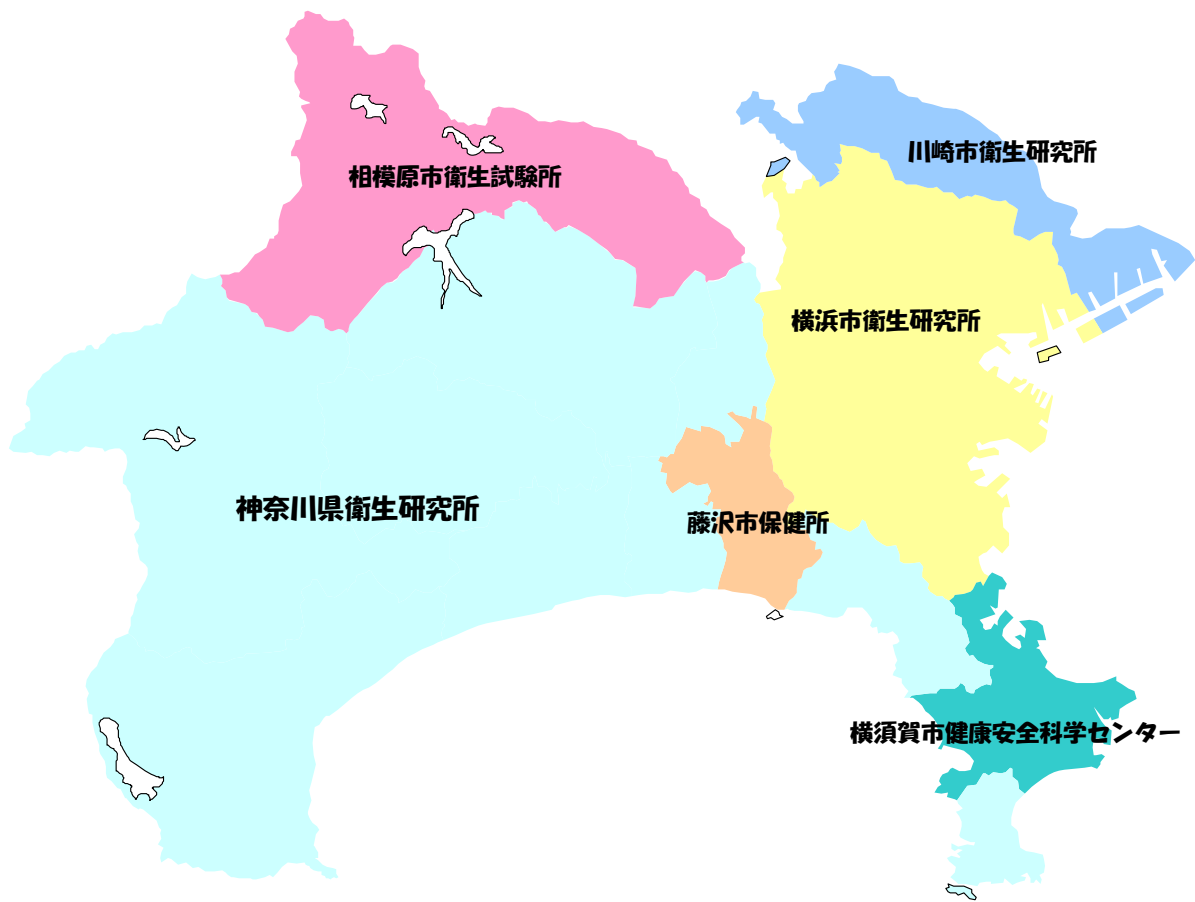


平成 24 年

神奈川県感染症

PART I 平成 24 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

PART II 平成 24 年地域における感染症発生状況の概要



はじめに

平成 24 年は、海外では新種のコロナウイルス感染症の発生がみられ、高病原性鳥インフルエンザ（H5N1）も継続して患者が報告されています。また、国内では風しんの流行、薬剤耐性菌の問題など、感染症に対する健康危機管理対策の重要性はより増してきています。

神奈川県衛生研究所（以下、当所）では、こうした状況のなかで健康危機管理や感染症対策に向けて神奈川県医師会や病院協会及び関係機関の方々との連携を強化するとともに、感染症発生動向調査事業を中心とした情報収集や原因究明のための検査、今後の感染症対策に向けた研究とともにホームページやパンフレット等による情報発信や研修など、感染症対策のさらなる充実にむけて日々取り組んでおります。

『神奈川県の感染症』は、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター、藤沢市保健所及び当所が協力し、神奈川県における感染症発生動向調査、微生物検出情報、関連調査及び研究報告等を、感染症発生動向調査の概要を中心とした P A R T I、地域における感染症発生状況の概要を中心とした P A R T II に分けて収録いたしました。感染症対策の参考にして頂ければ幸いです。

最後に、『神奈川県の感染症』の作成に当たり、関係機関の方々から、貴重な研究資料をご提供いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

平成 25 年 4 月

神奈川県衛生研究所長

岡 部 英 男

目 次

< PART I > 平成 24 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

I 感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患	1
2 定点把握の対象疾患	
(1) 定点	4
(2) 週報対象疾患	5
(3) 月報対象疾患	14
3 トピックス	
<神奈川県の HIV/エイズの概要>	18
【資料】	
資料 1 平成 23 年全数把握対象の感染症 保健所別報告数	19

< PART II > 平成 24 年地域における感染症発生状況の概要

I 病原微生物検出状況（資料編）

1 ウイルス検出概況	20
2 病原細菌検出概況	21
3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）	22
4 病原細菌検出状況表（ヒト由来、月別）	33

II 地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症	
(1) インフルエンザ	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の インフルエンザの動向（神奈川県衛生研究所）	38
② 横浜市のインフルエンザの動向（横浜市衛生研究所）	40
③ 川崎市のインフルエンザの動向（川崎市健康安全研究所）	47
④ インフルエンザ感受性調査（神奈川県衛生研究所）	49
(2) HIV/エイズ	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況（神奈川県衛生研究所）	51
② 藤沢市における HIV 即日検査の実施状況（藤沢市保健所）	53
(3) ウイルス性感染性胃腸炎	
(3) -1	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者 からの原因ウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	54

(3) -2		
①	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の ウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（神奈川県衛生研究所）	56
②	横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横浜市衛生研究所）	57
③	川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（川崎市健康安全研究所）	62
④	相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（相模原市衛生試験所）	62
⑤	横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横須賀市健康安全科学センター）	63
⑥	藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（藤沢市保健所）	63
(4)	手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱	
①	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の検出状況 (神奈川県衛生研究所)	64
②	川崎市の検出状況（川崎市健康安全研究所）	64
(5)	蚊媒介感染症	
①	横浜市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（横浜市衛生研究所）	64
②	川崎市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（川崎市健康安全研究所）	66
③	横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（横須賀市健康安全科学センター）	67
(6)	その他のウイルス性感染症	
(6)-1		
①	県内の日本脳炎感染源調査（神奈川県衛生研究所）	67
(6)-2		
①	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の 麻疹疑い患者からの麻疹ウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	68
②	相模原市の麻疹ウイルス検出状況（相模原市衛生試験所）	68
(6)-3		
①	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の 麻疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	68
(6)-4		
①	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の 風疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	69
2	細菌性感染症	
(1)	腸チフス・パラチフス	
①	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の チフス菌等のフェージ型別結果（神奈川県衛生研究所）	71
②	横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果（横浜市衛生研究所）	71
③	川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果（川崎市健康安全研究所）	71

(2)	細菌性腸管系感染症	
①	神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の腸管出血性大腸菌の分離状況(神奈川県衛生研究所)	72
②	神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の赤痢菌及びコレラ菌検出状況(神奈川県衛生研究所)	72
③	神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の散発下痢症患者からの病原菌検出状況(神奈川県衛生研究所)	73
④	横浜市の腸管出血性大腸菌検出状況(横浜市衛生研究所)	73
⑤	横浜市の赤痢菌及びコレラ菌検出状況(横浜市衛生研究所)	74
⑥	川崎市の下痢症患者からの腸管病原菌検出状況(川崎市健康安全研究所)	75
⑦	相模原市の腸管病原菌検出状況(三類感染症発症者の家族等の病原菌検索)(相模原市衛生試験所)	76
⑧	横須賀市の散発下痢症・接触者等からの腸管系病原菌検出状況(横須賀市健康安全科学センター)	76
⑨	藤沢市の腸管病原菌(三類感染症)検出状況(藤沢市保健所)	77
(3)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
①	A群溶血レンサ球菌の分離及びT型別成績(神奈川県衛生研究所)	78
②	横浜市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(横浜市衛生研究所)	80
③	川崎市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(川崎市健康安全研究所)	80
(4)	結核	
①	神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)のQFT検査結果(神奈川県衛生研究所)	80
②	横浜市におけるQFT検査成績(横浜市衛生研究所)	81
③	横須賀市におけるQFT検査成績(横須賀市健康安全科学センター)	82
(5)	百日咳	
①	神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の百日咳検査成績(神奈川県衛生研究所)	82
②	横浜市における百日咳検査成績(横浜市衛生研究所)	83
(6)	マイコプラズマ肺炎	
①	神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の肺炎マイコプラズマの検出状況(神奈川県衛生研究所)	84
3	その他の感染症	
(1)	つつが虫病	
①	神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)で発生したつつが虫病(神奈川県衛生研究所)	85
	【参考資料】 予防接種実施状況	86
	感染症関係機関	87

< PART I > 平成 24 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

(平成 25 年 3 月)

I 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、平成 10 年 9 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)が成立し、平成 11 年 4 月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。

1 全数把握対象疾患

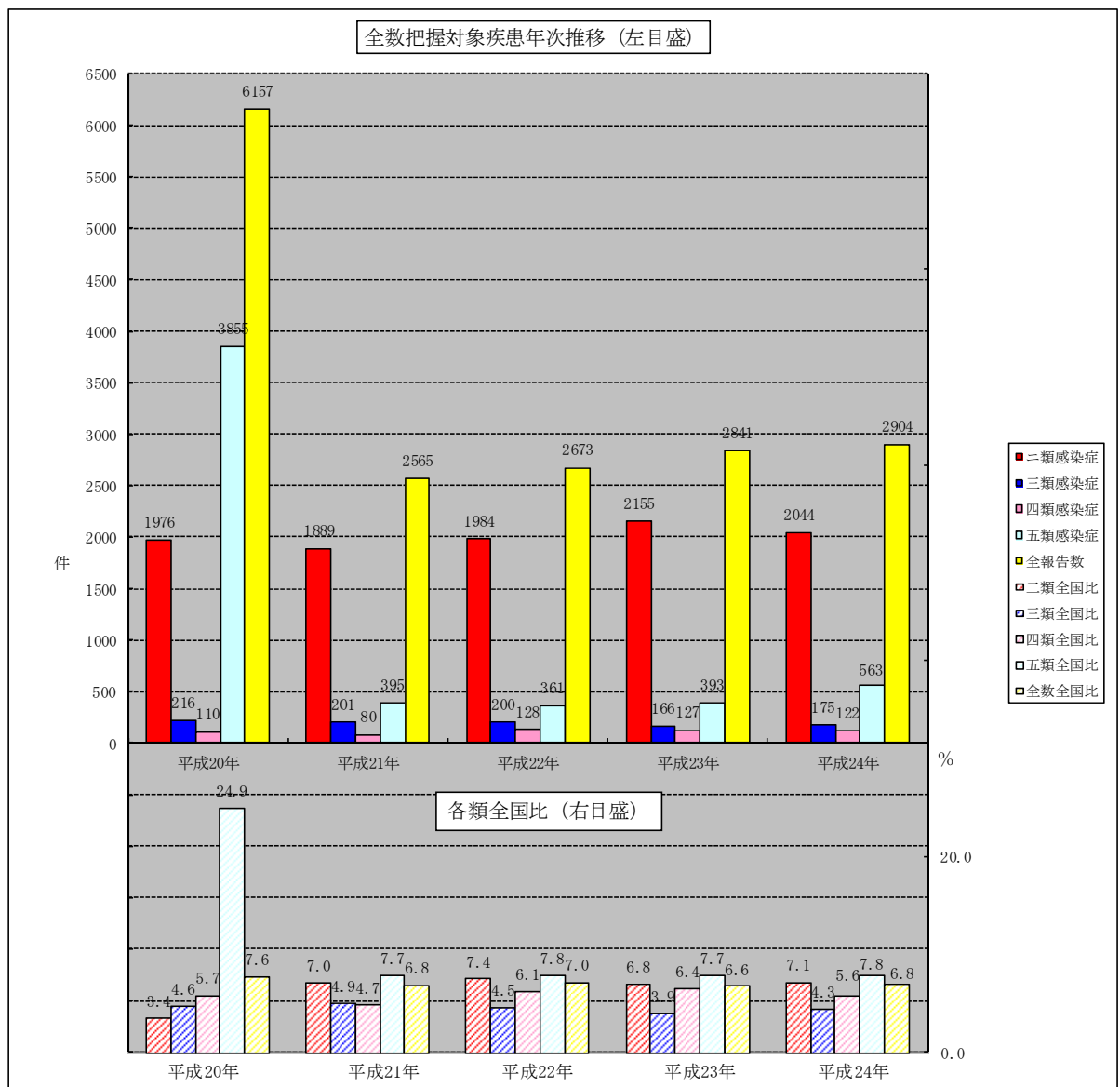
平成 24 年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、2904 件と前年より 63 件増加した。

類別では、二類感染症 2044 件、三類感染症 175 件、四類感染症 122 件、五類感染症 563 件であった。

平成 24 年報告総数の全国に占める割合は、前年から増加し 6.8%であった。最も割合の高かった類は五類感染症で 7.8%を占めた。

全数把握対象疾患の年別推移等は、資料 1「平成 24 年全数把握対象感染症保健所別報告数」を参照。

図 1 全数把握対象疾患の推移



《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

結核 2044 件であり、平成 23 年よりも減少した。

《三類感染症》

報告数は、前年よりも 9 件増加して 175 件であった。最も報告の多かった疾患は腸管出血性大腸菌感染症が 149 件で、前年よりも 17 件増加した。

表 1 三類感染症報告数（件）

疾患名	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年							全国
	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	(横 浜市)	(川 崎市)	(相 模原 市)	(横 須賀 市)	(藤 沢市)	神奈 川(左 を除 く)	
13 コレラ	3	3		3	2	2						3
14 細菌性赤痢	29	19	22	29	13	6	3	2			2	214
15 腸管出血性大腸菌感染症	173	173	168	132	149	87	23	7	4	7	21	3765
16 腸チフス	7	3	6		8	3	3				2	36
17 パラチフス	4	3	3	2	3	1					2	24
合 計	216	201	199	166	175	99	29	9	4	7	27	4042

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

《四類感染症》

8 疾患の報告があり、報告数は前年よりも 5 件減少して 122 件であった。最も報告の多かった疾患はレジオネラ症で 54 件、続いて、デング熱 19 件であった。

表 2 四類感染症報告数（件）

疾患名	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年							全国
	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	(横 浜市)	(川 崎市)	(相 模原 市)	(横 須賀 市)	(藤 沢市)	神奈 川(左 を除 く)	
18 E型肝炎	1	2	1	3	4	1	2				1	119
20 A型肝炎	17	7	28	10	16	8	1	3		3	1	158
21 エキノコックス症			1									17
23 オウム病	1	1		1								8
35 チクングニア熱	/	/	/	2	2	1				1		10
36 つつが虫病	12	22	21	29	13			2			11	436
37 デング熱	9	6	14	10	19	11	6				2	221
41 日本紅斑熱	1											170
51 マラリア	8	3	6	7	11	7	2				2	73
53 ライム病	1	1	1									11
56 類鼻疽			1	1								
57 レジオネラ症	58	37	55	64	54	25	7	2	6	7	7	898
58 レプトスピラ症	2	1			3	3						30
合 計	110	80	128	127	122	56	18	7	6	11	24	2160

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も計上

※平成23年2月よりチクングニア熱が追加された。

《五類感染症》

13 疾患の報告があり、報告数は 563 件であった。最も報告の多かった疾患が風しんで 259 件、次いで後天性免疫不全症候群が 90 件、アメーバ赤痢が 82 件であった。

表 3 五類感染症報告数（件）

疾患名	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年							全国
	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	(横 浜 市)	(川 崎 市)	(相 模 原 市)	(横 須 賀 市)	(藤 沢 市)	(左 を 除 く 神 奈 川 県)	
60 アメーバ赤痢	80	69	81	85	82	40	16	10	2	3	11	931
61 ウイルス性肝炎	10	16	13	12	4	1		1			2	235
62 急性脳炎	8	27	12	11	13	8	3	1			1	361
63 クリプトスポリジウム症												6
64 クロイツフェルト・ヤコブ病	14	10	9	6	8	3		2			3	183
65 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	6	12	10	13	2	5	3			3	243
66 後天性免疫不全症候群	90	79	79	92	90	44	13	11	3	4	15	1427
67 ジアルジア症	10	6	10	6	4	3	1					72
68 髄膜炎菌性髄膜炎		1	1		3	1		2				15
70 梅毒	30	34	33	43	50	15	15	2	6	4	8	891
71 破傷風	7	4	3	2	6	4	1	1				117
73 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	9	29	22	17	7	4		1	1		1	91
74 風しん	31	13	8	64	259	113	71	3	5	12	55	2391
75 麻しん	3555	97	78	45	24	4	4	4	1		11	285
合計	3848	391	361	393	563	242	129	41	18	23	110	7253

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による
 ※擬似症・無症状病原体保有者を含む
 ※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も計上
 ※平成20年1月より風しん、麻しんが追加された。

2 定点把握の対象疾患

(1) 定点

定点把握の対象疾患の情報は、予め指定した医療機関から報告され、その医療機関のことを定点という。定点の数は人口に応じて決められている。定点は5種類あり、報告する疾患が分かれている。神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

	県域	横浜市	川崎市	相模原市	計
インフルエンザ定点	116	152	54	23	345
小児科定点	73	92	33	15	213
眼科定点	16	19	7	4	46
STD(性感染症)定点	23	27	7	5	62
基幹定点	5	4	2	1	12

○インフルエンザ定点

対象疾患名： インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

○小児科定点

対象疾患名： RS ウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・百日咳・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎

○眼科定点

対象疾患名： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

○基幹定点

対象疾患名： クラミジア肺炎（オウム病を除く）・細菌性髄膜炎・マイコプラズマ肺炎・無菌性髄膜炎・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・薬剤耐性アシネトバクター感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

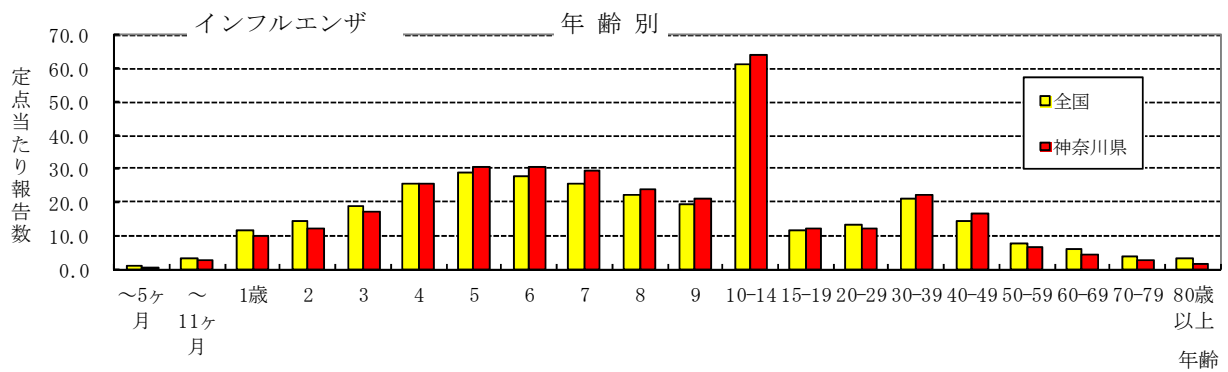
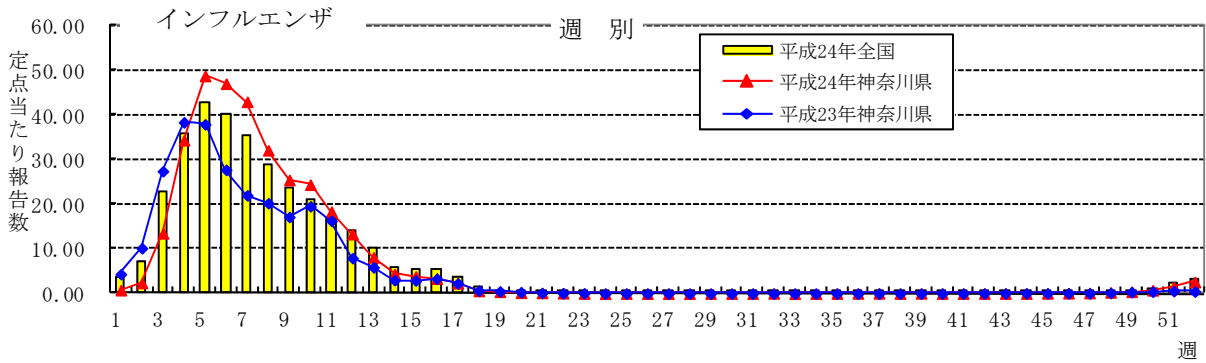
○STD定点

対象疾患名： 性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

(2) 週報対象疾患（神奈川県全県）

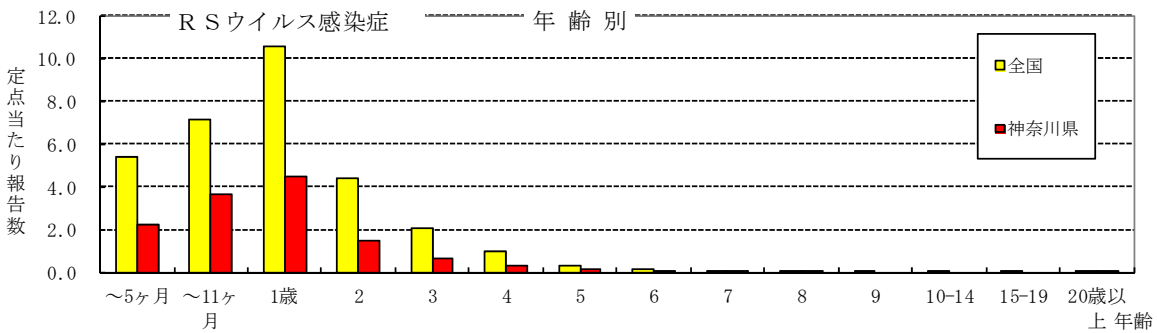
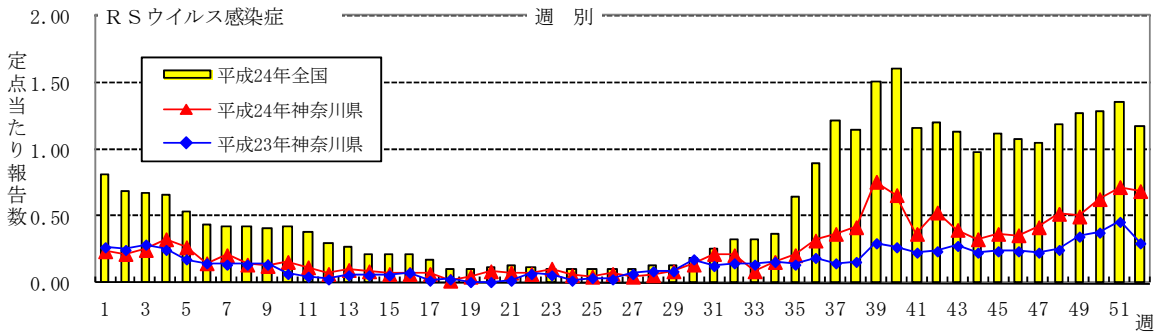
インフルエンザ

第5週に流行のピークがみられ、年齢別では、10～14歳に報告が多かった。



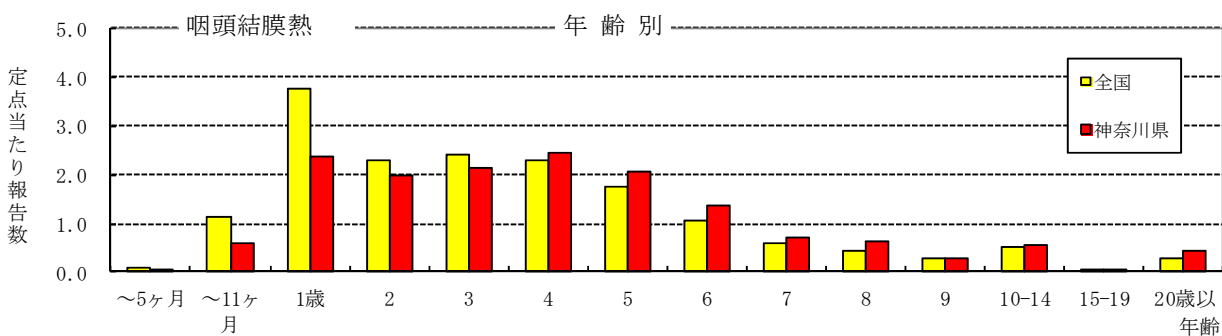
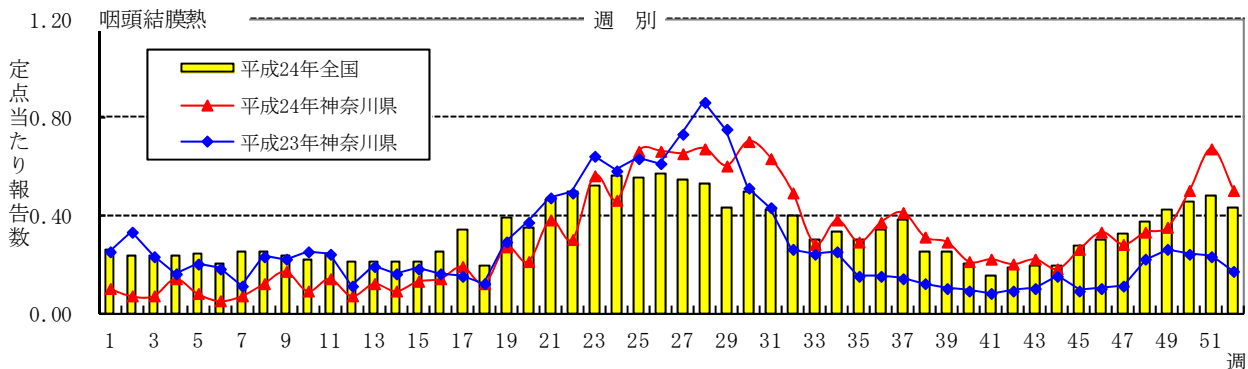
RSウイルス感染症

例年より早く第33週以降に増加し、第39週にピークがみられた。年齢別では、1歳以下に報告が多かった。



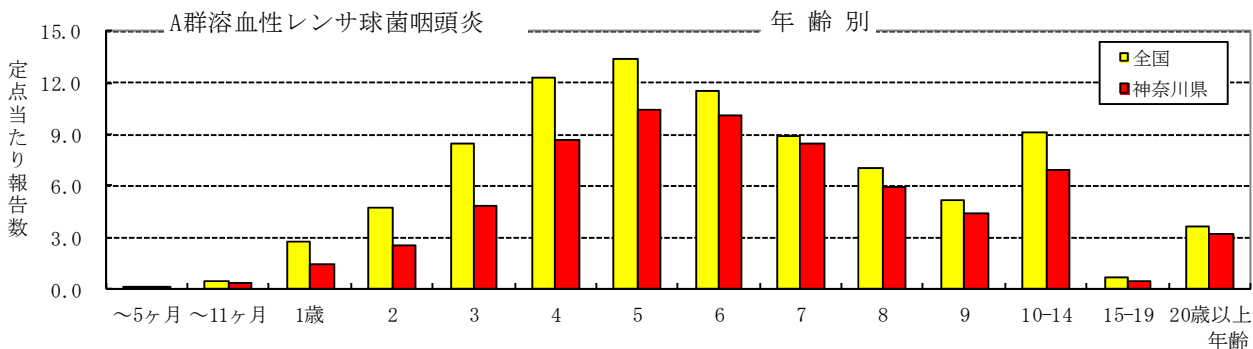
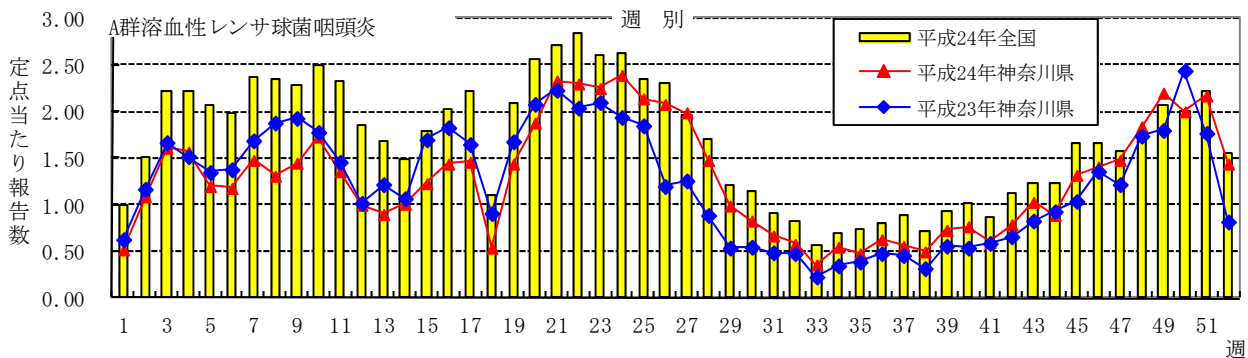
咽頭結膜熱

第25週～第30週に流行がみられたのち、第51週にも流行のピークがみられた。年齢別では、1歳から5歳を中心に報告が多かった。



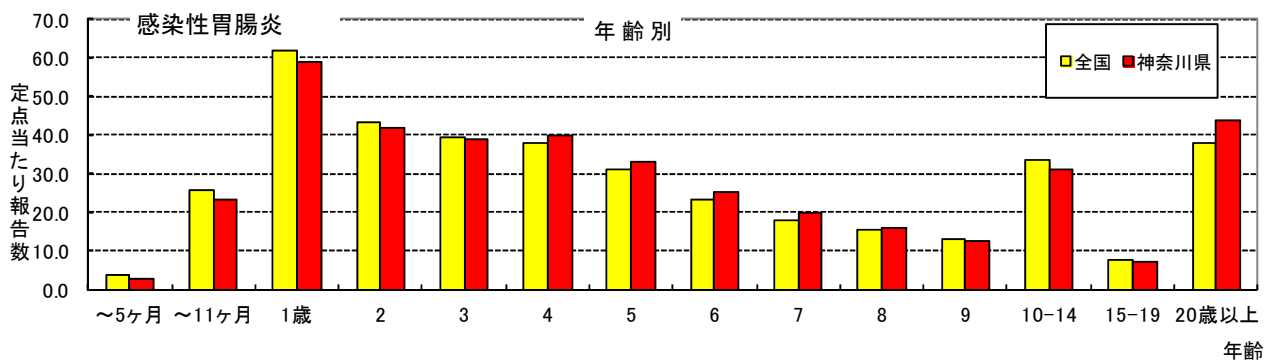
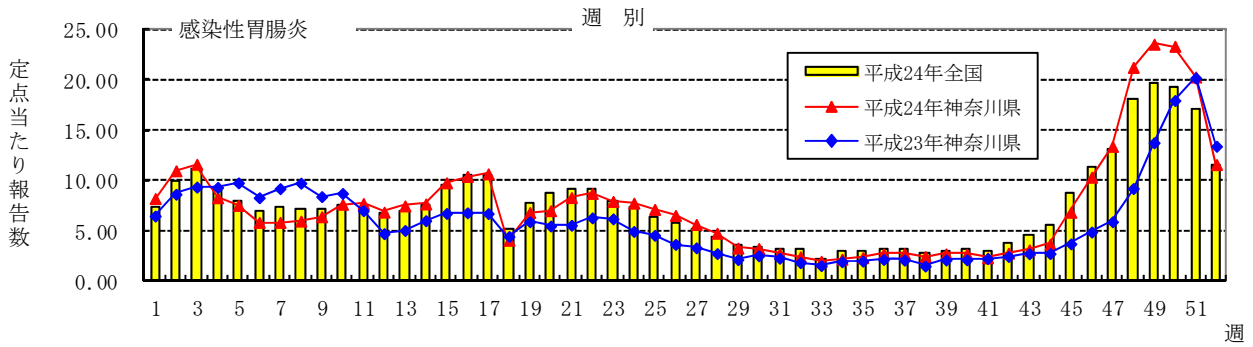
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

冬～春、初夏、に報告が増加し、例年と同様の流行であった。年齢別では5歳から6歳を中心に報告が多かった。



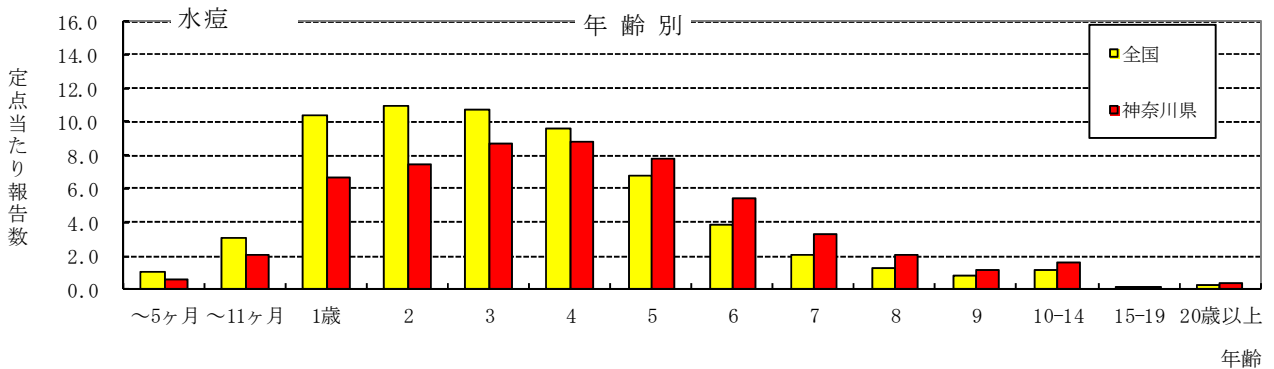
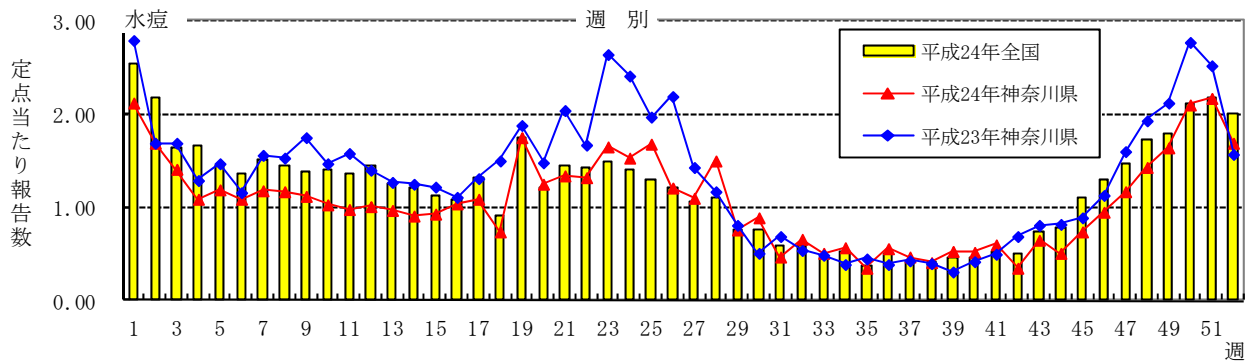
感染性胃腸炎

第49週に流行のピークがみられ、年齢別では、1歳に報告が多かった。



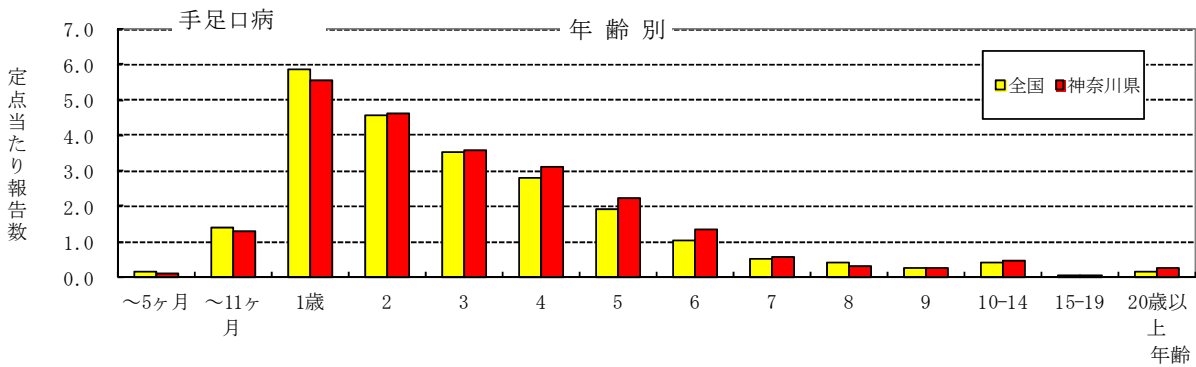
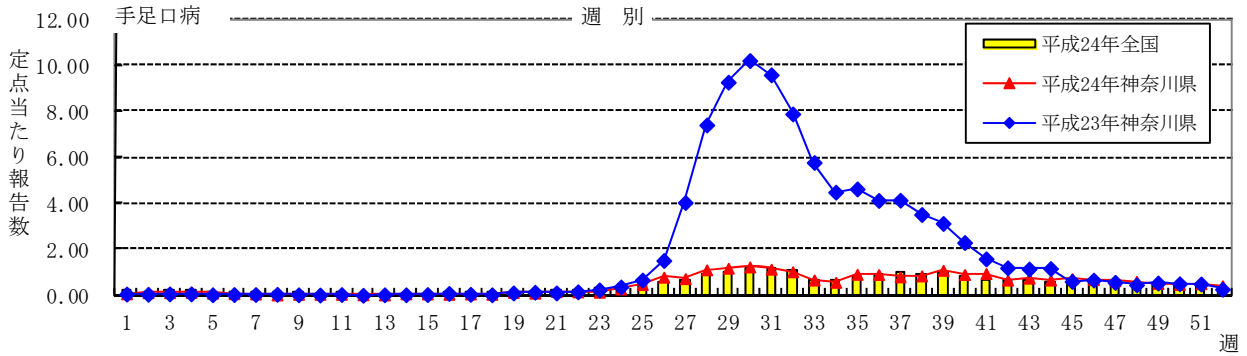
水痘

8~10月には報告が減少し、例年と同様の流行であった。年齢別では1歳から5歳に報告が多かった。



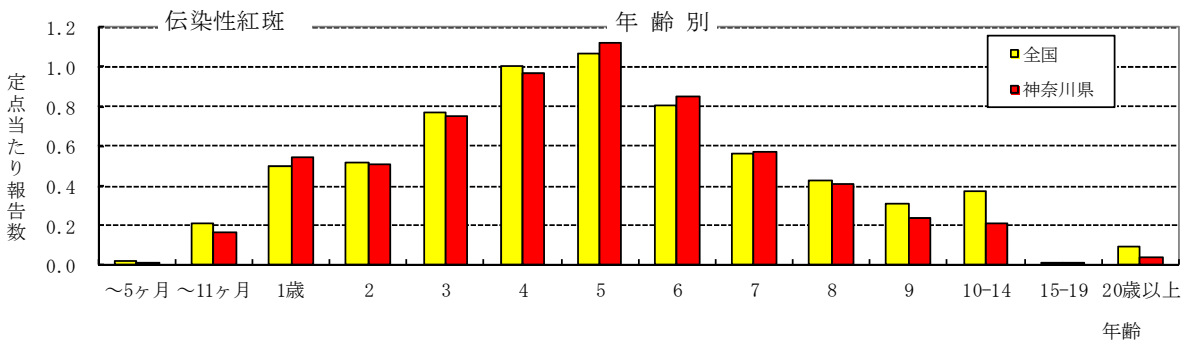
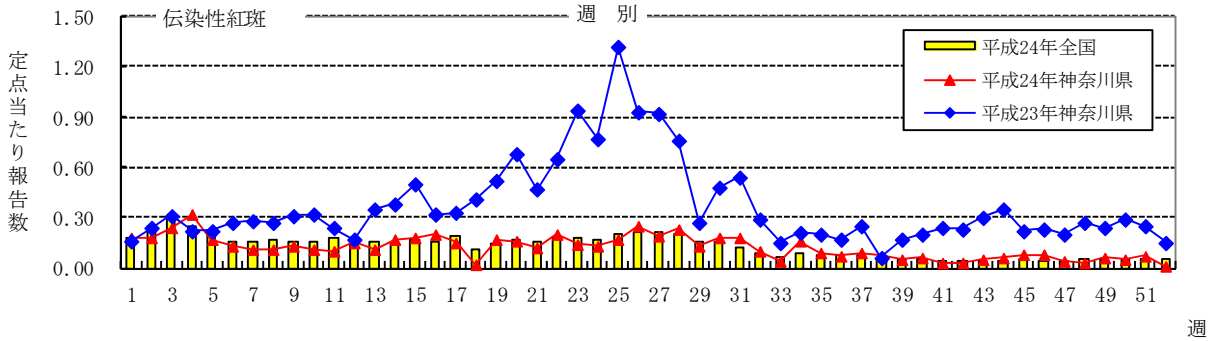
手足口病

平成 23 年の流行と比較し、明らかな流行のピークはみられなかった。年齢別では、1 歳を中心に報告が多かった。



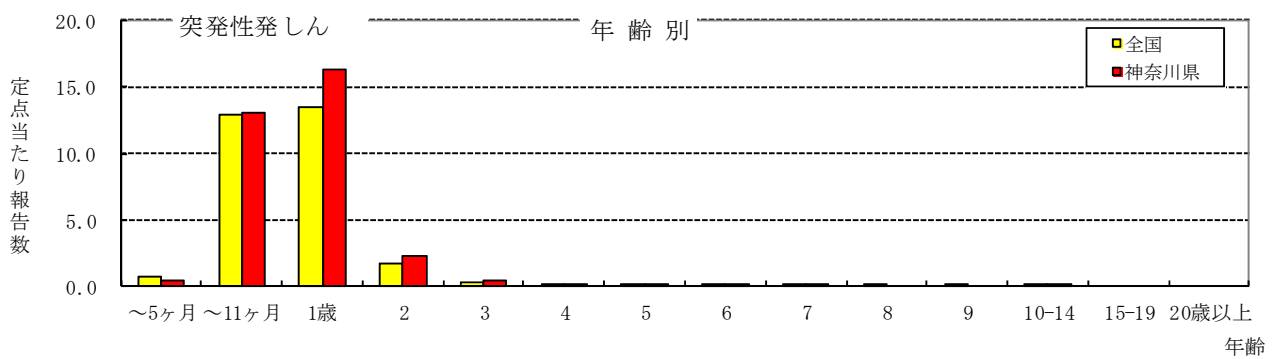
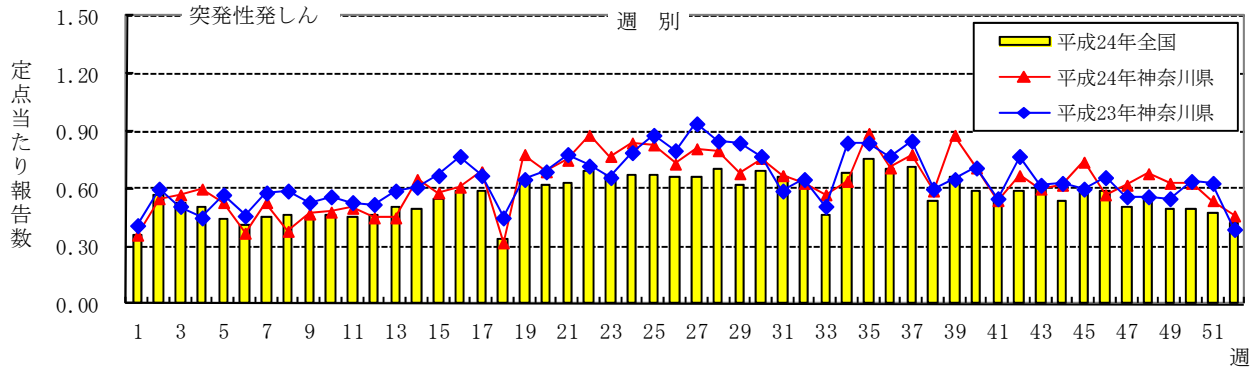
伝染性紅斑

平成 23 年の流行と比較し、明らかな流行のピークはみられなかった。年齢別では、5 歳を中心に報告が多かった。



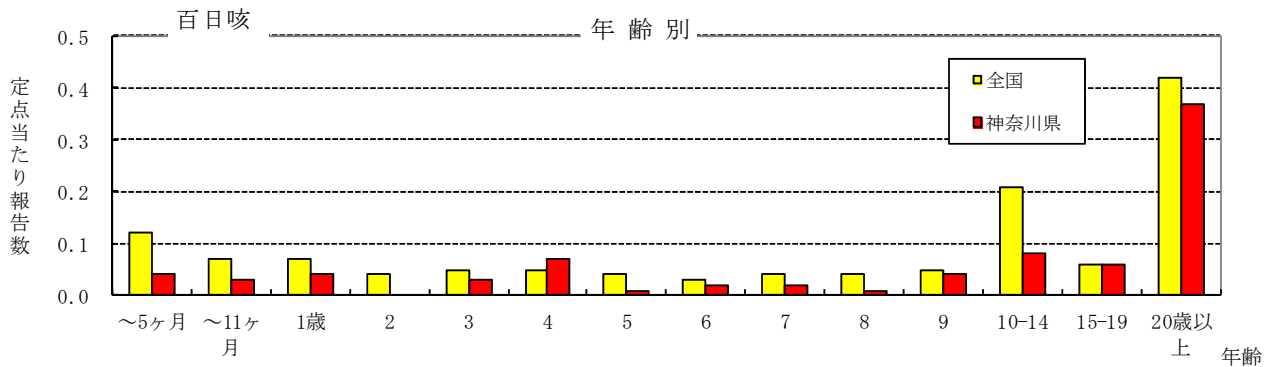
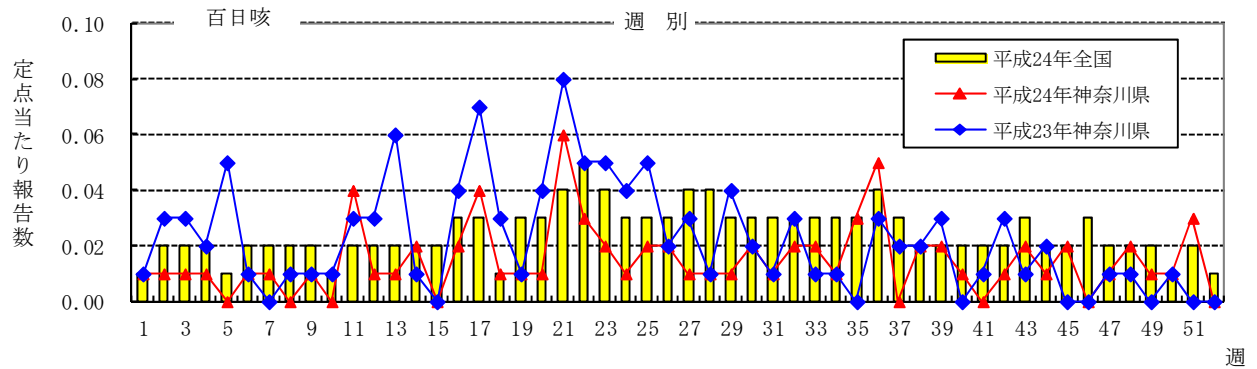
突発性発しん

例年と同様に年間を通して報告がみられ、年齢別では6ヶ月から1歳を中心に報告が多かった。



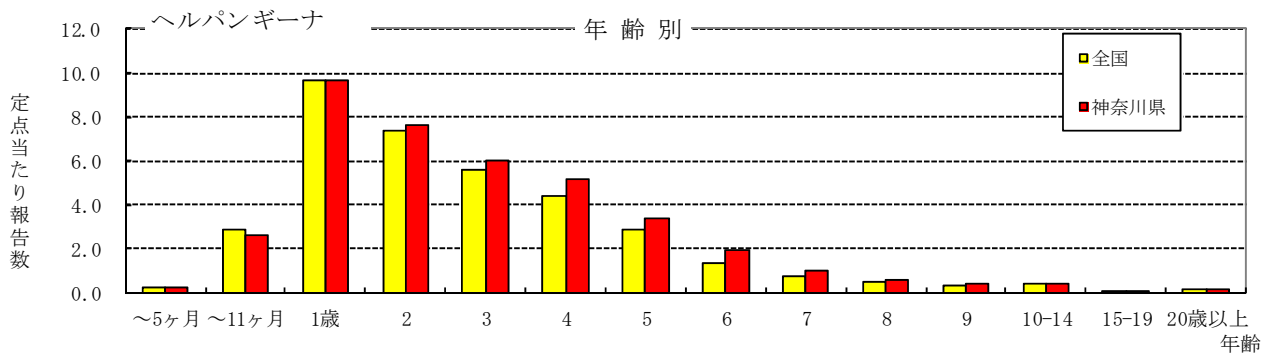
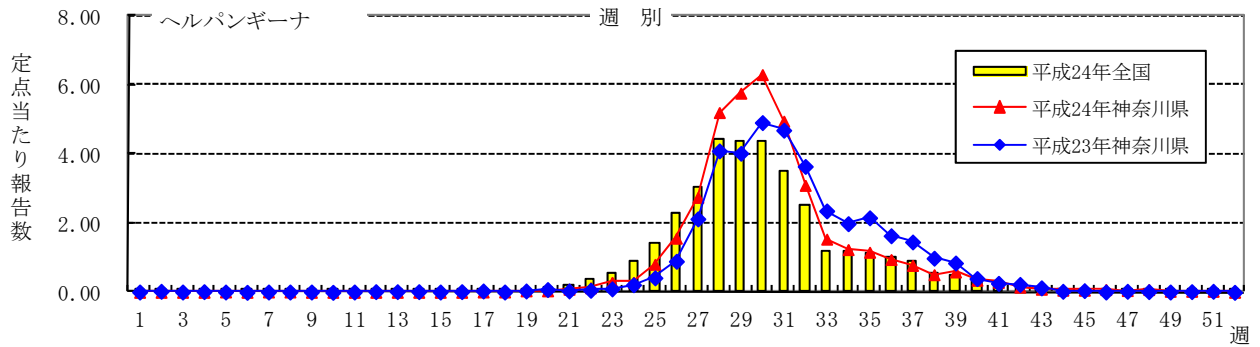
百日咳

平成23年よりも報告は減少した。年齢別では、20歳以上の報告が多かった。



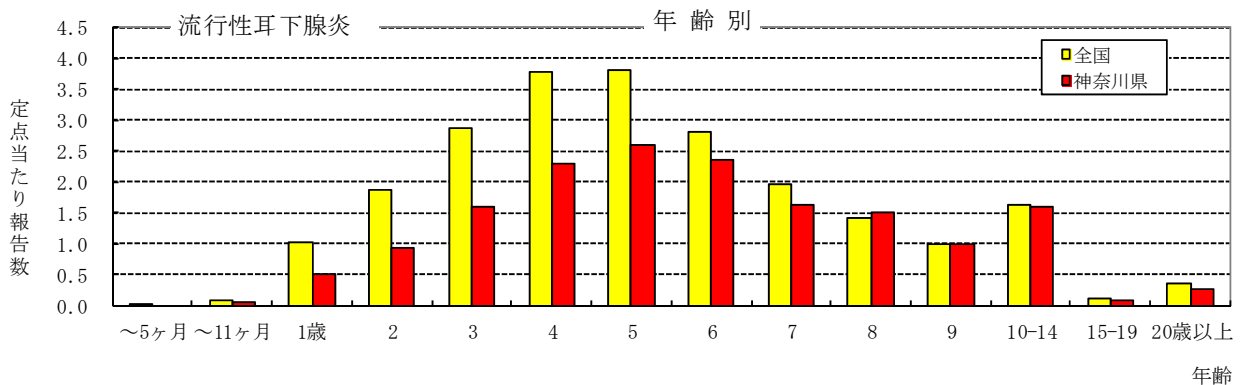
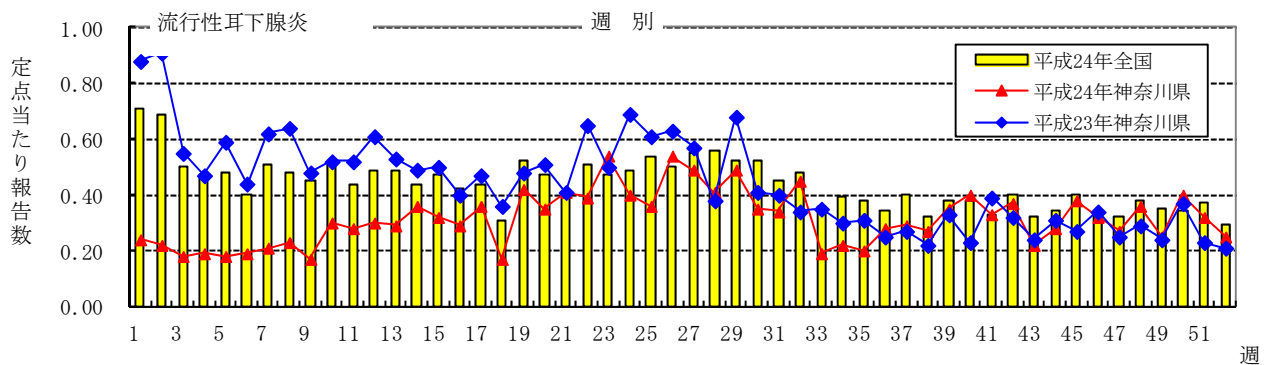
ヘルパンギーナ

第30週に流行のピークがみられ、年齢別では1歳を中心に報告が多かった。



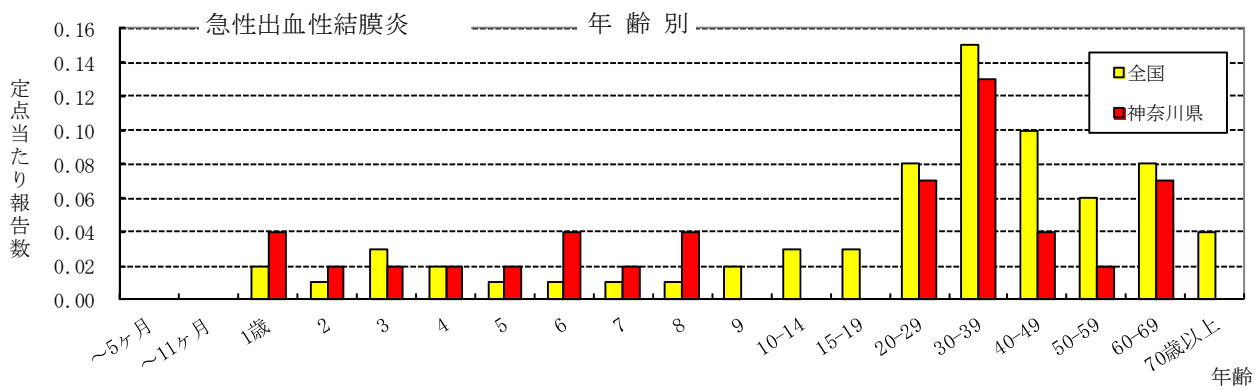
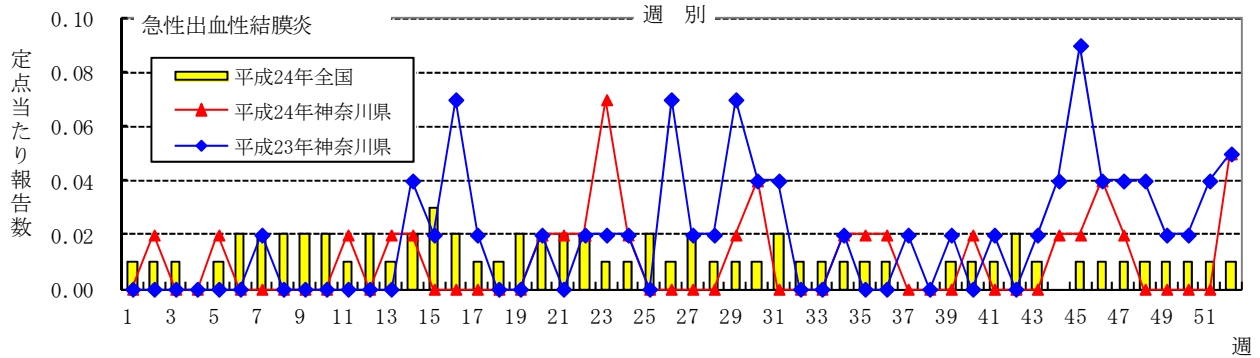
流行性耳下腺炎

年間を通して報告が見られ、平成23年よりも報告が減少した。年齢別では4歳から6歳を中心に報告が多かった。



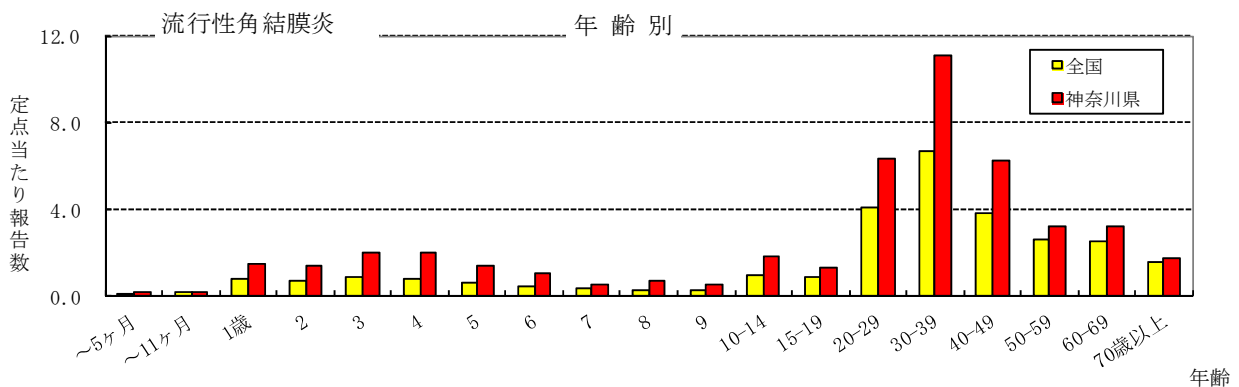
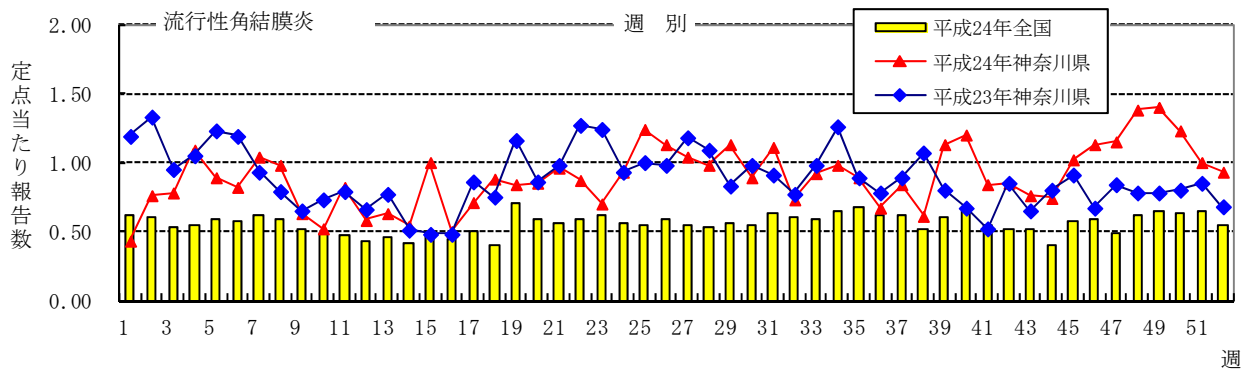
急性出血性結膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では30～39歳に報告が多かった。



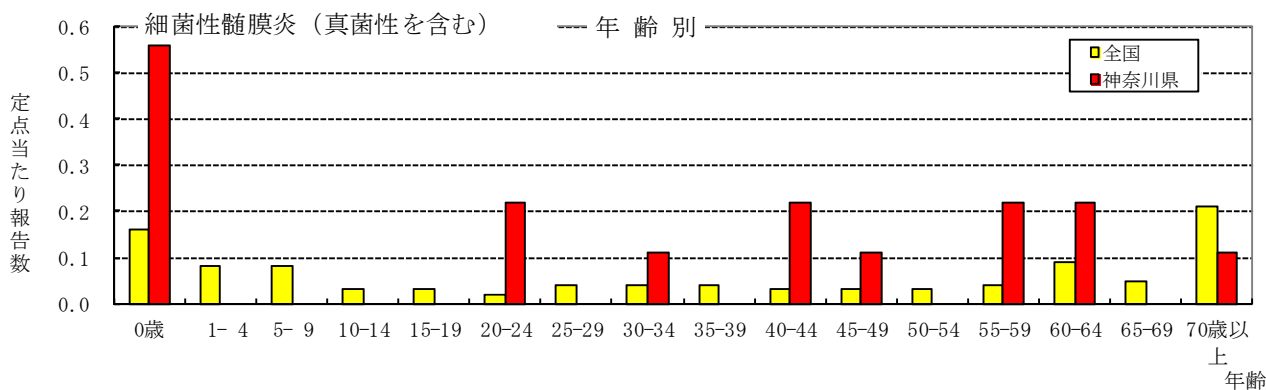
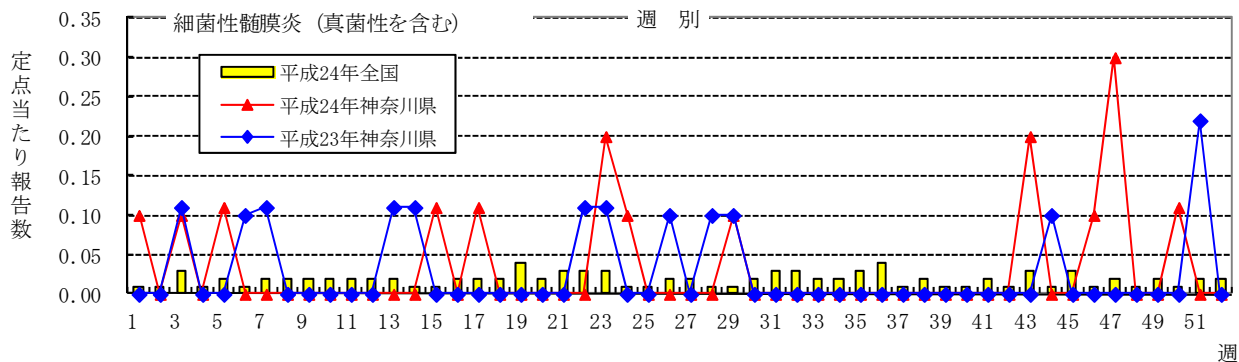
流行性角結膜炎

年間を通して報告が見られた。年齢別では30～39歳に報告が多かった。



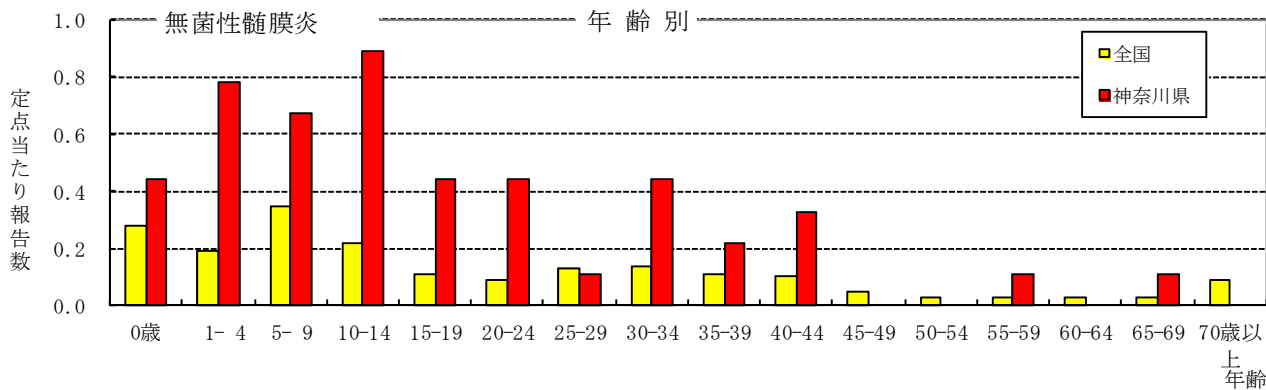
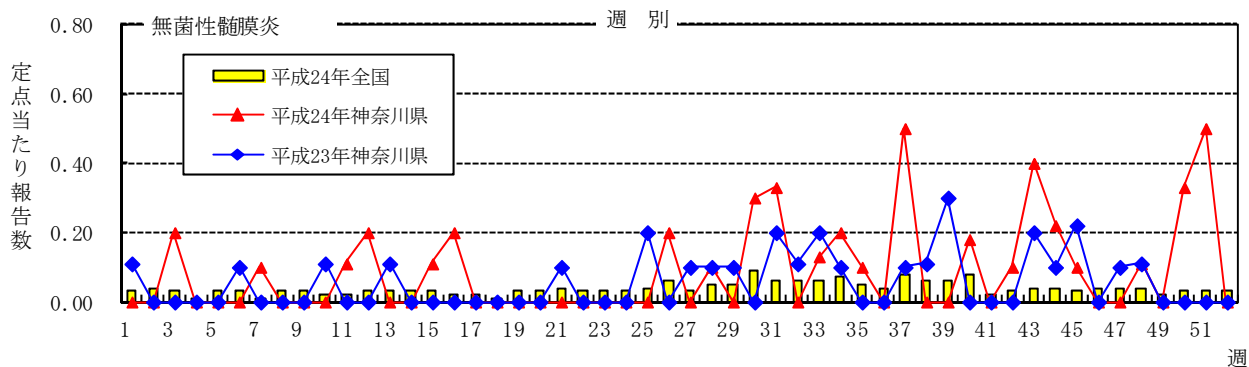
細菌性髄膜炎

散発的な報告がみられ、年齢別では0歳に報告が多かった。



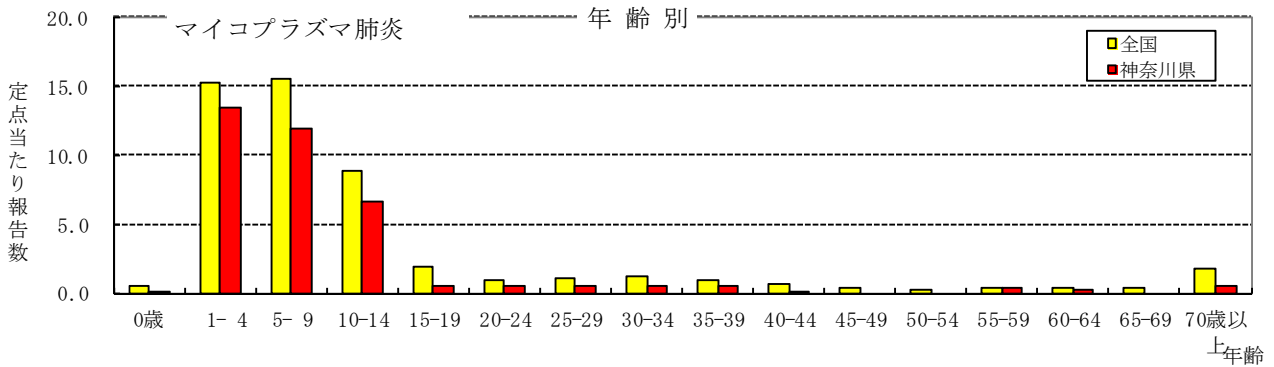
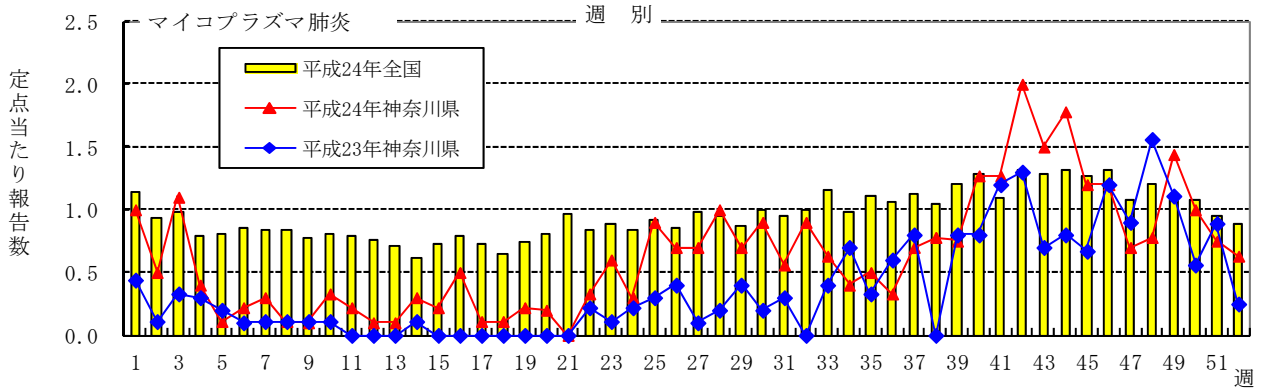
無菌性髄膜炎

散発的な報告がみられ、年齢別では10～14歳に報告が多かった。



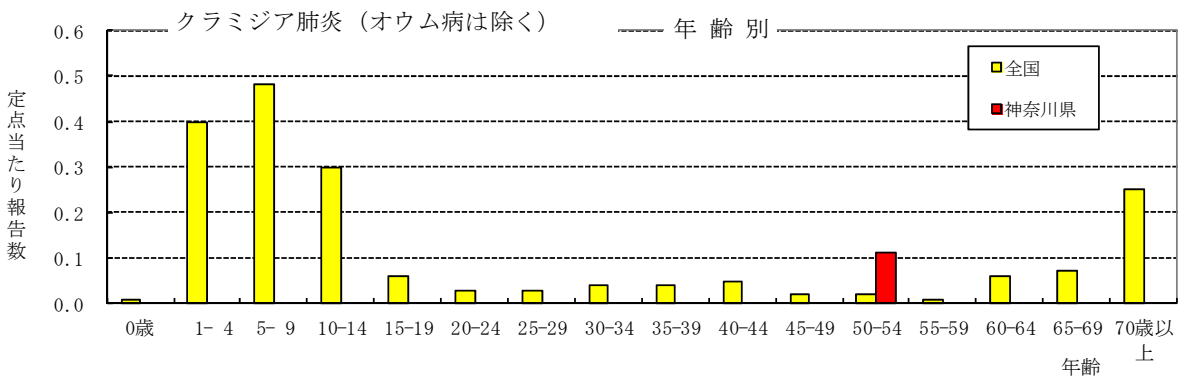
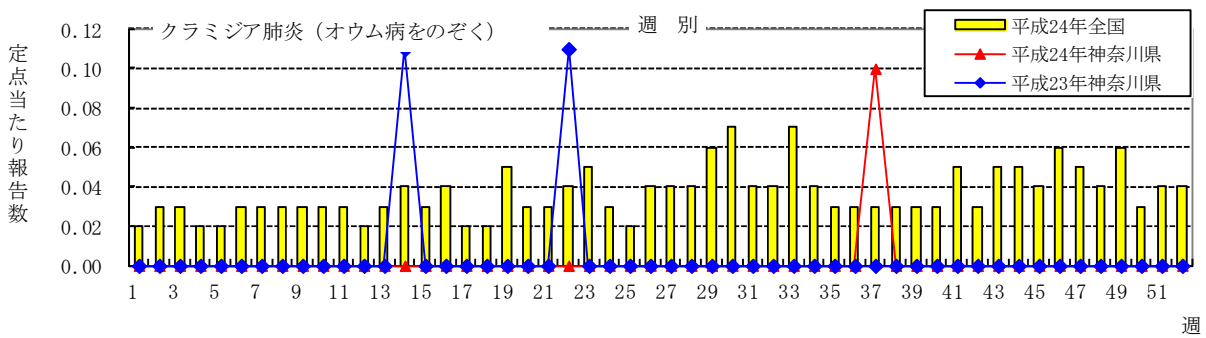
マイコプラズマ肺炎

第42週に流行のピークがみられ、平成23年よりも報告が多かった。年齢別では1～14歳を中心に報告が多かった。



クラミジア肺炎（オウム病をのぞく）

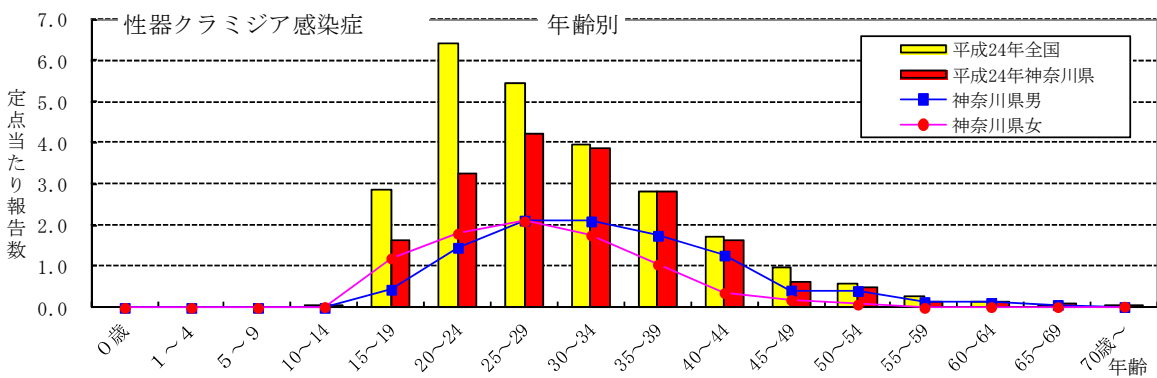
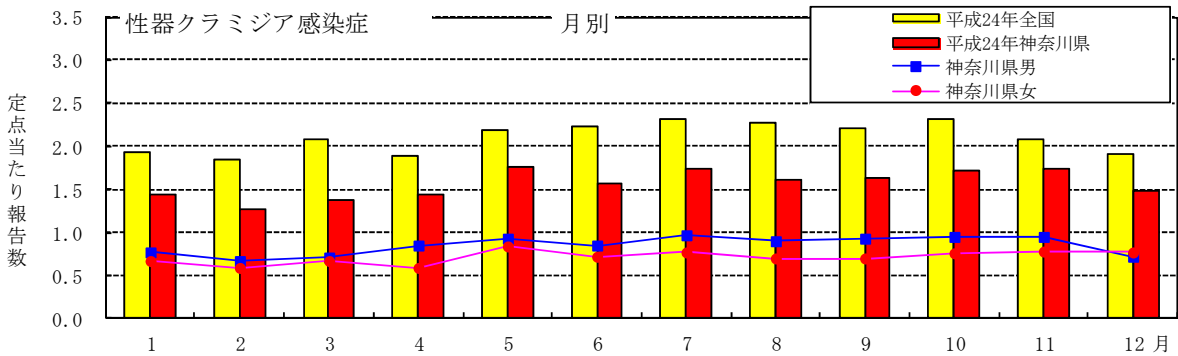
神奈川県では1例の報告があり、年齢別では50～54歳であった。



(3) 月報対象疾患（神奈川県全県）

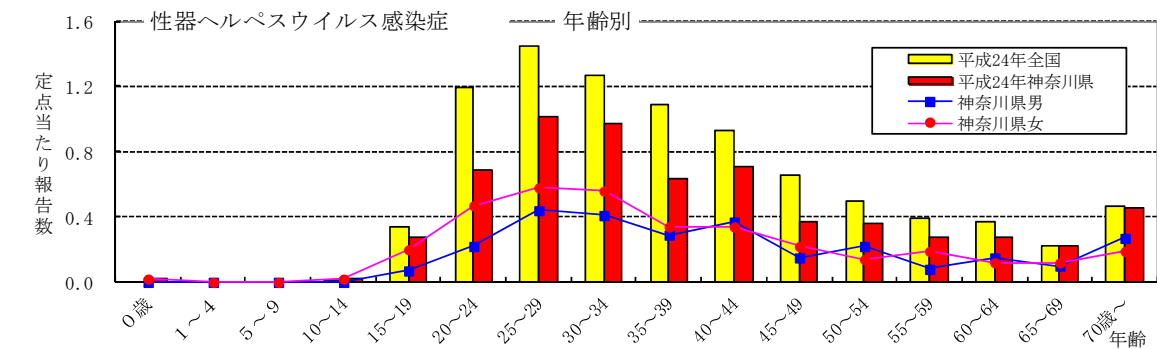
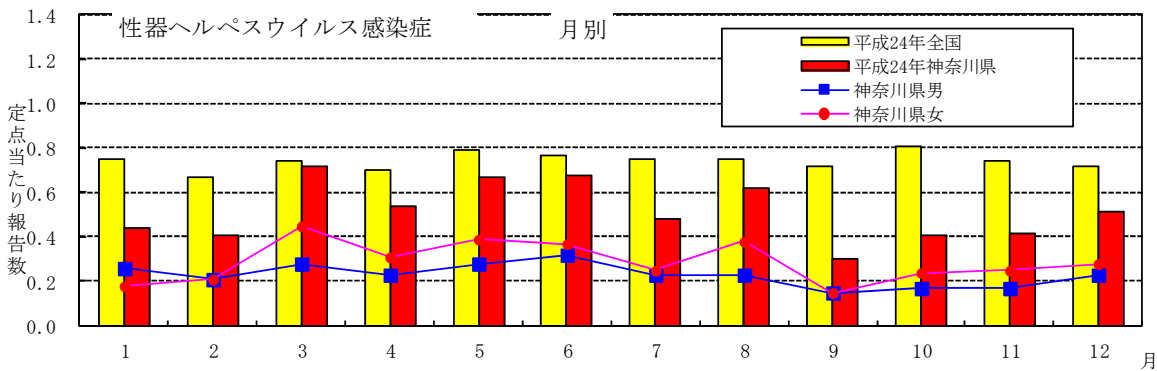
性器クラミジア感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では男は25～29歳、30～34歳、女は25～29歳に報告が多かった。



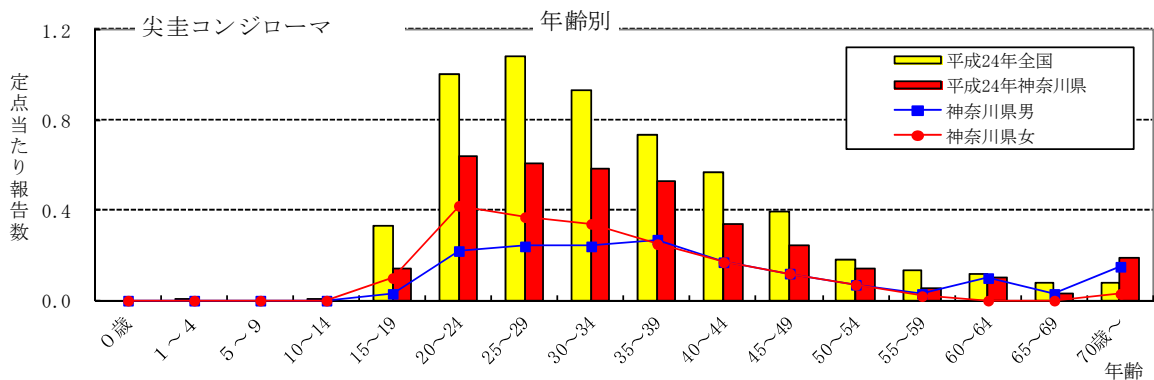
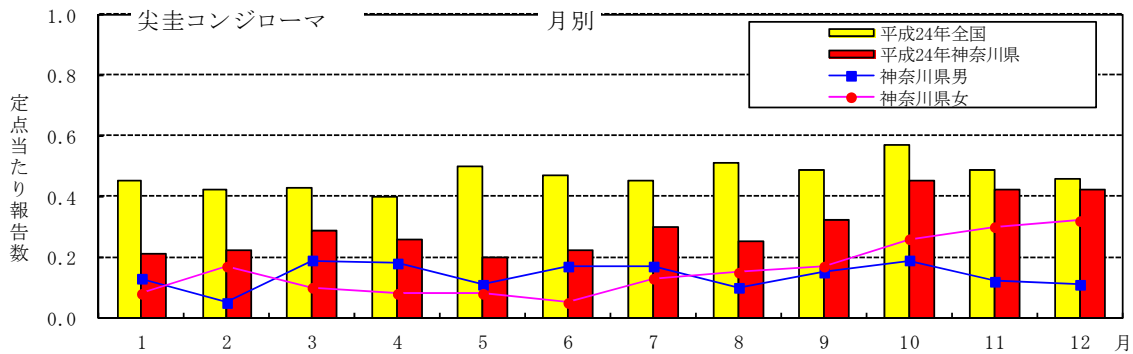
性器ヘルペスウイルス感染症

男女ともに年間を通して報告がみられ、年齢別では男女ともに25～29歳、30～34歳に報告が多かった。



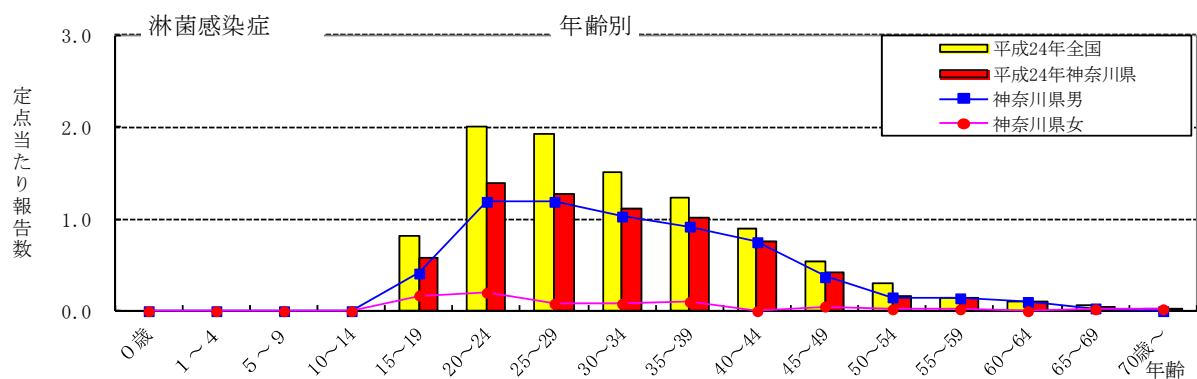
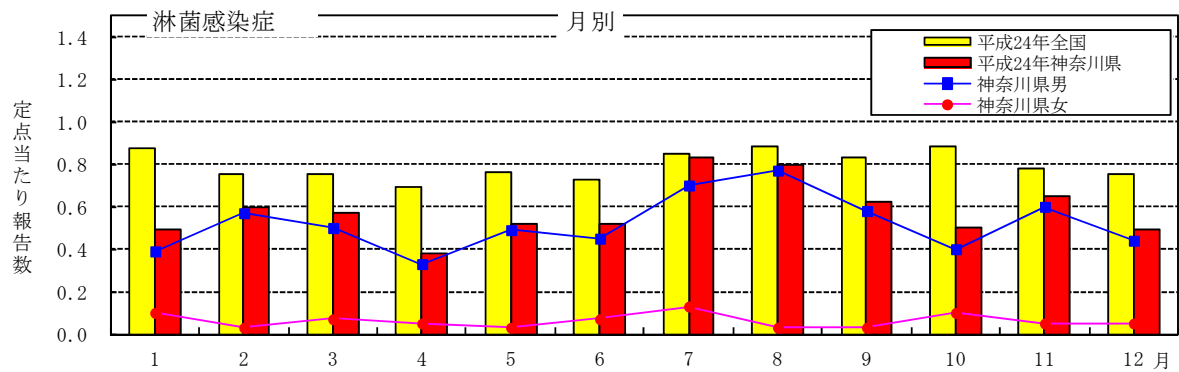
尖圭コンジローマ

男は年間を通して報告がみられ、女は10月～12月に報告が多かった。年齢別では男は20～39歳、女は20～24歳に報告が多かった。



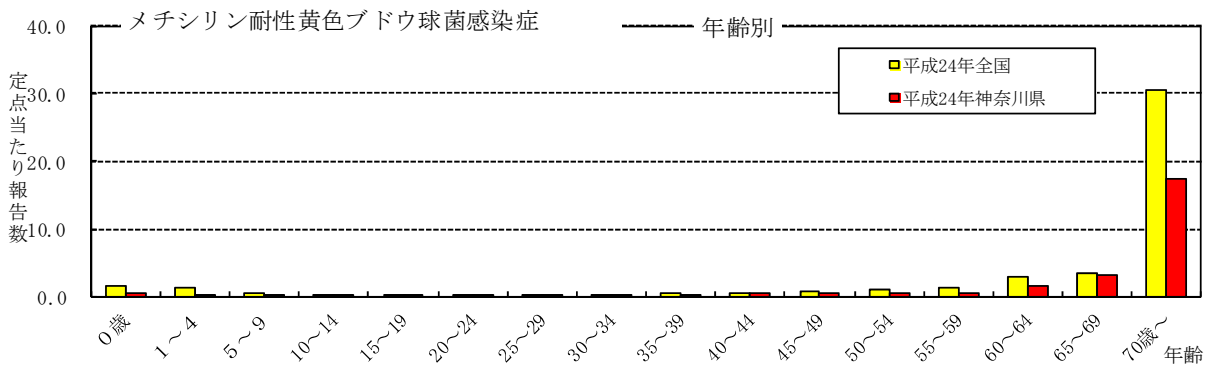
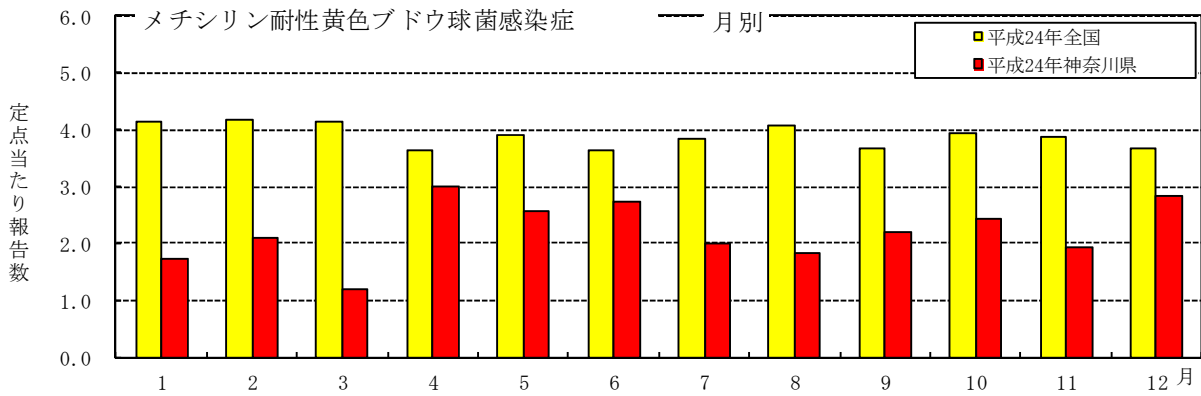
淋菌感染症

男は年間を通して報告がみられたが、女は年間を通して報告が少なかった。年齢別では男は20～29歳、女は15～24歳に報告が多かった。



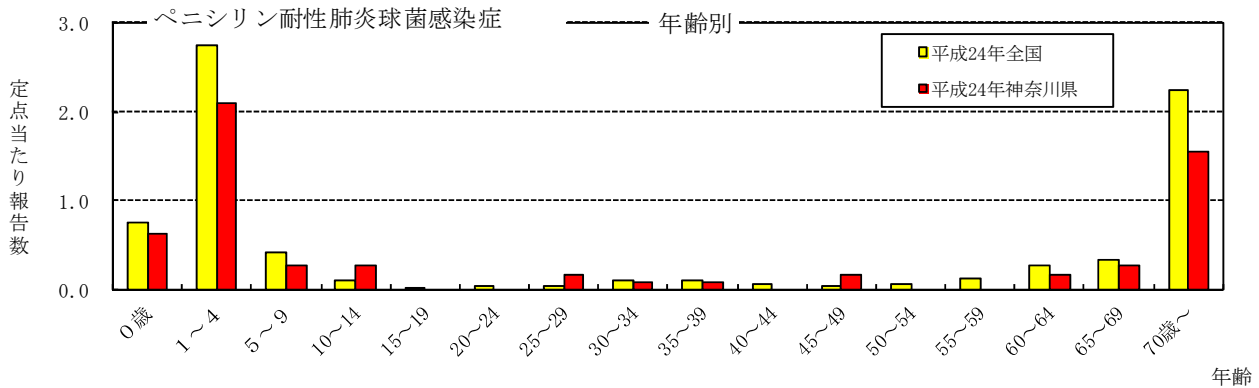
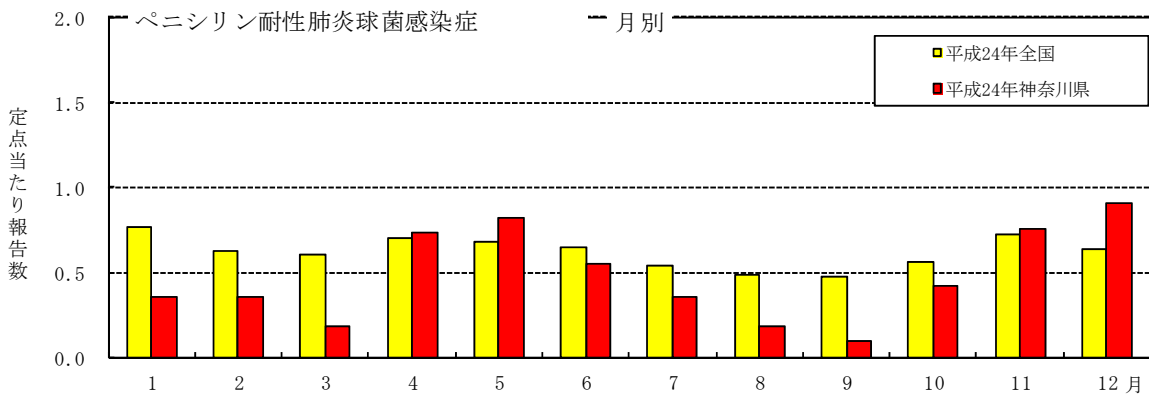
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間を通して報告がみられ、年齢別では70歳以上に報告が多かった。



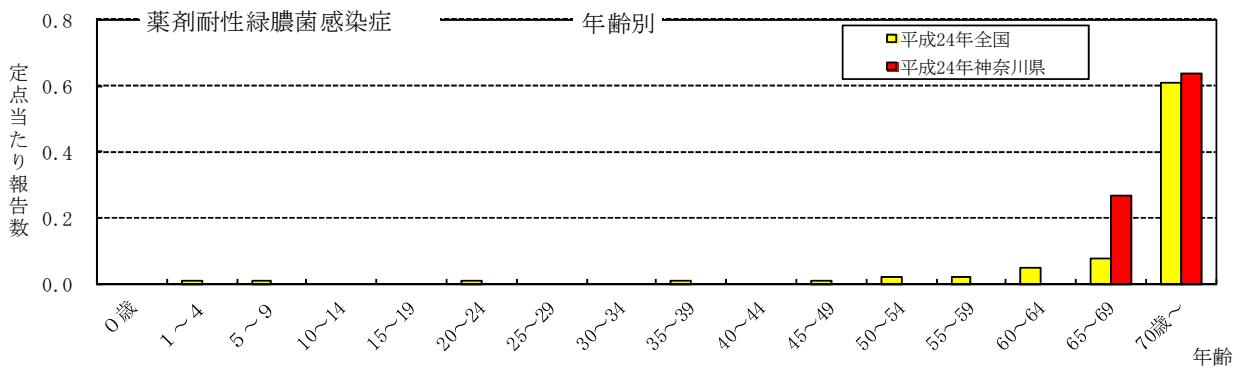
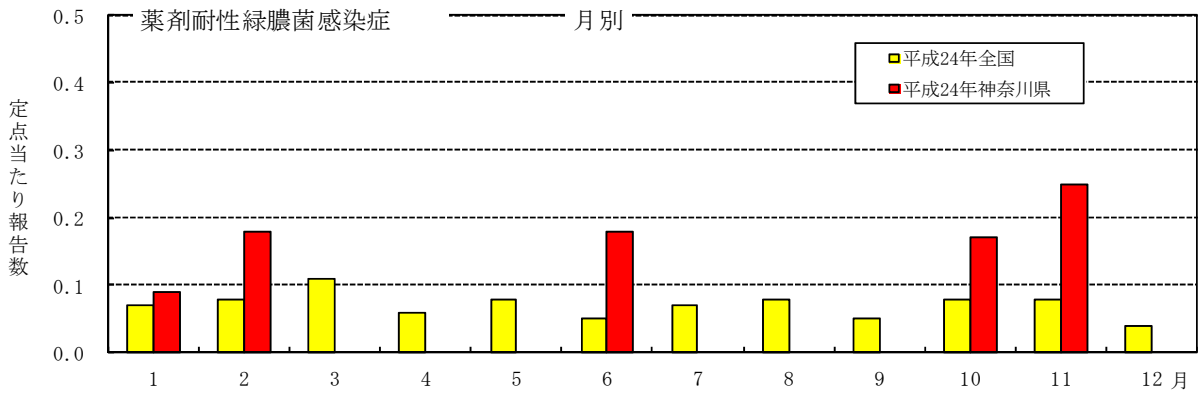
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

5月と12月に報告が多かった。年齢別では、1~4歳と70歳以上に報告が多かった。



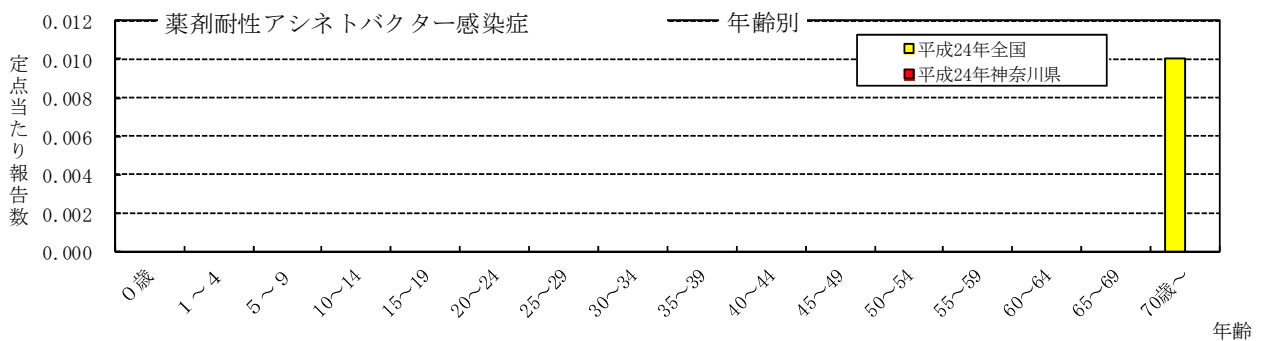
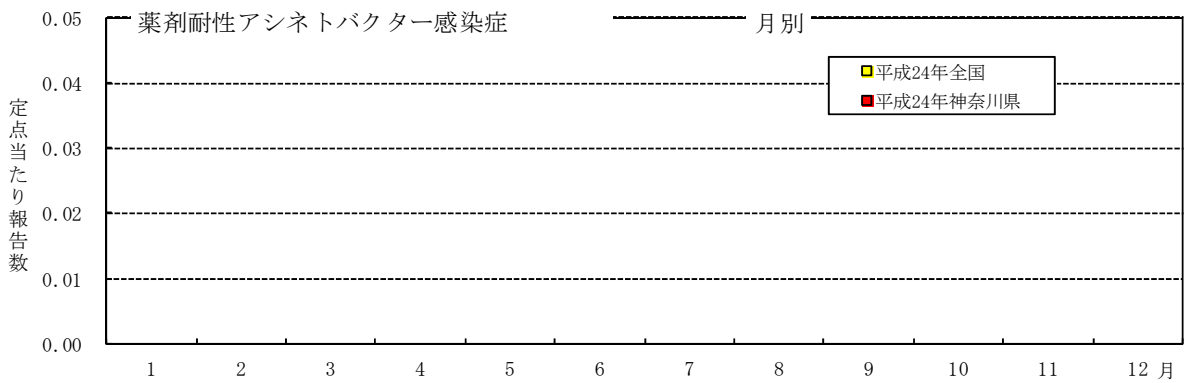
薬剤耐性緑膿菌感染症

11月に報告が多く、年齢別では70歳以上に報告が多かった。



薬剤耐性アシネトバクター感染症

神奈川県内では、報告がみられなかった。



3 トピックス

< 神奈川県 HIV/エイズの概要 > (速報値)

平成 24 年の神奈川県 HIV 感染者・エイズ患者数は、総数で 99 人であった。感染者、患者ともに 2 年連続して増加した。(表 1)。

表 1 HIV 感染者・エイズ患者の性別年次推移 (神奈川県) (人)

		平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	昭和60年からの累計
男性	総数	74	59	66	84	80	73	69	75	91	1,256
	感染者	46	41	44	52	59	51	49	51	58	809
	患者	28	18	22	32	21	22	20	24	33	447
女性	総数	8	10	12	12	12	8	8	8	8	248
	感染者	8	7	9	7	7	6	6	7	6	190
	患者	0	3	3	5	5	2	2	1	2	58
合計	総数	82	69	78	96	92	81	77	83	99	1,504
	感染者	54	48	53	59	66	57	55	58	64	999
	患者	28	21	25	37	26	24	22	25	35	505

(平成 24 年 12 月 31 日現在)

HIV 検査実施件数は、4 年連続して減少し、平成 24 年は前年比 3.6%減の 9209 件であった。(表 2)

表 2 HIV 検査実施件数年次推移 (件)

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
県域	1,247	1,553	2,258	3,078	3,071	2,939	2,585	2,409	2,208
横浜市	3,197	3,601	4,432	5,092	5,087	4,754	4,031	4,169	4,057
川崎市	2,077	1,943	2,083	2,381	2,432	2,207	1,831	1,789	1,753
横須賀市	299	293	298	440	352	322	340	262	262
相模原市	401	477	434	585	559	584	486	491	499
藤沢市			115	192	388	367	383	436	430
合計	7,221	7,867	9,620	11,768	11,889	11,173	9,656	9,556	9,209
前年比 (%)	12.8	8.9	22.3	22.3	1.0	-6.0	-13.6	-1.0	-3.6

* 自治体を実施する保健所以外の検査を含みます。

(平成 24 年 12 月 31 日現在)

(※表 1・表 2 数値：県健康危機管理課提供)

< 資料 >

資料 1 平成 24 年全数把握対象感染症保健所別報告数

(平成 25 年 3 月現在)

(単位：件)

全数類型	二類		三類					四類															五類															保 健 所 別 計		
	感染症番号	8	9	13	14	15	16	17	18	20	21	23	28	35	36	37	41	51	53	56	57	58	60	61	62	63	64	65	66	67	68	70	71	73	74	75				
																																					急性灰白髄炎		結核	二類計
保健所名等																																								
20年 神奈川県合計	0	1965	1965	3	29	173	7	4	216	1	17	0	1	0	0	12	9	1	8	1	0	58	2	110	80	10	8	0	14	4	90	10	0	30	7	9	31	3555	3848	6139
21年 神奈川県合計	0	1890	1890	3	19	173	3	3	201	2	7	0	1	0	0	22	6	0	3	1	0	37	1	80	69	16	27	0	10	6	79	6	1	34	4	29	13	97	391	2562
22年 神奈川県合計	1	1994	1995	0	22	168	6	3	199	1	28	1	0	0	0	21	14	0	6	1	1	55	0	128	81	13	12	0	9	12	79	10	1	33	3	22	8	78	361	2683
23年 神奈川県合計	0	2155	2155	3	29	132	0	2	166	3	10	0	1	0	2	29	10	0	7	0	1	64	0	127	85	12	11	0	6	10	92	6	0	43	2	17	64	45	393	2841
24年 神奈川県合計	0	2044	2044	2	13	149	8	3	175	4	16	0	0	0	2	13	19	0	11	0	0	54	3	122	82	4	13	0	8	13	90	4	3	50	6	7	259	24	563	2904
横浜市計	0	855	855	2	6	87	3	1	99	1	8	0	0	0	1	0	11	0	7	0	0	25	3	56	40	1	8	0	3	2	44	3	1	15	4	4	113	4	242	1252
鶴見区	0	69	69	0	0	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	10	1	14	89	
神奈川区	0	57	57	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	5	0	12	72	
西区	0	25	25	0	0	6	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	16	0	0	0	0	0	1	0	0	0	14	0	31	63	
中区	0	79	79	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	5	0	1	0	0	0	7	0	1	3	0	0	14	0	31	116
南区	0	57	57	0	0	4	0	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	5	1	0	3	0	0	0	5	0	0	2	0	0	3	0	14	80
港南区	0	63	63	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	5	71	
保土ヶ谷区	0	46	46	0	5	7	2	1	15	0	0	0	0	0	1	0	10	0	6	0	0	2	3	22	2	0	1	0	0	1	19	0	0	4	1	0	18	1	47	130
旭区	0	59	59	0	0	16	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	8	0	13	88
磯子区	0	34	34	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	39	
金沢区	0	46	46	2	1	1	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	4	5	0	0	0	2	1	3	0	0	0	0	3	0	14	68	
港北区	0	46	46	0	0	11	0	0	11	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2	10	0	16	75
緑区	0	38	38	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	0	6	47	
青葉区	0	67	67	0	0	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5	81
都筑区	0	31	31	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	4	0	10	47
戸塚区	0	45	45	0	0	5	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	7	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	2	0	6	1	13	70
栄区	0	27	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	4	31
泉区	0	51	51	0	0	5	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3	61
瀬谷区	0	15	15	0	0	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	24	
川崎市計	0	374	374	0	3	23	3	0	29	2	1	0	0	0	0	6	0	2	0	0	7	0	18	16	0	3	0	0	5	13	1	0	15	1	0	71	4	129	550	
川崎市	0	108	108	0	0	6	1	0	7	0	1	0	0	0	0	2	0	2	0	0	3	0	8	4	0	0	0	0	2	6	0	0	10	0	0	15	1	38	161	
幸区	0	34	34	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	12	0	16	52	
中原区	0	50	50	0	1	5	2	0	8	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	0	10	1	21	82
高津区	0	38	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	15	54		
宮前区	0	47	47	0	1	3	0	0	4	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	3	0	3	0	3	0	0	2	1	1	0	1	0	0	12	0	23	77
多摩区	0	70	70	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	1	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	5	2	12	87
麻生区	0	27	27	0	1	5	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	4	37
相模原市計	0	149	149	0	2	7	0	0	9	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	7	10	1	1	0	2	3	11	0	2	2	1	1	3	4	41	206	
横浜須賀野市計	0	118	118	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	2	0	0	0	0	0	3	0	0	6	0	1	5	1	18	146	
藤沢市計	0	67	67	0	0	7	0	0	7	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	0	11	3	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	12	0	23	108
県域計	0	481	481	0	2	21	2	2	27	1	1	0	0	0	0	11	2	0	2	0	7	0	24	11	2	1	0	3	3	15	0	0	8	0	1	55	11	110	642	
平塚市	0	95	95	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	4	0	10	107	
鎌倉市	0	52</																																						

< PART II > 平成 24 年地域における感染症発生状況の概要

I 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況

昨年はインフルエンザウイルス AHpdm09 の動向が注目され、平成 23 年のインフルエンザウイルス AHpdm09 は 576 件の検出だったが、平成 24 年は 1 件の検出のみであった。一方、インフルエンザウイルス AH3 は昨年より 2 倍以上の検出で 705 件だった。ノロウイルスは 11 月から検出が多くなり 11 月と 12 月の検出数は昨年の同期間より 2 倍近い検出で 251 件であった（図 1）。

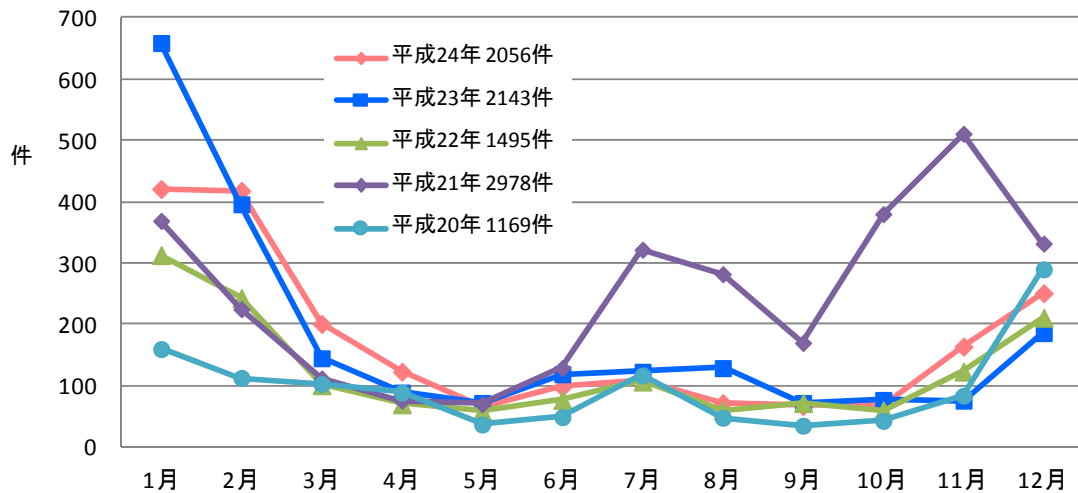


図 1 ウイルス月別検出状況年別比較

検出ウイルス種類別で多い順は、インフルエンザウイルス AH3(34.3%)、ノロウイルス (21.0%)、インフルエンザウイルス B(14.3%)であり、インフルエンザウイルスが検出ウイルス全体の 50%近くを、ノロウイルスが約 20%を占めた（図 2）。

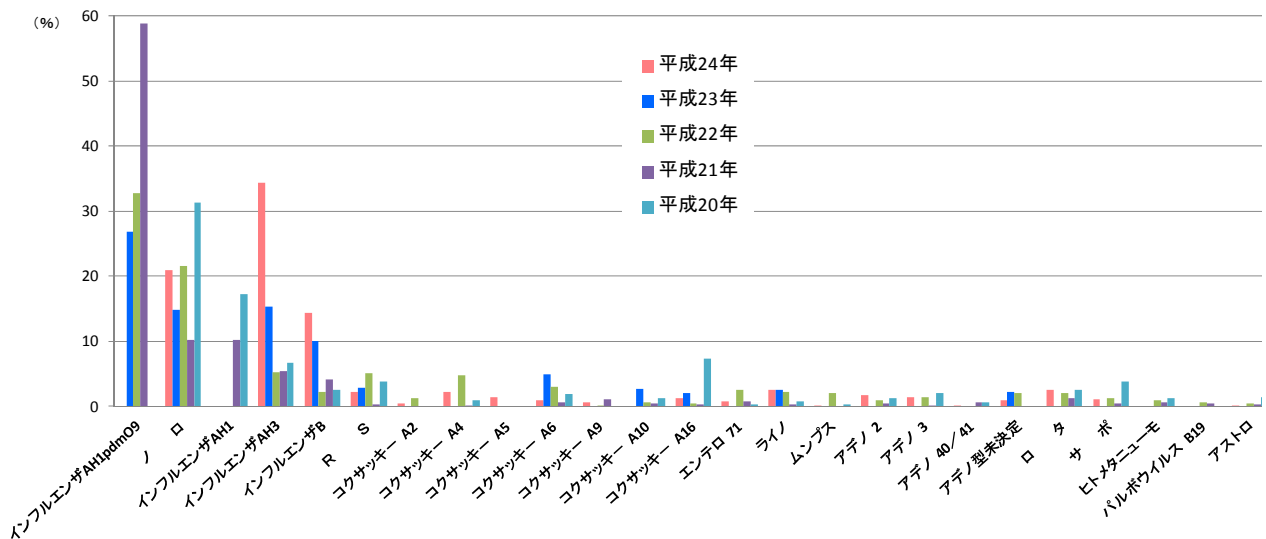


図 2 主なウイルスの検出割合年別比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各ウイルス検出状況は、ウイルス等の検出状況表に記載。

(伊東 久美子)

2 病原細菌検出概況

平成 24 年に県内で検出された病原細菌は 691 件であり、前年より減少した。これは、A型ウエルシュ菌の検出が昨年より大幅に減少したことによる。月別では6月が検出数のピークを示した。海外渡航者からは例年、件数は少ないものの年間を通じて検出されているが、平成 24 年は、パラチフス A 菌、赤痢菌フレキシネル、赤痢菌ボイド、コレラ菌の検出はすべて海外渡航者からの検出であった（図 1）。

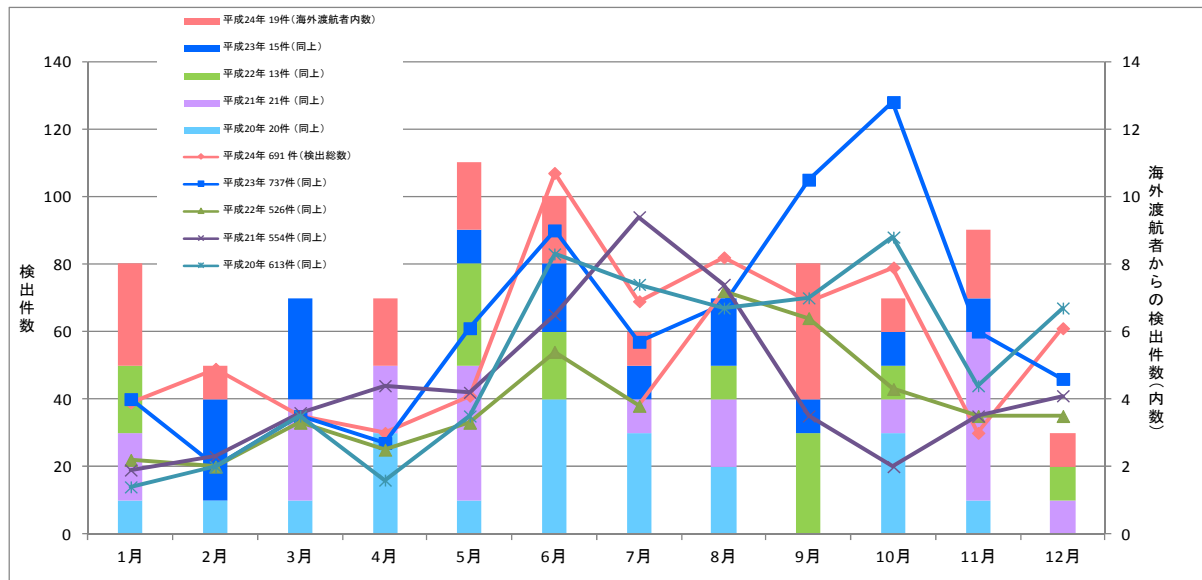


図 1 細菌月別検出状況年別比較

最も多く検出された病原細菌は、腸管出血性大腸菌の 19.1%、カンピロバクター ジェジュニの 16.9%、レンサ球菌 A 群の 14.0%、黄色ブドウ球菌の 11.3%の順であった（図 2）。

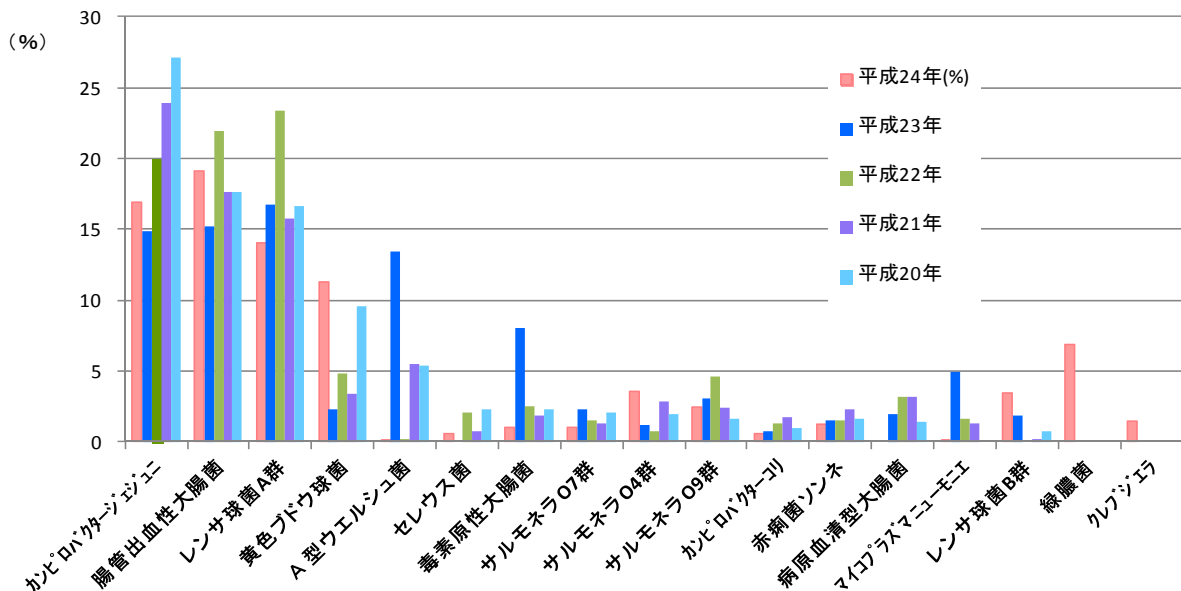


図 2 主な細菌の検出割合年別比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市衛生研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各病原細菌検出状況は、病原細菌検出状況表に記載。

(伊東久美子)

3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）

3-1 神奈川県（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	全数把握対象疾患				定点把握対象疾患									その他	合計
	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	麻しん	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎		
インフルエンザ AH1pdm09											1				1
インフルエンザ AH3								1			703				704
インフルエンザ B											291			5	296
パラインフルエンザ 1					1						2			14	17
パラインフルエンザ 2														8	8
パラインフルエンザ 3					1						1			12	14
R S					22									25	47
ヒトメタニューモ														8	8
ポリオ 1										1					1
コクサッキー A2										5				5	10
コクサッキー A4								1	38					9	48
コクサッキー A5							1	2	23					5	31
コクサッキー A6								13	4					1	18
コクサッキー A8									2					1	3
コクサッキー A9								1	1				2	9	13
コクサッキー A16								26							26
コクサッキー B1													1		1
コクサッキー B2									1						1
コクサッキー B4													2		2
エコー 6						1			2				15	3	21
エコー 7								1					3	3	7
エコー 9													2		2
エンテロ 71								14						2	16
エンテロ（型未決定）									1				2	1	4
ライノ								4	2				1	45	52
ムンプス				2											4
風疹 ※				16											16
風疹 1E ※				1											1
風疹 2B ※				19											19
アデノ 1							2	1	1					3	7
アデノ 2							12	4			1		1	17	35
アデノ 3							15	2					1	11	29
アデノ 4								1			1	4		14	20
アデノ 5							1	1			1				3
アデノ 6								1							1
アデノ 8												1			1
アデノ 31								1							1
アデノ 33								1							1
アデノ 37								1							1
アデノ 40/41								5							5
アデノ 53												2			2
アデノ 56												4			4
アデノ（型未決定）								7			1	2		11	21
単純ヘルペス 1									1	3		1		3	8
水痘・帯状疱疹													1		1
ヒトヘルペス 6				1	2									1	4
ヒトヘルペス 7													2		2
ロ タ								51							51
ノ ロ								432							432
サ ボ								23							23
アストロ								4							4
デ ン グ			5												5
柯エンチア ツツガムシ	5														5
平成24年計	5	5	3	38	24	31	537	64	83	4	1000	16	31	216	2057

※麻しんを疑う患者検体からの検出

3-1 神奈川県 (月別)

年・月 検出ウイルス	平成22年	平成23年	平成24年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	491	576											1			1
インフルエンザ AH3	77	327	311	271	40	8			1	6	1		1	3	62	704
インフルエンザ B	33	216	31	100	103	47	13						1		1	296
パラインフルエンザ 1		11	1	1		1			3	1	4	1	2	2	1	17
パラインフルエンザ 2	1	2		2							1		2	1	2	8
パラインフルエンザ 3		12	1					1	5	1	5		1			14
R S	76	61	2	2					2	2	1	15	14	4	5	47
ヒトメタニューモ	14	39			1			5	2							8
ポリオ 1	1	4										1				1
ポリオ 2	1	1														
コクサッキー A2	20									3	2	4	1			10
コクサッキー A4	72								6	33	9					48
コクサッキー A5	4	10							3	14	9	5				31
コクサッキー A6	47	106				1						1	7	4	5	18
コクサッキー A8										1	1		1			3
コクサッキー A9	1	2			1				1	5	4	1	1			13
コクサッキー A10	10	58														
コクサッキー A12		1														
コクサッキー A16	6	45	4	2					5	10	3	2				26
コクサッキー B1		14							1							1
コクサッキー B2	6									1						1
コクサッキー B3	1															
コクサッキー B4	8	1									2					2
コクサッキー B5	1	3														
エコー 3	4	1														
エコー 6		10							1	3	6	1	8	1	1	21
エコー 7					1					2	1	2	1			7
エコー 9		2										2				2
エコー 25	4															
エンテロ 68	5															
エンテロ 71	39										3	1	8	3	1	16
エンテロ (型未決定)										1		3				4
パレコ 1	2	5														
パレコ 3		13														
パレコ (型未決定)	3															
ライノ	34	55			2	7	15	7	4	2	2	4	3	6		52
ムンプス	30	6						1				3				4
麻疹		5														
麻疹 ※		11								3	3		2	4	4	16
麻疹 1E※													1			1
麻疹 2B※									2	6	5	2		2	2	19
アデノ 1	6	1			1	1			1		1	2	1			7
アデノ 2	14	11			1	2	3	3	11	1	2	1	2	4	5	35
アデノ 3	22	27	1		1			2	4	3	3	5		5	5	29
アデノ 4		4	3			3		1	2	1	2	2		2	4	20
アデノ 5	5	3						1	1						1	3
アデノ 6		2							1							1
アデノ 8	1	22										1				1
アデノ 19	1															
アデノ 31	1									1						1
アデノ 33										1						1
アデノ 37	4	1						1								1
アデノ 40/41		4	1	1		3										5
アデノ 41	3															
アデノ 53													1	1		2
アデノ 54		1														
アデノ 56									1			1	2			4
アデノ中間型 15/H9	1															
アデノ (型未決定)	30	47	4	1	3	1	1	4		1		4	1	1		21
単純ヘルペス 1	3	8		2		1		1					3	1		8
水痘・帯状疱疹												1				1
サイトメガロ		3														
ヒトヘルペス 6	2	1	1					1				2				4
ヒトヘルペス 7												2				2
パルボウイルス B19	10															
ヒト コロナ OC43	5															
ロタ	31	26	1	2	15	14	13	5							1	51
小型球形																
ノロ	321	318	54	33	27	31	4	26	4		2		111	140		432
サボ	18	31	5		4	1	2		2			1	5	3		23
アストロ	7	10	1			1			2							4
デング	1	3									1	2	1	1		5
チエンチア ツツガムシ	18	23											1	4		5
計	1495	2143	421	418	201	123	64	98	109	72	68	68	164	251		2057

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-2 神奈川県衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	麻しん	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH3											343			343
インフルエンザ B											119			119
パラインフルエンザ 3					1									1
R S					4									4
ポリオ 1									1					1
コクサッキー A2									5					5
コクサッキー A4									34					34
コクサッキー A5							1	19						20
コクサッキー A6							8	4						12
コクサッキー A9							1	1				1	1	4
コクサッキー A16							22							22
コクサッキー B2									1					1
コクサッキー B4												1		1
エコー 6						1			2			4		7
エコー 7								1						1
エコー 9												1		1
エンテロ 71								5						5
エンテロ（型未決定）									1				1	2
ライノ								4	2			1	2	9
ムンプス			2							1				3
風疹 ※				12										12
アデノ 1						1	1						1	3
アデノ 2						12				1				13
アデノ 3						14								14
アデノ 5						1				1				2
アデノ（型未決定）							6							6
単純ヘルペス 1									1				1	2
水痘・帯状疱疹												1		1
ヒトヘルペス 7												1		1
ロ タ							33							33
ノ ロ							104							104
サ ポ							16							16
アストロ							4							4
デング		2												2
オエンチア ツツガムシ	5													5
平成24年計	5	2	2	12	5	29	163	43	71	3	462	10	6	813

※麻しんを疑う患者検体からの検出

3-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成22年	平成23年	平成24年												合計		
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
インフルエンザ AH1pdm09	155	258															
インフルエンザ AH3	27	136	151	136	21	4				1	1					29	343
インフルエンザ B	23	114	10	36	42	26	5										119
パラインフルエンザ 1		3															
パラインフルエンザ 2		1															
パラインフルエンザ 3											1						1
R S	11	20	1	1								2					4
ヒトメタニューモ		1															
ポリオ 1												1					1
コクサッキー A2	10									1	1	3					5
コクサッキー A4	44								4	23	7						34
コクサッキー A5	2	8							1	11	5	3					20
コクサッキー A6	22	65										1	6	4	1		12
コクサッキー A9	1									2	1	1					4
コクサッキー A10	10	45															
コクサッキー A12		1															
コクサッキー A16	4	23	3	2					4	8	3	2					22
コクサッキー B1		7															
コクサッキー B2										1							1
コクサッキー B3	1																
コクサッキー B4											1						1
コクサッキー B5	1	1															
エコー 6		3							1	2			3			1	7
エコー 7					1												1
エコー 9												1					1
エンテロ 71	30											1	3	1			5
エンテロ（型未決定）										1		1					2
パレコ 1		2															
パレコ 3		3															
パレコ（型未決定）	3																
ライノ	5	10			1			1	1	1	2	1	1	1			9
ムンプス	18	4										3					3
麻疹		1															
風疹※		9								2	3		1	3	3		12
アデノ 1	2				1							1	1				3
アデノ 2	5	5			1			1	4	1	1		1	2	2		13
アデノ 3	15	7			1				3	3	1	4		1	1		14
アデノ 4		1															
アデノ 5	2	1						1	1								2
アデノ（型未決定）	10	11			1			1	3				1				6
単純ヘルペス 1		2		1											1		2
水痘・帯状疱疹												1					1
ヒトヘルペス 7												1					1
ロ タ	19	16	1	1	10	5	11	5									33
ノ ロ	113	78	18	5	3	11	3	2	2					23	37		104
サ ボ	15	23	3		1			2		1			1	5	3		16
アストロ	7	10	1			1		2									4
デ ン グ	1										1	1					2
カリエンチア ツツガムシ	18	23											1	4			5
計	574	892	188	182	83	47	25	31	60	28	28	19	45	77			813

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-3 横浜市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	R S ウイルス 感染症	咽 頭 結 膜 熱	感 染 性 胃 腸 炎	手 足 口 病	へ ル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	イ ン フ ル エ ン ザ 様	流 行 性 角 結 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	そ の 他	合 計
インフルエンザ AH1pdm09							1				1
インフルエンザ AH3			1				106				107
インフルエンザ B							74			5	79
パラインフルエンザ 1	1						2			14	17
パラインフルエンザ 2										8	8
パラインフルエンザ 3							1			12	13
R S	18									25	43
ヒトメタニューモ										8	8
コクサッキー A2										5	5
コクサッキー A4				1	4					9	14
コクサッキー A5			1		4					5	10
コクサッキー A6				5						1	6
コクサッキー A8					2					1	3
コクサッキー A9										8	8
コクサッキー A16				1							1
エコー 6								5	3		8
エコー 7								1	3		4
エンテロ 71				9						2	11
ライノ										43	43
ムンプス						1					1
アデノ 1		1								2	3
アデノ 2			1							17	18
アデノ 3		1	2							11	14
アデノ 4							1			14	15
アデノ 5			1								1
アデノ 6			1								1
アデノ 40/41			1								1
アデノ（型未決定）			1				1	2		11	15
単純ヘルペス 1					2			1		2	5
ヒトヘルペス 6										1	1
ロ タ			11								11
ノ ロ			18								18
サ ポ			2								2
平成24年計	19	2	40	16	12	1	186	3	6	210	495

3-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成22年	平成23年	平成24年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	122	76										1			1	
インフルエンザ AH3	21	51	42	43	8	3				5				2	4	107
インフルエンザ B	2	59	6	32	21	13	5						1		1	79
パラインフルエンザ 1		8	1	1		1			3	1	4	1	2	2	1	17
パラインフルエンザ 2	1	1		2							1		2	1	2	8
パラインフルエンザ 3		12	1					1	5	1	4		1			13
R S	65	41	1	1					2	2	1	13	14	4	5	43
ヒトメタニューモ	14	38			1			5	2							8
ポリオ 1	1	4														
ポリオ 2	1	1														
コクサッキー A2	9									2	1	1	1			5
コクサッキー A4	27								2	10	2					14
コクサッキー A5	2	2							2	3	4	1				10
コクサッキー A6	24	32				1							1		4	6
コクサッキー A8										1	1		1			3
コクサッキー A9		2			1				1	2	3		1			8
コクサッキー A10		13														
コクサッキー A16		19	1													1
コクサッキー B1		7														
コクサッキー B2	6															
コクサッキー B4	8															
エコー 3	4	1														
エコー 6		3								1	5	1	1			8
エコー 7										1	1	2				4
エコー 9		2														
エコー 25	1															
エンテロ 68	5															
エンテロ 71	5										3		5	2	1	11
パレコ 1	2	3														
パレコ 3		10														
ライノ	28	45			1	7	14	6	3			1	3	2	6	43
ムンプス	4							1								1
アデノ 1	3	1							1		1	1				3
アデノ 2	8	5			1	3	1	6				1	1	2	3	18
アデノ 3	1	19	1					2	1		2	1		3	4	14
アデノ 4		3	2			3	1	2	1					2	4	15
アデノ 5	3	2													1	1
アデノ 6		2							1							1
アデノ 19	1															
アデノ 31	1															
アデノ 37	1															
アデノ 41	3															
アデノ 40/41		3	1													1
アデノ（型未決定）	19	31	4	1	2	1			1		1		3	1	1	15
単純ヘルペス 1	3	5				1			1					2	1	5
ヒトヘルペス 6	2	1	1													1
ロ タ	3	5		1	2	7	1									11
ノ ロ	14	14	1		1									6	10	18
サ ボ	1	4			1					1						2
パルボウイルス B19	10															
ヒト コロナ OC43	5															
計	430	525	62	81	39	40	31	36	34	34	24	37	29	48		495

3-4 川崎市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	デング熱	急性脳炎	麻疹	感染性胃腸炎	手足口病	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH3						98			98
インフルエンザ B						43			43
コクサッキー A5					1				1
コクサッキー A16					3				3
エコー 6								3	3
エコー 7								1	1
風疹 1E ※			1						1
風疹 2B ※			19						19
アデノ 1				1					1
アデノ 3							1		1
アデノ 4							2		2
アデノ 53							2		2
アデノ 56							2		2
アデノ 40/41				1					1
単純ヘルペス 1					1				1
ヒトヘルペス 6		1	2						3
ロ タ				1					1
ノ ロ				59					59
デ ン グ	3								3
平成24年計	3	1	22	62	5	141	7	4	245

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-4 川崎市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成22年	平成23年	平成24年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	61	87														
インフルエンザ AH3	11	31	42	36	5			1				1	1	12	98	
インフルエンザ B	3	18	8	20	10	5									43	
コクサッキー A2	1															
コクサッキー A4	1															
コクサッキー A5												1			1	
コクサッキー A6	1	9														
コクサッキー A16	2	3						1	2						3	
コクサッキー B4		1														
コクサッキー B5		1														
エコー 6		4									1		2		3	
エコー 7									1						1	
エコー 25	2															
エンテロ 71	4															
ライノ	1															
ムンプス	4	1														
麻疹		2														
風疹 1E※												1			1	
風疹 2B※								2	6	5	2		2	2	19	
アデノ 1	1				1										1	
アデノ 3	5												1		1	
アデノ 4										1	1				2	
アデノ 8	1	22														
アデノ 37	1															
アデノ 40/41		1			1										1	
アデノ 53												1	1		2	
アデノ 56												2			2	
アデノ（型未決定）	1															
単純ヘルペス 1		1		1											1	
サイトメガロ		3														
ヒトヘルペス 6								1				2			3	
ロ タ	4							1							1	
ノ ロ	51	35	13	11		6	1	21					7		59	
デ ン グ		3										1	1	1	3	
計	155	222	63	68	15	13	3	25	9	7	7	8	13	14	245	

※麻しんを疑う患者検体からの検出

3-5 相模原市衛生試験所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性 胃腸炎	インフル エンザ 様	流行性 角結 膜炎	合計
インフルエンザ AH3		25		25
インフルエンザ B		3		3
アデノ 2	3		1	4
アデノ 4	1			1
アデノ 31	1			1
アデノ 33	1			1
アデノ 37	1			1
アデノ 40/41	3			3
アデノ 56			2	2
ロ タ	6			6
ノ ロ	75			75
サ ポ	2			2
平成24年計	93	28	3	124

3-5 相模原市衛生試験所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成22年	平成23年	平成24年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	63	23														
インフルエンザ AH3	3	11	17		3										5	25
インフルエンザ B		11	1	1				1								3
麻疹		2														
アデノ 2	1	1		1				1	1		1					4
アデノ 3	1	1														
アデノ 4			1													1
アデノ 31										1						1
アデノ 33										1						1
アデノ 37	2	1						1								1
アデノ 40/41				1		2										3
アデノ 54		1														
アデノ 56									1			1				2
ロ タ	5	5			3	2									1	6
ノ ロ	71	80	4	5		2		3						33	28	75
サ ポ	2	1			1	1										2
計	149	137	23	8	7	7	3	5	2	1	1			33	34	124

3-6 横須賀市健康安全科学センター（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性胃腸炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH3		102			102
インフルエンザ B		43			43
コクサッキー B1				1	1
エコー 7				1	1
エンテロ（型未定）				2	2
アデノ 4			2		2
アデノ 8			1		1
ノロ	37				37
サポ	1				1
平成24年計	38	145	3	4	190

3-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

月 検出ウイルス	平成22年	平成23年	平成24年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm	71	83														
インフルエンザ AH3	9	87	50	41	1										10	102
インフルエンザ B	4	10	5	10	28											43
コクサッキー B1								1								1
エコー 7												1				1
エンテロ（型未定）											2					2
アデノ 4										1	1					2
アデノ 8											1					1
アデノ（型未決定）		5														
ノロ	27	83	13	8		2			2					1	11	37
サポ					1											1
計	111	268	68	59	30	2			1	2	1	4	1	1	21	190

3-7 藤沢市保健所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	麻しん	感染性胃腸炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH3			29		29
インフルエンザ B			9		9
コクサッキー A9				1	1
コクサッキー B4				1	1
エコー 6				3	3
エコー 9				1	1
風疹 ※	4				4
ヒトヘルペス 7				1	1
ノロ		139			139
サポ		2			2
平成24年計	4	141	38	7	190

※麻しんを疑う患者検体からの検出

3-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成22年	平成23年	平成24年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH3	6	11	9	15	2	1									2	29
インフルエンザ B	1	4	1	1	2	3	2									9
コクサッキー A9										1						1
コクサッキー B4											1					1
コクサッキー B5		1														
エコー 6												2	1			3
エコー 9											1					1
エコー 25	1															
ムンプス	4	1														
風疹 ※		2								1			1	1	1	4
ヒトヘルペス 7												1				1
ノロ	45	28	5	4	23	10						2		41	54	139
サポ		3	2													2
計	76	97	17	20	27	14	2			2	1	4	3	43	57	190

※麻しんを疑う患者検体からの検出

4 病原細菌検出状況表（ヒト由来、月別）

4-1 神奈川全県

年・月 菌種・菌型	平成22年		平成23年		平成24年												合計											
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者										
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者						
腸管出血性大腸菌(EHEC)	156		112			1	4	2	7	1	40	9	16	23	15	12	2	3	132	3								
毒素原性大腸菌(ETEC)	12	1	59	3		1	1			2	2	1	1		1				7	2								
病原血清型大腸菌(EPEC)	15		15					1			1								2									
他の下痢原性 E. coli			1																									
チフス菌	3	1						1	1		2	1			1	1			4	3								
パラチフス A菌	2	2	3	3	1	1													1	1								
サルモネラ 04群	4		9		2	8			5		2	1	4		1	1	1		25									
サルモネラ 07群	7		17		1	2	1					1			2				7									
サルモネラ 08群	1		2			2				1		1							4									
サルモネラ 09群	22		23		1	8								7	1				17									
サルモネラ 03,10群			2																									
サルモネラ 01,3,19群	1																											
サルモネラ 039群			2																									
エルシニア エンテロコリチカ													2						2									
コレラ菌 01			2	1	1	1				1	1								2	2								
コレラ菌 non-01 & 0139	1	1	2									1	1						1	1								
腸炎ビブリオ	2		1										6	2					8									
エロモナス ハイドロフィラ	2																											
エロモナス ソブリア			1																									
エロモナス キャピエ	5		1						1										1									
カンピロバクター ジェジュニ	95		110		11	6	4	6	14	18	24	11	15	4	4				117									
カンピロバクター コリ	6		6									2	2						4									
カンピロバクター ジェジュニ/コリ	1																											
黄色ブドウ球菌	23		17		1	2	8	2	1	2	8	28	3	18	3	2			78									
A型ウエルシュ菌	1		99				1												1									
破傷風菌	1						1												1									
セレウス菌	10												1		2	1			4									
バシラス チューリンゲンシス	1																											
赤痢菌フレキシネル	3	3	3					1	1					1	1				2	2								
赤痢菌ボイド					1	1													1	1								
赤痢菌ソンネ	7	4	11	8	1								1	3	2	1	1	2	1	1	9	4						
赤痢菌群不明	1	1																										
レンサ球菌A群	111		123		8	12	7	7	6	23	11	3	2	7	4	7			97									
レンサ球菌B群			14		6	3	2			2	1	3		7					24									
レンサ球菌G群	1		1																									
レンサ球菌 上記以外の群	3											1							1									
肺炎球菌	2		7			1		1	1				1		2	1		1	8									
エンテロコッカス フェーカリス			3		1		1												2									
エンテロコッカス フェシウム	6		18			1						1							2									
エンテロコッカス カセリフラブス	1																											
コリネバクテリウム ウルセランス	1																											
百日咳菌			7					1		1		1	2						5									
レジオネラ ニューモフィラ	6		13							2				1					3									
緑膿菌														1				46	47									
結核菌			3							3				2	1				6									
マイコバクテリウム										1									1									
インフルエンザ菌	3		13		2	2	2	2								1			9									
クレブジエラ ニューモニエ														10					10									
髄膜炎菌	1																											
淋菌	1																											
マイコプラズマ ニューモニエ	8		37		2		3	1	6	9	7	3	7	7					45									
その他の細菌																			1									
計	526	13	737	15	39	3	49	1	35	30	2	41	2	107	2	69	1	82	69	4	79	1	30	2	61	1	691	19

4-2 神奈川県衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成22年		平成23年		平成24年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	14		5				1			5				1				7	
毒素原性大腸菌(ETEC)	1		9						1		1							2	
サルモネラ 04群				1						1		1						3	
サルモネラ 07群			5	1		1					1							3	
サルモネラ 09群	18		5										4					4	
腸炎ビブリオ	1												1					1	
エロモナス ハイドロフィラ	2																		
エロモナス ソブリア			1																
エロモナス キャビエ	4		1					1										1	
カンピロバクター ジェジュニ	23		41	9	3	3	2		6	9	3	4	3				42		
カンピロバクター コリ	4		3									1						1	
黄色ブドウ球菌	1		3			1					7							8	
セレウス菌	2																		
赤痢菌ソンネ	1																		
レンサ球菌A群	35		62	2	5	4	2	1	12	5			3				34		
レンサ球菌 G群			1																
レンサ球菌	1										1							1	
肺炎球菌	2				1													1	
百日咳菌			7				1			1		1	2					5	
レジオネラ ニューモフィラ	1		4							1								1	
インフルエンザ菌	3		1																
淋菌	1																		
マイコプラズマ ニューモニエ	8		37	2		3	1	6	9	7	3	7	7				45		
その他の細菌						1												1	
計	122		185	15	9	14	6	9	35	31	9	18	14				160		

4-3 横浜市衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成22年		平成23年		平成24年												合計									
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者								
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者						
腸管出血性大腸菌(EHEC)	73		64			1	3	2	3	32	7	8	18	12	3	2	3	92	2							
毒素原性大腸菌(ETEC)	5	1	43	3					1	1				1				3	1							
病原血清型大腸菌(EPEC)	11		9				1			1								2								
他の下痢原性 E.coli			1																							
チフス菌	3	1					1	1					1	1				2	2							
パラチフス A菌	2	2	3	3	1	1												1	1							
サルモネラ 04群	3		8			8		4				2		1	1			16								
サルモネラ 07群	7		11			2								1				3								
サルモネラ 08群	1		1			2												2								
サルモネラ 09群	2		17	1	8								1	1				11								
サルモネラ 03,10群			2																							
サルモネラ 01,3,19群	1																									
コレラ菌 01			2	1	1	1			1	1								2	2							
コレラ菌 non-01 & 0139			2																							
腸炎ビブリオ												6						6								
カンピロバクター ジェジュニ	20		38			3		1	9	4	11	5	9	1	4			47								
黄色ブドウ球菌	11				1		1	1	1	1		27	3	3	1	1		40								
A型ウエルシュ菌			88																							
破傷風菌	1						1											1								
セレウス菌	7																									
赤痢菌フレキシネル	3	3	2										1	1				1	1							
赤痢菌ボイド					1	1												1	1							
赤痢菌ソネ	5	3	10	7	1								1	1	1	1	1	5	3							
赤痢菌 群不明	1	1																								
レンサ球菌A群	71		55		6	6	3	5	5	9	3	3	2	4	4	7		57								
レンサ球菌B群			14		6	3	2			2	1	3		7				24								
レンサ球菌G群	1																									
レンサ球菌 上記以外の群	2																									
肺炎球菌			7					1	1			1		1	2	1		7								
エンテロкокカス フェーカリス			3		1		1											2								
エンテロкокカス フェシウム	6		18			1					1							2								
エンテロкокカス カセリフラプス	1																									
コリネバクテリウム ウルセランス	1																									
レジオネラ ニューモフィラ	5		9							1				1				2								
緑膿菌													1				46	47								
結核菌			3							3			1	1				5								
マイコバクテリウム アビウム-イントラセellular複合体(MAC)									1									1								
インフルエンザ菌			12		2	2	2	2							1			9								
クレブジエラ ニューモニエ														10				10								
髄膜炎菌	1																									
計	244	11	422	14	21	3	36	13	18	1	22	1	54	1	23	55	38	3	45	1	17	2	59	1	401	13

4-4 川崎市衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成22年		平成23年		平成24年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	53		32						2	1	2	7	5	1	6			24	
毒素原性大腸菌(ETEC)	1		3																
病原血清型大腸菌(EPEC)	3		1																
チフス菌										2	1							2	1
サルモネラ 04群	1											1						1	
サルモネラ 07群			1																
サルモネラ 08群											1							1	
サルモネラ 09群			1										1					1	
エルシニア エンテロコリチカ												2						2	
腸炎ビブリオ			1										1					1	
カンピロバクター ジェジュニ	35		21		2		1	3	5	2	1	2	2					18	
カンピロバクター コリ	2										2							2	
黄色ブドウ球菌														13				13	
赤痢菌フレキシネル								1	1									1	1
赤痢菌ソンネ													1			1		2	
レンサ球菌A群	4		6							1	3							4	
計	99		66		2		1	4	1	7	6	1	9	12	10	14	7	72	2

4-5 相模原市衛生試験所

年・月 菌種・菌型	平成22年		平成23年		平成24年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	6		5																
毒素原性大腸菌(ETEC)			4																
サルモネラ 08群			1																
サルモネラ 09群	1												1					1	
カンピロバクター ジェジュニ	11		2							6	1	1						8	
カンピロバクター コリ			2									1						1	
カンピロバクター ジェジュニ/コリ	1																		
黄色ブドウ球菌	8		7							1				2		2	1	6	
A型ウエルシュ菌	1		1																
セレウス菌														2		1		3	
赤痢菌フレキシネル			1																
赤痢菌ソンネ												1	1	1				2	1
レンサ球菌A群	1						1			1								2	
計	29		23				1			8	1	3	2	1	4	3	1	23	1

4-6 横須賀市健康安全科学センター

年・月 菌種・菌型	平成22年		平成23年		平成24年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	4		5						1				1			2	4	
毒素原性大腸菌(ETEC)						1	1										1	1
病原血清型大腸菌(EPEC)	1		5															
サルモネラ 04群																1	1	
サルモネラ 07群														1			1	
サルモネラ 09群	1																	
サルモネラ 039群			2															
コレラ菌 non-01 & 0139	1	1																
エロモナス キャピエ	1																	
カンピロバクター ジェジュニ	2										2						2	
黄色ブドウ球菌	3		1			2	1				1	1					5	
セレウス菌												1					1	
結核菌													1				1	
計	14	1	13			3	1	1		1		3	3	1	1	2	16	1

4-7 藤沢市保健所

年・月 菌種・菌型	平成22年		平成23年		平成24年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	6		1						1	1	2				1	1	5	1
毒素原性大腸菌(ETEC)	5										1						1	
サルモネラ 04群			1			1			1		1	1					4	
サルモネラ 08群									1								1	
コレラ菌 non-01 & 0139												1	1				1	1
腸炎ピブリオ	1																	
カンピロバクター ジェジュニ	4		8															
カンピロバクター コリ			1															
黄色ブドウ球菌			6				5	1									6	
A型ウエルシュ菌			10				1										1	
セレウス菌	1																	
赤痢菌ソクネ	1	1	1	1														
計	18	1	28	1			6	2	2	1	4	2	1		1	1	19	2

< PART II > 平成 24 年地域における感染症発生状況の概要

II 地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症

(1) インフルエンザ

神奈川県全体のインフルエンザの報告数について、平成 24 年は第 5 週に流行のピークがみられ、年齢別では、10～14 歳に報告が多かった。

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）のインフルエンザの動向

神奈川県衛生研究所

2011/2012 シーズン（2011 年 35 週～2012 年 34 週）の横浜市・川崎市及び相模原市を除く神奈川県域（以下、県域）におけるインフルエンザ患者報告数は、2012 年 4 月以降も少ないながら報告が続いていたが、18 週（4/30～5/6）に定点あたりの報告数が 1.0 人を下回った後は再び 1.0 人を超えることなく、2012/2013 シーズン（2012 年 35 週～2013 年 34 週）をむかえた。2012/2013 シーズンの県域におけるインフルエンザ患者報告数は、2012 年 51 週（12/17～23）に流行開始の目安となる定点あたり報告数が 1.0 人を超えた後、2013 年 2 週（1/7～13）以降報告数が急増して流行期に入った。定点あたり報告数のピークは 4 週（1/21～27）の 41.57 人であった。その後、患者数は減少傾向となり、8 週（2/18～24）に定点あたり報告数が注意報レベルの 10.0 人を下回った後は、徐々に終息に向かっていった。

感染症発生動向調査病原体定点（藤沢市からの一般依頼を含む）からの依頼検体 405 件についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。2012 年 4 月～8 月には 47 例の検査を行い A 香港(H3)型が 6 例、B 型が 29 例検出された。9 月～12 月には 29 例の検査を行い、A 香港(H3)型が 27 例検出された。2013 年 1 月～3 月には 329 例の検査を行い、AH1pdm09 が 5 例、A 香港(H3)型が 239 例、B 型が 53 例検出された。（図 1）

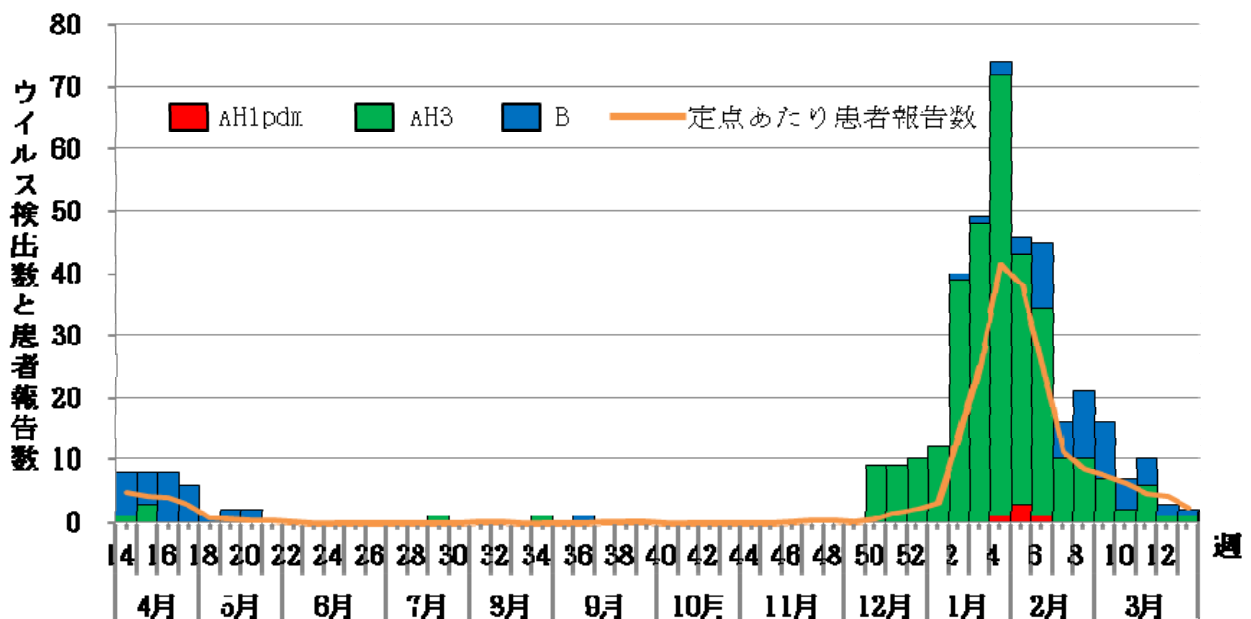


図 1 インフルエンザ患者報告数とウイルス検出数の推移

入院サーベイランスについては、基幹定点医療機関からの依頼検体を用いてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。検体数は、5月2例、12月3例、1月4例、2月10例、3月3例の計22例であった。5月はB型1例、12月はA香港(H3)型2例、1月はA香港(H3)型3例、2月はA香港(H3)型9例とB型1例、3月はB型2例が検出された。

集団かぜ調査は、県域各保健所及び藤沢市保健所管内の初発1集団ずつを対象とし、10集団43例についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。県域初発の集団かぜは2012年11月に発生したが、インフルエンザウイルスは検出されず、12月に発生した1集団からA香港(H3)型が検出された。2013年1月に発生した8集団からは、すべての集団からA香港(H3)型が検出された。

2012/2013シーズンは、2011/2012シーズンに引き続きA香港(H3)型とB型の混合流行となり、主流株も2011/2012シーズンと同じくA香港(H3)型であった。検出されたウイルスの内訳は、A香港(H3)型が310例(84%)、B型が56例(15%)、AH1pdm09が5例(1%)となり、A香港(H3)型とB型の検出割合は2011/2012シーズンの同時期と比べてA香港(H3)型の割合が増え、さらに2011/2012シーズンには検出されなかったAH1pdm09も散発的に検出された。また、B型の分離ウイルス19株のうち、ワクチン株と同じ山形系統株が14株、ビクトリア系統株が5株となり、2011/2012シーズンの同時期と比べて山形系統株の割合が増えて両者の比率が逆転した。

2013年3月に中国から鳥インフルエンザA(H7N9)のヒトの感染例が報告され、5月17日付けのWHO情報では感染者数が131人、うち死者は36人となっている。この新しい亜型に対する検査はすでに可能であり、中国から帰国した後にインフルエンザ様症状を呈した3例(4月2例、5月1例)に対して検査を行ったところ、検出されたウイルスはB型1例、A香港(H3)型1例、不検出1例となり、A(H7)型は検出されなかった。鳥インフルエンザA(H7N9)については、感染源や病原性、伝搬性などまだ不明な点が多く、この後感染拡大をおこすのか、あるいは終息するのか、予測することは難しい。今後も季節性インフルエンザとともに鳥インフルエンザについても動向を監視していく必要がある。

(渡邊寿美、佐野貴子、佐多辰、近藤真規子、丹羽加代子)

② 横浜市のインフルエンザの動向

横浜市衛生研究所

横浜市結核・感染症発生動向調査による平成24年6月から平成25年5月までのインフルエンザ様疾患患者数は28,016人と昨シーズン同期間における46,274人を下回り、過去10年では6番目の規模の流行であった。定点あたり患者数は12月第51週に流行の目安となる定点あたり1.0人を超え、1月第4週に41.5人と最大の報告数となったが、その後、2月第7週には9.9人と急激に減少し、4月第18週に定点あたり1.0人を下回った(図1)。

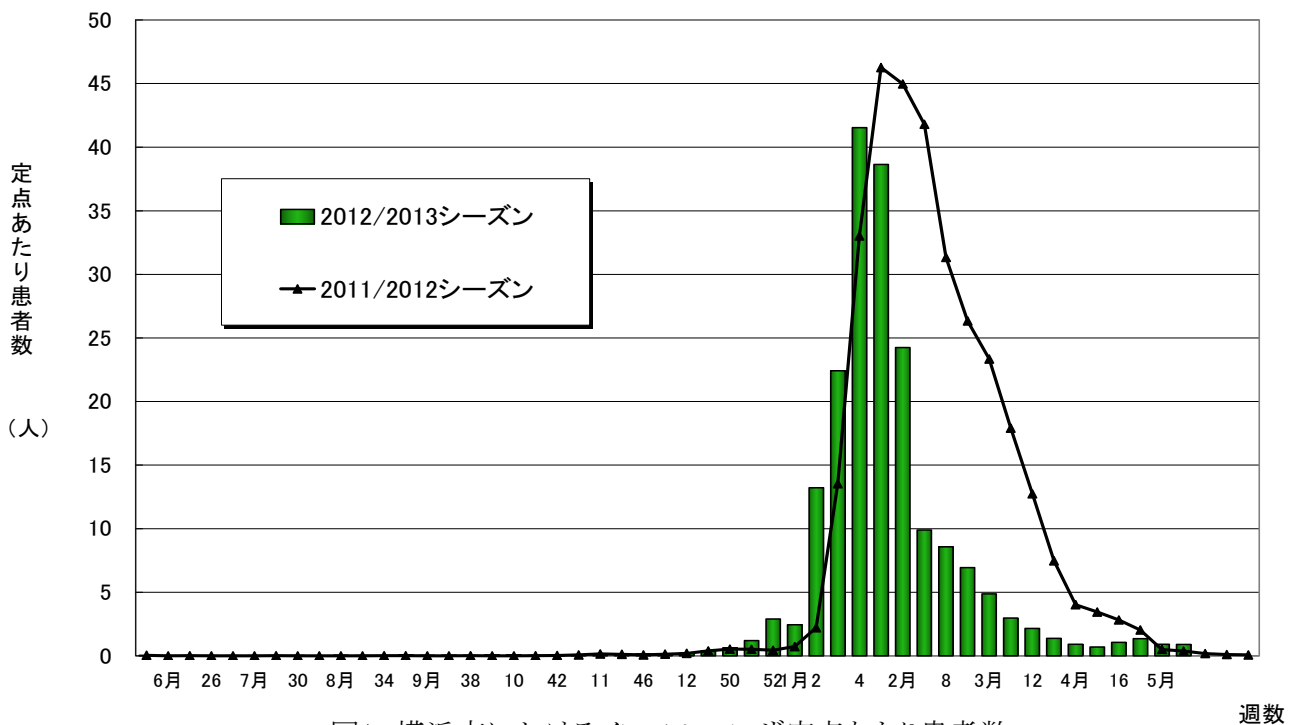


図1 横浜市におけるインフルエンザ定点あたり患者数

平成24年6月から平成25年5月までの検査数と分離・検出数を表1に示す。全調査の合計は806件で、A香港(H3)型ウイルス180件、B型ウイルス32件、AH1pdm09ウイルス2件が分離・検出された。

表1 インフルエンザのウイルス分離および遺伝子検査結果

調査の内訳	検体数	インフルエンザ陽性数	AH3型	B型	AH1pdm09
クラスターサーベイランス (集団かぜ調査)	80	59	59	0	0
入院・重症サーベイランス	74	14	12	1	1
病原体定点調査	624	141	109	31	1
その他 (依頼)	28	0	0	0	0
合計	806	214	180	32	2

集団発生を監視するクラスターサーベイランスにおいては、平成24年9月7日（第36週）に保土ヶ谷区の福祉施設から、また、9月11日（第37週）には緑区の保育園から報告があり、A香港（H3）型ウイルスが分離・検出された。その後、流行期に入った1月第3週に市内18区中6集団、第4週に10集団の発生がみられピークを示した。終息までの発生数は18区204施設175学級であった。検査依頼のあった20集団80人についてウイルス学的調査を実施し、20集団すべてからA香港（H3）型ウイルスが分離・検出された（表2）。

表2 集団かぜ調査の検査

発生年月日	週	区	施設	〈ウイルス分離〉			〈遺伝子検索〉					総合判定
				検体数	分離株数	ウイルス型	分離陰性 検体数	HA遺伝子 件数	NA遺伝子 件数	NA遺伝子 件数		
平成24年 9/7	第36週	保土ヶ谷	福祉施設	3	1	AH3 *	2	陰性	0	陰性	0	AH3
9/11	第37週	緑	保育園	5	4	AH3	1	陰性	0	陰性	0	AH3
平成25年 1/15	第3週	青葉	小学校	3	2	AH3	1	陰性	0	N2	1	AH3
1/15	第3週	磯子	小学校	5	5	AH3	0	—	—	—	—	AH3
1/16	第3週	港南	小学校	5	3	AH3	2	陰性	0	N2	1	AH3
1/16	第3週	港北	幼稚園	4	2	AH3	2	陰性	0	N2	1	AH3
1/17	第3週	瀬谷	小学校	2	1	AH3	1	陰性	0	N2	1	AH3
1/18	第3週	戸塚	中学校	4	4	AH3	0	—	—	—	—	AH3
1/21	第4週	中	中学校	5	3	AH3	2	H3	1	N2	1	AH3
1/22	第4週	栄	小学校	4	3	AH3	1	陰性	0	N2	1	AH3
1/22	第4週	神奈川	小学校	3	2	AH3	1	陰性	0	N2	1	AH3
1/22	第4週	旭	小学校	5	5	AH3	0	—	—	—	—	AH3
1/23	第4週	泉	小学校	5	4	AH3	1	陰性	0	陰性	0	AH3
1/23	第4週	金沢	小学校	5	4	AH3	1	陰性	0	陰性	0	AH3
1/24	第4週	保土ヶ谷	小学校	3	2	AH3	1	陰性	0	N2	1	AH3
1/24	第4週	都筑	高等学校	3	2	AH3	1	陰性	0	N2	1	AH3
1/24	第4週	鶴見	中学校	4	2	AH3	2	陰性	0	N2	1	AH3
1/25	第4週	南	小学校	3	3	AH3	0	—	—	—	—	AH3
1/28	第5週	西	幼稚園	4	2	AH3	2	H3	2	N2	2	AH3
2/4	第6週	緑	病院	5	2	AH3	3	陰性	0	N2	3	AH3
合計		18区	20施設	80件	56件	AH3型 56	24件	H3	3件	N2	15件	AH3型:20施設

入院・重症サーベイランスにおいては74件を検査した。非流行期の7月に5検体からA香港（H3）型ウイルスが分離され、このうち3検体は74歳、86歳、95歳と高齢者の患者であった。シーズン初めの9月には、タイからの輸入例でAH1pdm09ウイルスが1株分離され、10月には山形系統のB型ウイルスが分離された。最終的に分離・検出されたのは14件（A香港（H3）型ウイルス12件、AH1pdm09ウイルス1件、B型ウイルス1件）であった。このうち、インフルエンザウイルスを確定した重症例は、脳症1例（A香港（H3）型ウイルス）、肺炎3例（A香港（H3）型ウイルス）であった。インフルエンザ以外のウイルスではコクサッキーウイルスA型3件、エコーウイルス3件、ノロウイルス2件、アデノウイルス2件、ヒューマンメタニューモウイルス1件が検出された。

病原体定点ウイルス調査においては624件（鼻咽頭検体538件、便由来検体59件、気管支吸引液5件、嘔吐物5件、うがい液4件、髄液1件、不明12件）を検査し、A香港（H3）型ウイルス110件、B型ウイルス31件、AH1pdm09ウイルス1件が分離・検出された。今シーズンは11月第45週に青葉区の定点からA香港（H3）型ウイルスの遺伝子が検出され、12月第49週に港北区と瀬谷区の定点からA香港（H3）型ウイルスがはじめて分離された。その後、A香港（H3）型ウイルスは1月第5週をピークに4月第15週まで分離・検出された。一方、B型ウイルスは12月第49週に港北区の定点から山形系統のB

型ウイルスが、3月第9週に戸塚区の定点から Victoria 系統の B 型ウイルスが分離された。B 型ウイルスは両系統のウイルスが混在したまま、3月第10週をピークに5月第20週まで分離・検出された。AH1pdm09 ウイルスは1月第2週の磯子区定点で1株分離されたのみであった(図2)。

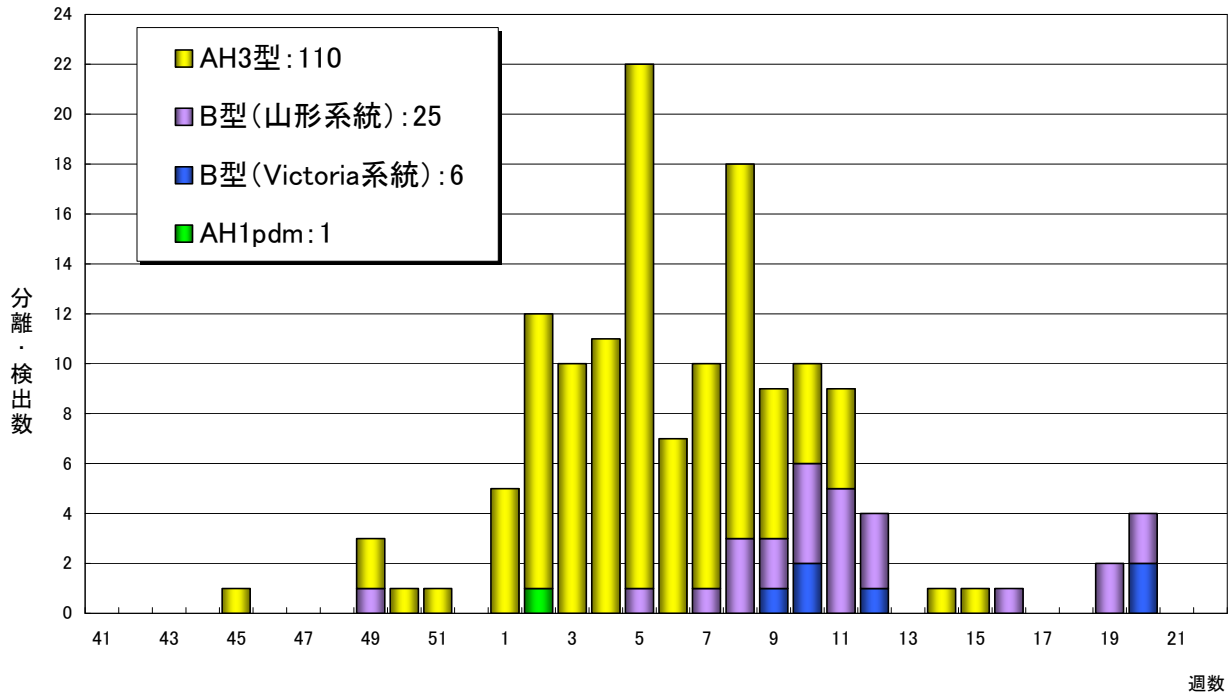
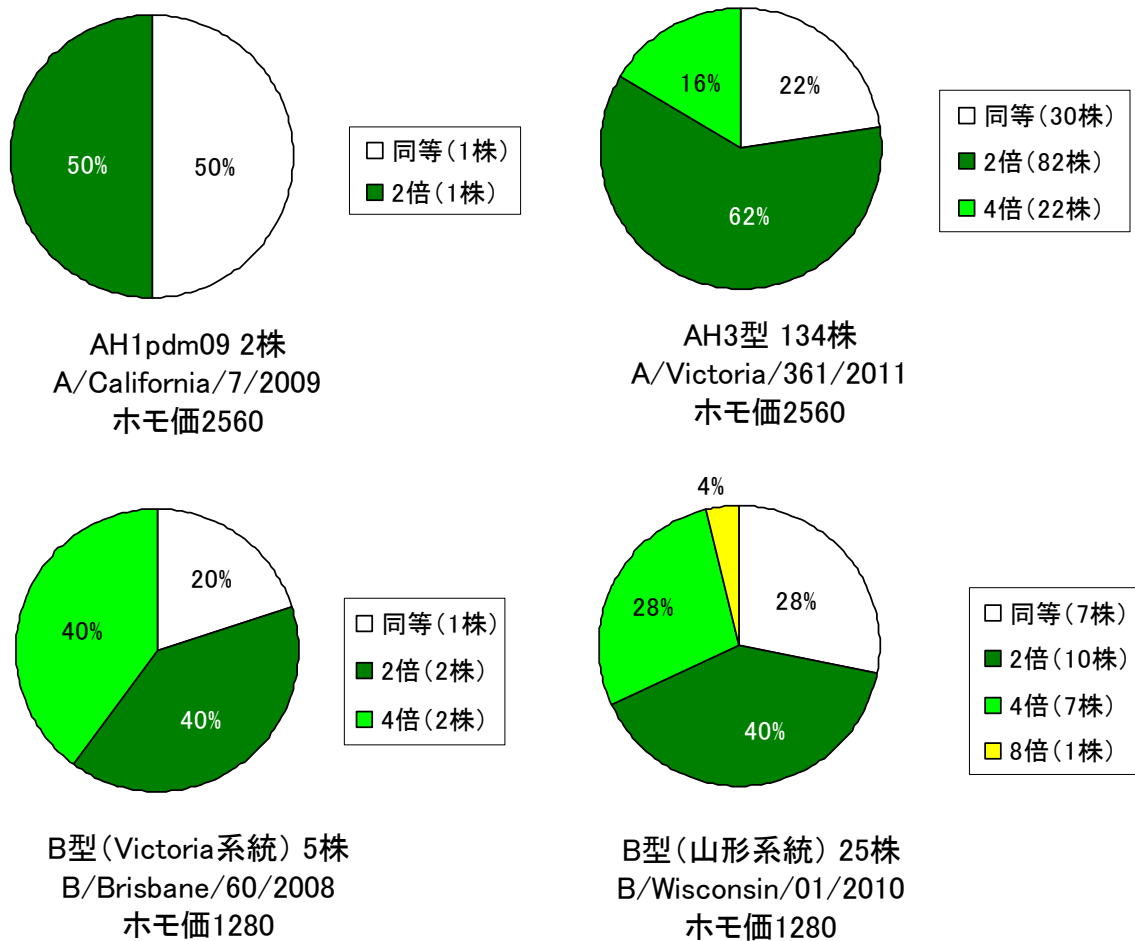


図2 病原体定点等分離・検出状況

今シーズンから、ワクチン株の抗血清がこれまでのフェレット感染血清からウサギ免疫血清に変更になったため、ワクチン株と分離株の HI 価の差で類似性を正確に比較することができなくなった。図3の抗原性状は参考値である。

分離したウイルスの抗原性状は、AH1pdm09 ウイルスはワクチン株である A/California/07/2009 と同等または2倍差であった。A 香港 (H3) 型ウイルスはワクチン株である A/Victoria/361/2011 と22%が同等、62%が2倍差、16%が4倍差であった。B型ウイルスのうち、Victoria 系統のウイルスはレファレンス株 (昨シーズンのワクチン株) である B/Brisbane/60/2008 と20%が同等で、2倍および4倍以内の値を示した株がそれぞれ40%であった。山形系統のウイルスはワクチン株である B/Wisconsin/01/2010 と96%が4倍以内の反応性を示したが、8倍低い HI 価の株が1株あった(図3)。なお、国立感染症研究所で解析した横浜株は AH1pdm09 ウイルス2株、A 香港 (H3) 型11株、山形系統の B 型4株、Victoria 系統の B 型3株で、AH1pdm09 ウイルスと A 香港 (H3) 型および山形系統の B 型ウイルスはワクチン株と、Victoria 系統の B 型ウイルスは昨シーズンのワクチン株である B/Brisbane/60/2008 と4倍以内の反応性を示した。



注) 今シーズン、ワクチン株の抗血清はこれまでのフェレット感染血清からウサギ免疫血清に変更になったため、地方衛生研究所での検査は参考値

図3 2012/2013 シーズン分離株の抗原性状 (ワクチン株等に対する HI 価)

系統樹解析では、AH1pdm09 ウイルスについては 2010/2011 シーズン以降国内での流行はなく、昨シーズン海外で流行している株の大多数はクレード 6 とクレード 7 であった。今シーズン分離された 2 株はいずれも S185T、A197T、S143G のアミノ酸置換が共通のクレード 7 に含まれた (図 4)。A 香港 (H3) 型ウイルスについてはワクチン株の A/Victoria/361/2011 を含むサブクレード 3C に含まれ、昨シーズン分離株や 7 月の分離株からさらに N145S のアミノ酸置換が共通であった (図 5)。B 型ウイルスのうち Victoria 系統の分離株はレファレンス株の B/Brisbane/60/2008 と同じクレードに含まれたが、山形系統のウイルスの多くはワクチン株 B/Wisconsin/01/2010 とは異なり、R48K、P108K、T181A のアミノ酸置換が共通のクレード 2 に含まれた (図 6)。

抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは、AH1pdm09 ウイルス 2 株、A 香港 (H3) 型ウイルス 180 株、B 型ウイルス 32 株について既知の薬剤耐性マーカーを検索した。A 香港 (H3) 型ウイルスは M 遺伝子においてはアマンタジン耐性変異 (S31N) をもっていたが、NA 遺伝子では耐性変異はみられなかった。また、AH1pdm09 ウイルスと B 型ウイルスの NA 遺伝子においても耐性変異はみられなかった。

AH1pdm型 HA1遺伝子 NJ系統樹 (1702bp)

枠内: 2012/2013シーズン
 ワクチン株
 ▼: 2011/2012シーズン
 分離株
 ●: 2012年5月~7月
 分離株
 ★: 2012/2013シーズン
 分離株

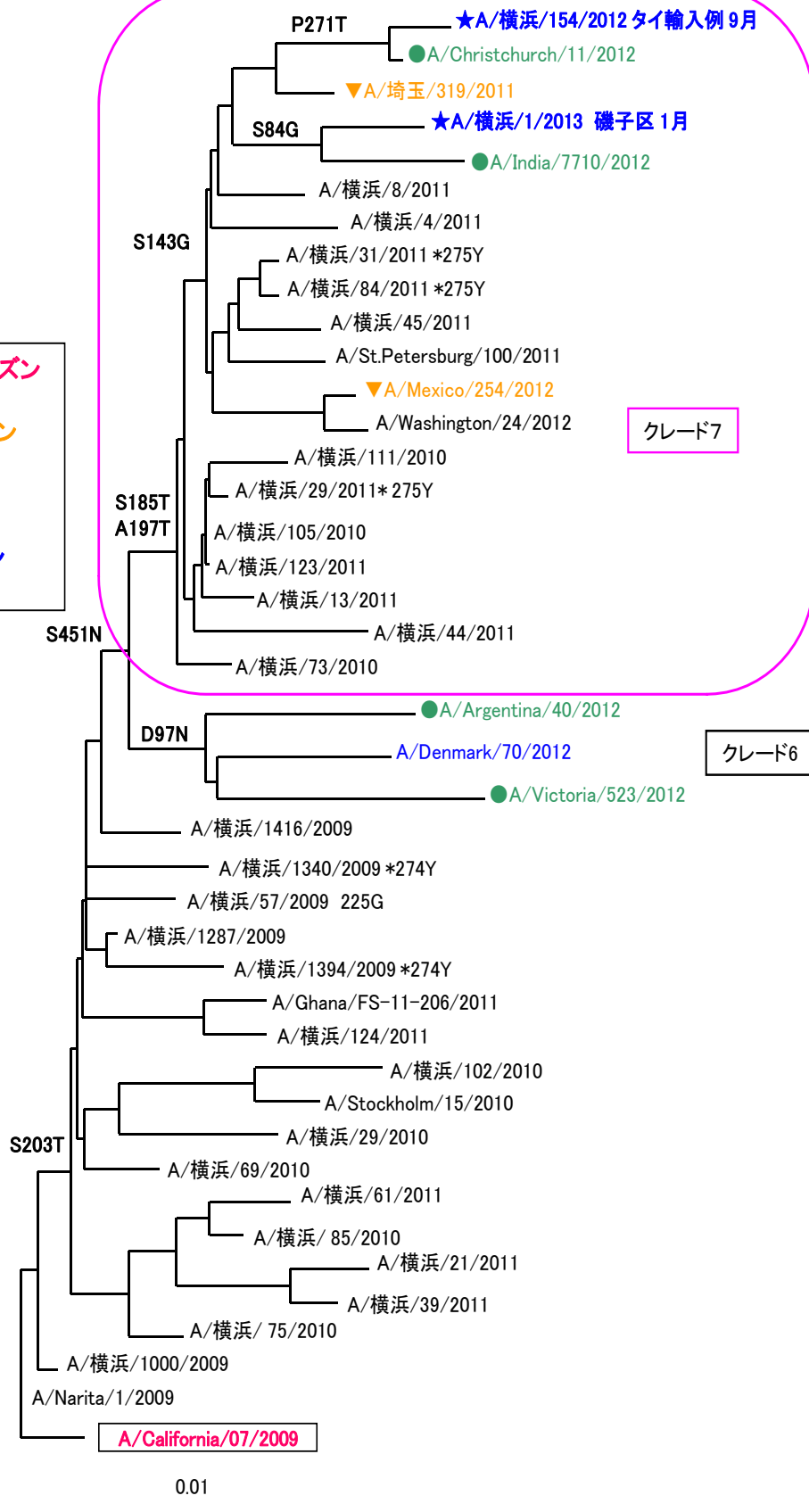


図4 AH1pdm09 ウイルスのHA1ポリペプチド(1702bp)のNJ系統樹

AH3型 HA1遺伝子 NJ系統樹 (1022bp)

枠内:2012/2013シーズン
ワクチン株
●:2012年7月分離株
2012/2013シーズン
分離株
☆:定点
▲:集団
□:入院例

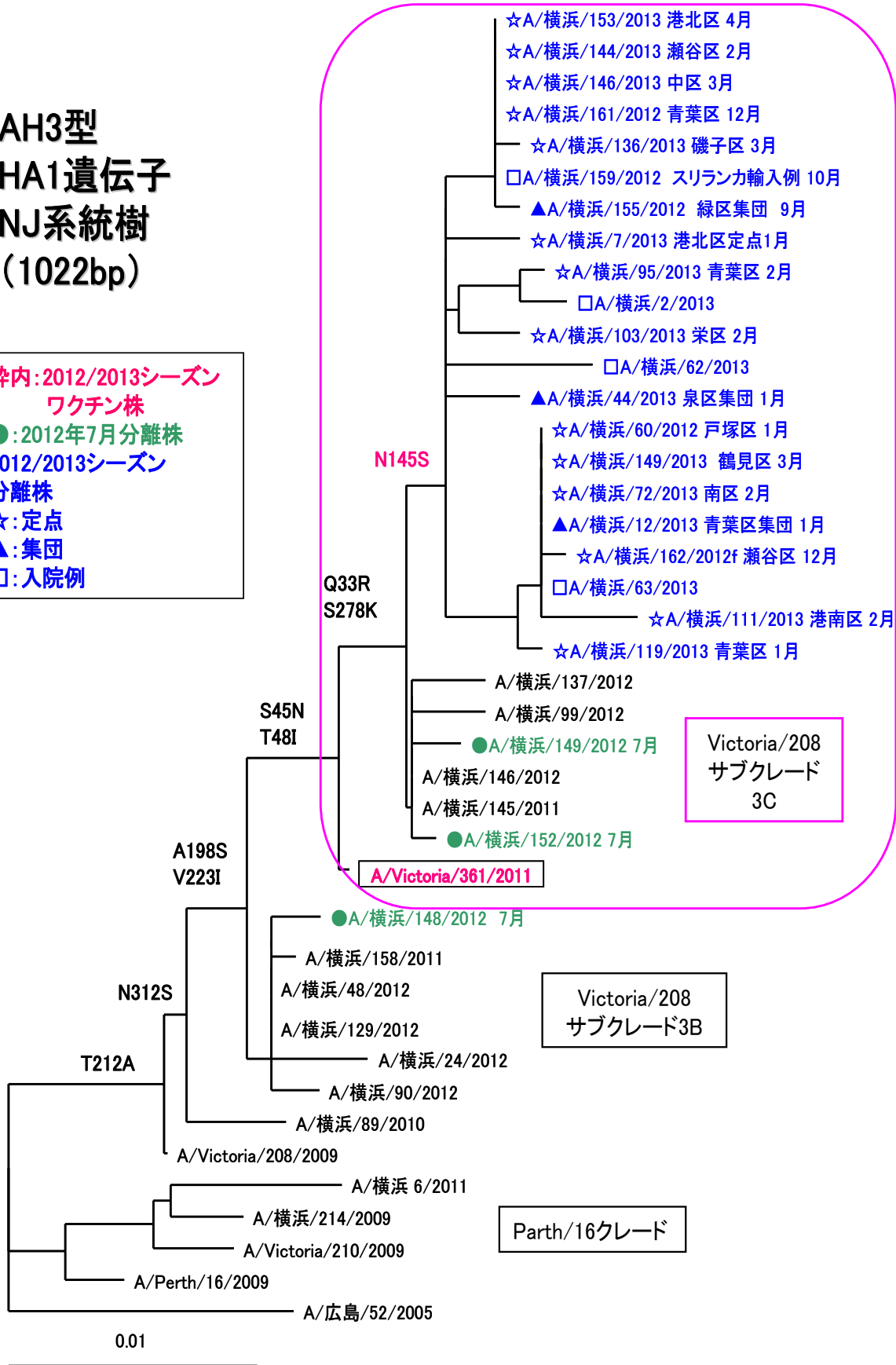


図5 A 香港 (H3) N2 ウイルスの HA1 ポリペプチド (1022 bp) の NJ 系統樹

B型 HA1遺伝子 NJ系統樹 (1041bp)

枠内: 2012/2013シーズン
 ワクチン株
 ●: 2013/2014シーズン
 ワクチン株
 2012/2013シーズン分離株
 ★: 定点
 □: 入院例

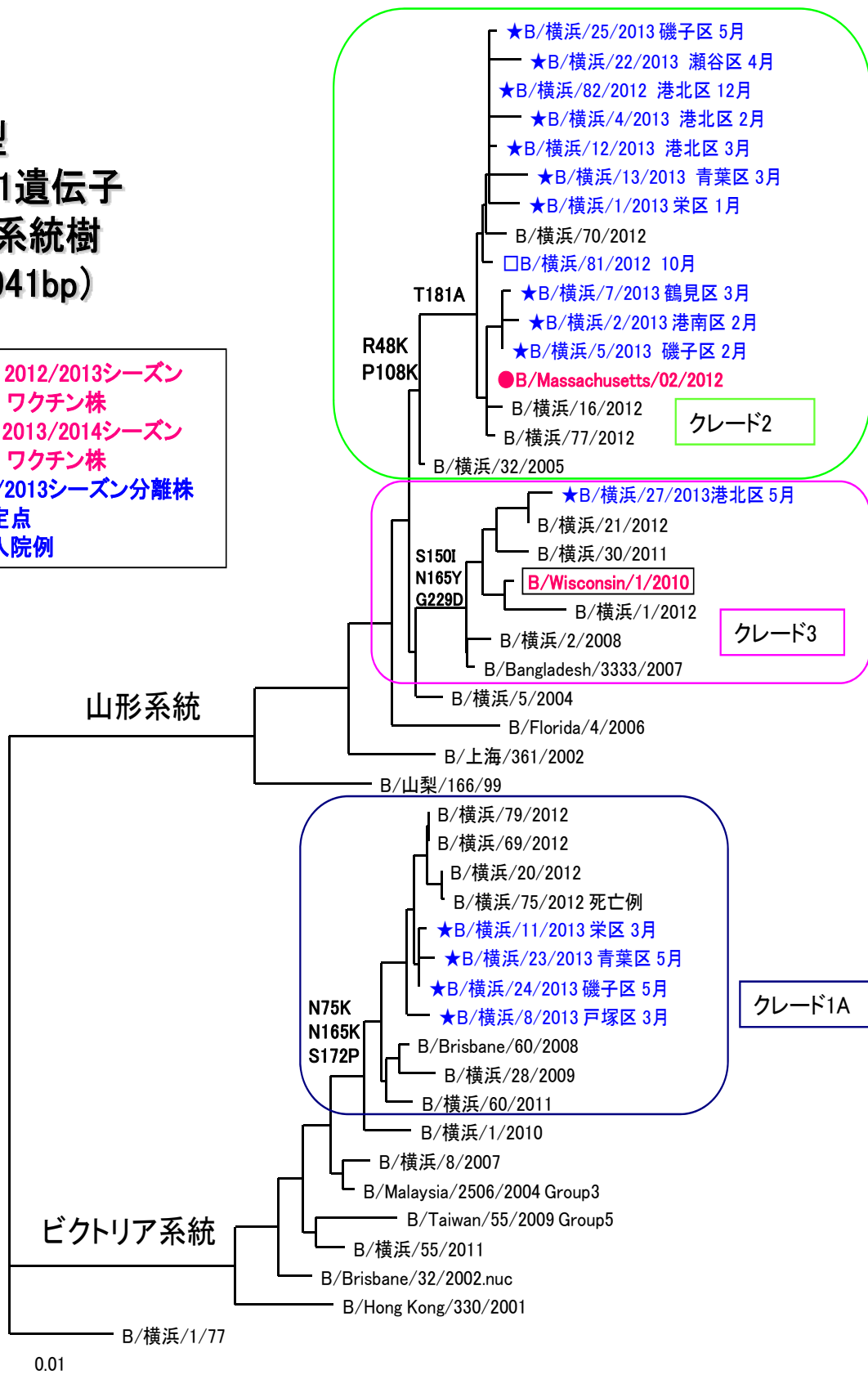


図6 B型ウイルスのHA1ポリペプチド(1041bp)のNJ系統樹

以上のように横浜市におけるインフルエンザの流行はA香港（H3）型ウイルスが主流であり、分離・検出数の84%を占めた。B型ウイルスは15%を占め、このうち山形系統が32件中26件（81.2%）で優勢であった。AH1pdm09ウイルスは2株分離されたのみで流行はみられなかった。A香港（H3）型ウイルスおよびAH1pdm09ウイルス、Victoria系統のB型ウイルスは、ワクチン株やレファレンス株と4倍以内の反応性を示した。山形系統のB型ウイルスはワクチン株と8倍以上反応性の低下した株が1株（4%）にみられた。系統樹解析では、AH1pdm09ウイルスはクレード7に含まれた。A香港（H3）型ウイルスはワクチン株のA/Victoria/361/2011と同じサブクレード3Cに含まれ、さらに3つのアミノ酸変異がみられた。B型ウイルスのうちVictoria系統の分離株は昨シーズン流行株と同じクレードに含まれたが、山形系統のウイルスの多くはワクチン株とは異なるクレードであった。今シーズンはノイラミニダーゼ阻害薬に対するNA遺伝子のアミノ酸耐性変異は検出されなかった。

（川上千春、小澤広規、百木智子、七種美和子、宇宿秀三、森田昌弘、水野哲宏）

③ 川崎市のインフルエンザの動向

川崎市健康安全研究所

・ 川崎市におけるインフルエンザ様疾患の発生状況

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様患者の発生状況(図1)によると、定点あたりの患者数が1.0人を超えたのが12月の第2週（第50週）で、その後患者数は増加し、25年1月の第4週に定点あたりの患者数が40.4人とピークを迎えた。その後患者数が減少し、4月の第2週（第15週）に1.0人を下回ったものの、再び増加し、最終的に5月の第3週（第20週）まで限局的に患者発生が継続して認められた。

・ インフルエンザウイルス分離状況

平成24年度は、合計107例のインフルエンザ様疾患患者の咽頭ぬぐい液及び鼻腔ぬぐい液が搬入され、RT-PCRで101例が陽性（94.3%）そのうちMDCK細胞にて89例（83.1%）からインフルエンザウイルスが分離された。血清型別では、AH1pdm09が2株、A香港型（H3N2）が74株、B型（ビクトリア系統）が4株、B型（山形系統）が9株分離された。

週別のインフルエンザウイルス分離状況(図2)では、初めてウイルスが分離されたのは24年4月の第15週でB型（ビクトリア系統）であった。分離数が増加したのは25年1月からで、第4週に19株とピークを迎え、その全てがA香港型（H3N2）であった。第8週以降、B型の割合が増え、分離数は漸減している。

年代別の分離状況(図3)では、A香港型（H3N2）が全年齢層で多くみられた。B型は0～12歳と乳児から学童までの年齢で多く検出された。今期のインフルエンザ様疾患患者からは、3血清型が分離され、A香港型（H3N2）が最も多く、A(H1N1)pdm09亜型は2株のみの分離であった。また、B型では2系統が検出され、その比は4(ビクトリア系統)：9(山形系統)であった。なお、A(H1N1)pdm09亜型においては薬剤耐性マーカーとなる遺伝子の解析を行い、2株ともにオセルタミビル感受性株であった。

（中島関子、清水英明）

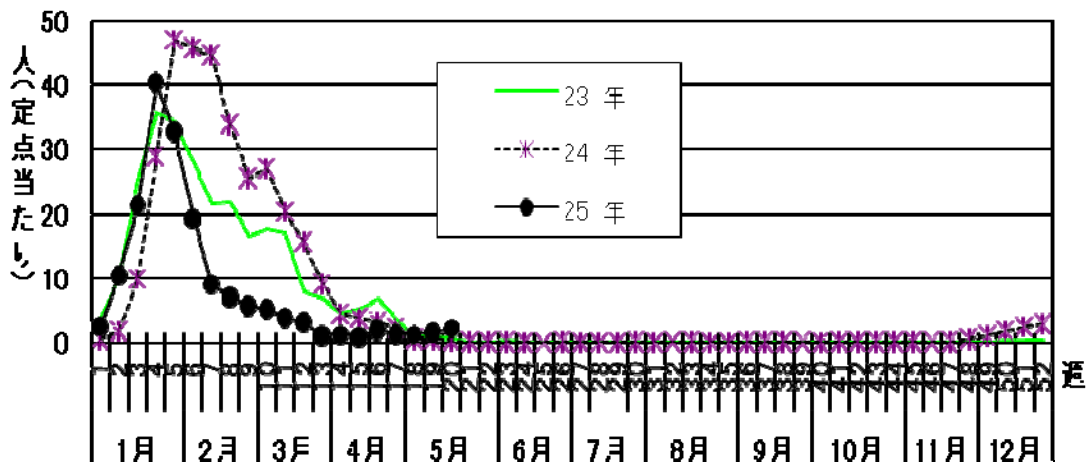


図1 インフルエンザ発生状況(3年間)

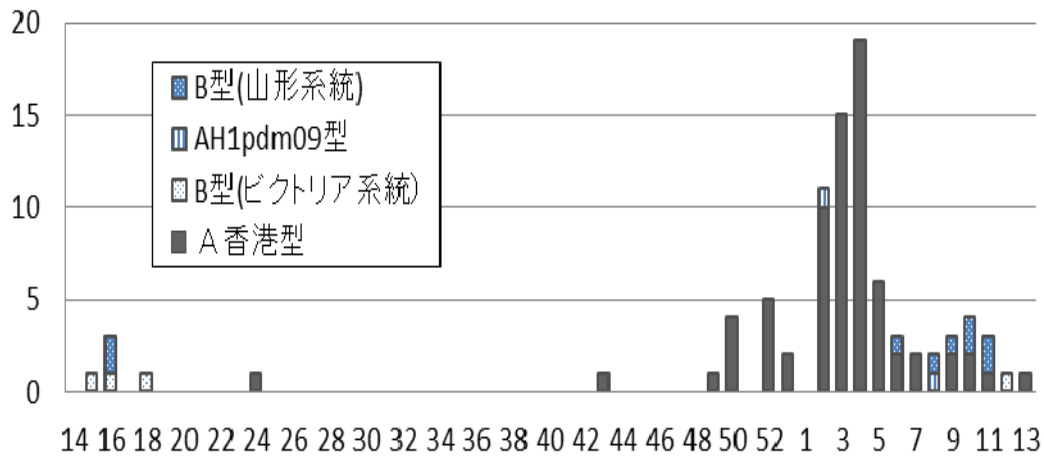


図2 週別インフルエンザウイルス分離状況

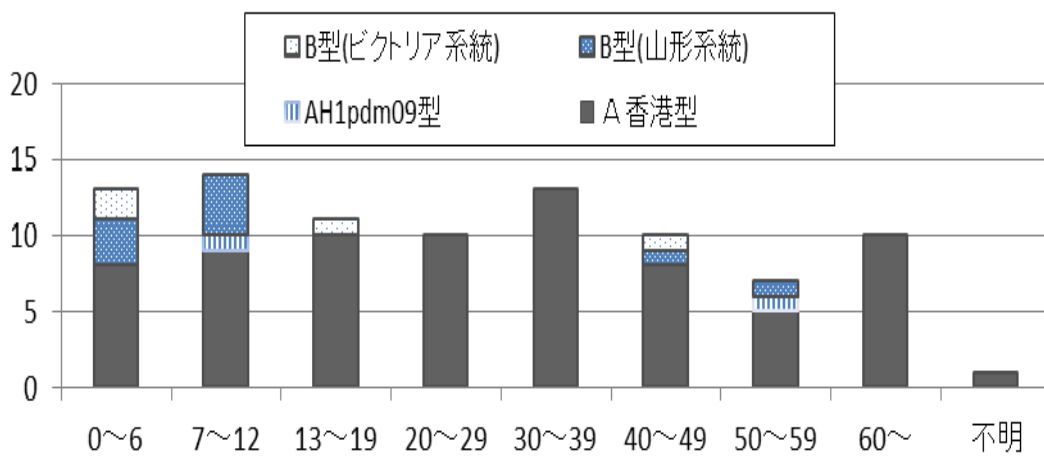


図3 年代別インフルエンザウイルス分離状況

④ インフルエンザ感受性調査

神奈川県衛生研究所

2012年7月に採取された0歳以上の県民216名（0～4歳22名、5～9歳23名、10～14歳22名、15～19歳22名、20～29歳25名、30～39歳25名、40～49歳24名、50～59歳28名、60歳以上25名）の血清について、赤血球凝集抑制試験を用いてインフルエンザ各型に対する年齢別抗体保有状況を調査した。使用抗原は、A/カリフォルニア/7/2009、A/ビクトリア/361/2011、B/ウィスコンシン/1/2010、B/ブリスベン/60/2008の4種類である。抗体保有率は、最低血清希釈倍数の10HI価と、重症化予防の目安と考えられる40HI価の2点で集計した。

A/カリフォルニア/7/2009は、2009/2010シーズン以後4シーズンに渡ってAH1pdm09のワクチン株に採用されている株である。本株に対する抗体保有率は、10HI価でみると最高が5～9歳の91.3%、最低が50～59歳の46.4%、40HI価でみると最高が15～19歳の81.8%、最低が0～4歳の27.3%であった。40HI価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に高くなっており、また、全年齢群における平均抗体保有率（40HI価以上）も46.3%と使用抗原4種類の中で最も高く、AH1pdm09が流行した2009/2010および2010/2011シーズンを反映していると考えられた。（図1）

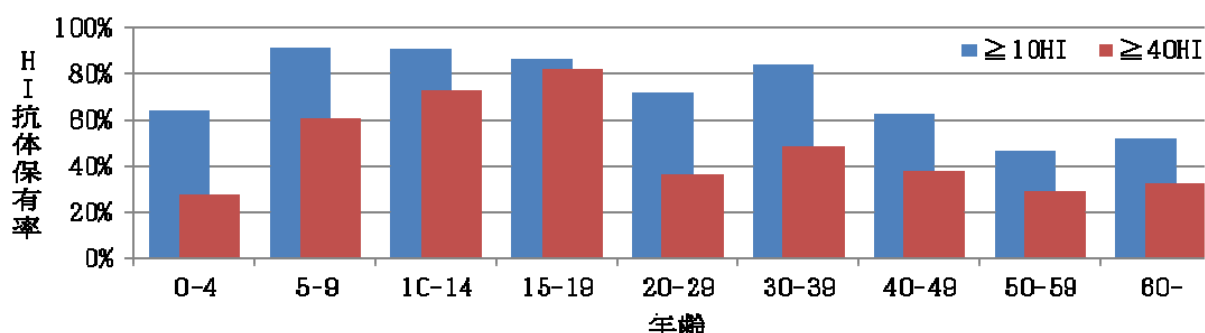


図1 A/カリフォルニア/7/2009 抗体保有率

A/ビクトリア/361/2011は、本シーズンからA香港(H3)型のワクチン株に採用された株である。本株に対する抗体保有率は、10HI価でみるとすべての年齢群で50%以上であったが、40HI価でみると最高が5～9歳の65.2%、最低が50～59歳の14.3%であった。40HI価以上の抗体保有率は、前年調査時よりも全体的に高くなっており、また、全年齢群における平均抗体保有率（40HI価以上）は46.3%となり、A/カリフォルニア/7/2009と同じく使用抗原4種類の中で最も高く、前シーズンA香港(H3)型の流行を反映していると考えられた。（図2）

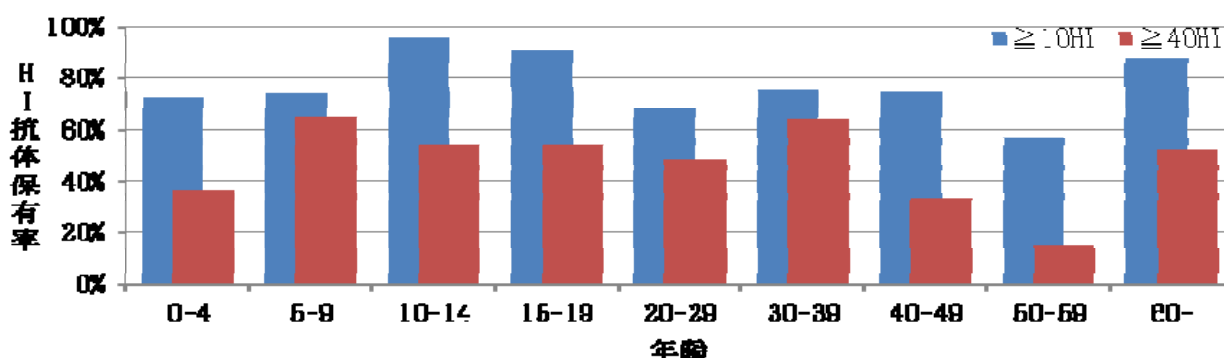


図2 A/ビクトリア/361/2011 抗体保有率

B/ウィスコンシン/1/2010 は、本シーズンから B 型のワクチン株として使用されており、“山形系統”に属する。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 20～29 歳の 84.0%、最低が 0～4 歳の 13.6%、40HI 価でみると最高が 20～29 歳の 40.0%、0～4 歳および 60 歳以上は 0.0%であった。全年齢群における平均抗体保有率（40HI 価以上）は 14.8%で使用抗原 4 種類の中で最も低かったが、抗体保有率は前年調査時よりも全体的に高くなっていた。（図 3）

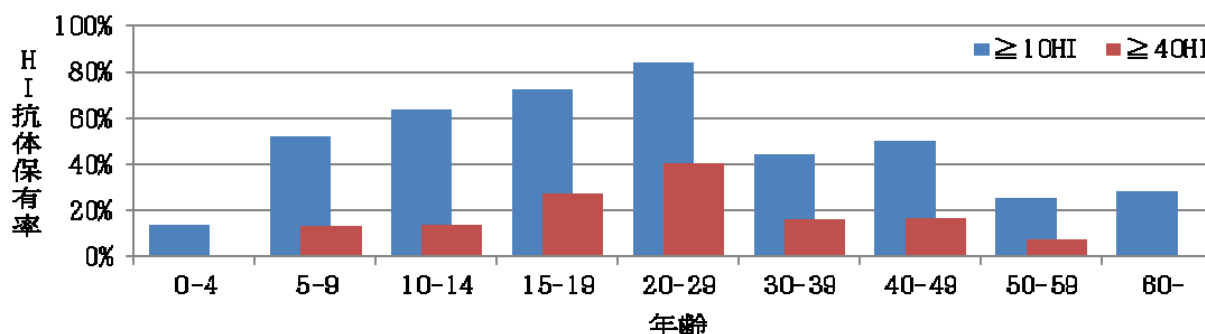


図 3 B/ウィスコンシン/1/2010 抗体保有率

B/ブリスベン/60/2008 は、2009/2010～2011/2012 の 3 シーズンに渡って B 型のワクチン株として使用された株であり、“ビクトリア系統”に属する。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみるとすべての年齢群で 50%以上であったが、40HI 価でみると最高が 30～39 歳の 52.0%、最低が 50～59 歳の 14.3%であった。40HI 価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に高くなっており、前シーズンの流行を反映していると考えられた。全年齢群における平均抗体保有率（40HI 価以上）は 31.0%であった。

(図 4)

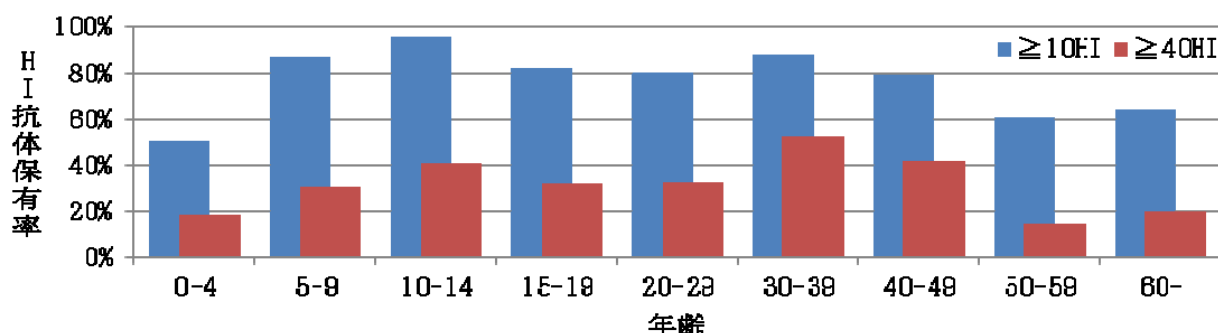


図 4 B/ブリスベン/60/2008 抗体保有率

神奈川県域における インフルエンザの前シーズンの流行は A 香港(H3)型が主流株で、B 型（ビクトリア系統）との混合流行であった。そのため、各型に対する抗体保有率が前年よりも高くなる傾向にあったと考えられた。しかしながら、40HI 価以上の抗体保有率が比較的低い（25%未満）の年齢層においては、インフルエンザウイルス各型に対する感受性者が多くいると考えられ、ワクチン接種による免疫強化が必要であると思われた。

(渡邊寿美、近藤真規子、丹羽加代子)

(2) HIV／エイズ

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）では、昭和 62 年 2 月より保健所において HIV 抗体検査の受付が開始され、当所で検査を行っている。平成 5 年 4 月からは HIV 抗体検査が無料化され、同年 8 月からは HIV-1 型抗体検査に加え、HIV-2 型抗体検査も実施可能となった。平成 11 年 8 月からは厚生労働省「HIV 検査体制研究班」の協力により、大和保健福祉事務所の検体について核酸増幅スクリーニング（NAT）検査を実施している。平成 17 年 8 月からは HIV 即日検査機関として横浜 YMCA（厚木）で日曜日に「神奈川県即日検査センター」（以下、即日検査センターと略）を開設、平成 18 年 4 月からは平塚保健福祉事務所、6 月からは厚木、茅ヶ崎、小田原各保健福祉事務所においても即日検査を開始した。また、平成 19 年 11 月から秦野保健福祉事務所において、HIV 検査受検者で性感染症検査を希望する人に対し、梅毒抗体検査、性器クラミジア抗体検査を実施している。

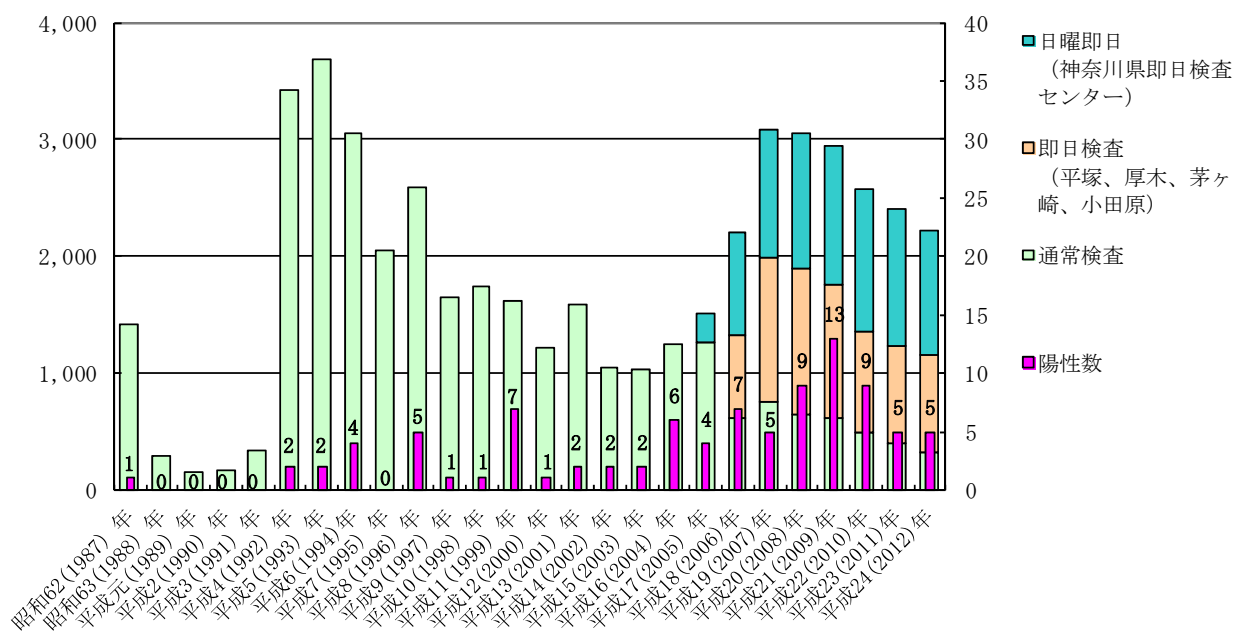
HIV 検査数は、検査が無料化された平成 5 年をピークに年々減少傾向であったが、全国的に即日検査の導入が始まった平成 16 年以降、当県でも検査数が増加し始め、平成 17 年の即日検査センターの設置、平成 18 年の保健福祉事務所への即日検査の導入により検査数が急激に増加した（図 1）。しかし、平成 19 年の検査数 3,080 件をピークに、平成 24 年は 2,212 件と減少傾向が続いている。

平成 24 年の検査種類別による検査数は、即日検査を実施している 4 箇所の保健福祉事務所（HWC）では 838 件、通常検査を実施している 5 箇所の HWC では 323 件、日曜即日検査では 1,051 件であった（表 1）。前年と比較し、即日検査実施 HWC では 1.7%増であったが、通常検査実施 HWC では 20.2%減、日曜即日検査では 10.6%減となった。通常検査実施 HWC での検査数の大幅な減少は、大和 HWC が夜間検査を休止した影響と思われる。

HIV 陽性数は 5 例であり、陽性率は 0.2%と前年と同様であった。陽性例の性別および国籍は、男性が 3 例、女性が 2 例であり、すべて日本国籍であった。型別を調べたところ 5 例ともに HIV-1 型であり、サブタイプ型別はすべてサブタイプ B であった（表 2）。サブタイプ B は欧米から 1980 年代中頃に日本に流入し、非加熱血液製剤による感染例や男性同性間の性的接触による感染例の主流株となっている。CRF01_AE はタイ型として知られており、異性間の性的接触や東南アジア等の出身の外国籍感染者に多く検出されている。平成 23 年には、サブタイプ B と CRF01_AE の組み換え体あるいは重複感染例を 2 例検出したが、本年は同様の例は見られなかった。

全国的に保健所等検査機関での HIV 検査数が減少傾向にあるが、早期発見・早期治療は感染者の予後を改善し、社会においても感染拡大の防止につながる。神奈川県でも検査数増加に向けた対策が必要であると考える。

（佐野貴子、佐多 辰、渡邊寿美、近藤真規子、丹羽加代子）



- * 相模原は平成12年4月から、藤沢は平成18年4月から保健所設置市となった。
- * 津久井は平成19年4月に相模原市に統合された。
- * 神奈川県即日検査センターは平成17年8月、平塚保健福祉事務所は平成18年4月、厚木、茅ヶ崎、小田原保健福祉事務所は平成18年6月から即日検査を開始した。

図1 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市）での HIV 検査数、陽性数の年次推移

表1 HIV 検査種類別による検査数、陽性数（平成18-24年）

検査種類別	即日検査* (4保健福祉事務所)			通常検査** (5保健福祉事務所)			日曜即日検査 (即日検査センター)			合計		
	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)
平成18年	712	2	0.3%	615	1	0.2%	874	4	0.5%	2,201	7	0.3%
平成19年	1,237	2	0.2%	750	1	0.1%	1,093	2	0.2%	3,080	5	0.2%
平成20年	1,258	2	0.2%	643	3	0.5%	1,146	4	0.3%	3,047	9	0.3%
平成21年	1,132	2	0.2%	621	5	0.8%	1,198	6	0.5%	2,951	13	0.4%
平成22年	872	4	0.5%	484	0	0.0%	1,216	5	0.4%	2,572	9	0.3%
平成23年	824	2	0.2%	405	1	0.2%	1,176	2	0.2%	2,405	5	0.2%
平成24年	838	3	0.4%	323	0	0.0%	1,051	2	0.2%	2,212	5	0.2%

*平塚、小田原、茅ヶ崎、厚木保健福祉事務所

**鎌倉、三崎、秦野、大和、足柄上保健福祉事務所

表2 HIV陽性例のHIV-1型サブタイプ型別（平成18-24年）

陽性数	サブタイプB				CRF01_AE				サブタイプB/CRF01_AE				不明
	男性		女性		男性		女性		男性		女性		
	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	
平成18年	7	5			1			1					
平成19年	5	2			1			1					1
平成20年	9	4		1		1	1	2					
平成21年	13	9				1		1					2
平成22年	9	5		1	1			2					
平成23年	5	3							1			1	
平成24年	5	3		2									

② 藤沢市におけるHIV即日検査の実施状況

藤沢市保健所

原則週1回木曜日の午前中に通常即日検査を実施し、それとは別に6月のHIV検査普及週間と10月に平日夜間即日検査、12月の世界エイズデーに合わせて休日即日検査を実施した。

検査はイムノクロマト法による血中抗HIV-1及びHIV-2抗体検出キットを使用して行い、本法で陽性または判定が困難であった検体については結果を判定保留とし、神奈川県衛生研究所に当該検体の精密検査を依頼した。

平成24年の検査数は430件で、内訳は通常即日検査が324件、平日夜間及び休日即日検査が各々71件及び35件であった。判定保留は4件あり、県衛生研究所の精密検査において、4件中3件が陽性と判定された。

(石井圭、松葉友美、平井有紀、佐藤健)

表 藤沢市のHIV即日検査数

No	検査種類	検査数	判定保留数	陽性数
1	通常即日検査	324	4	3
2	平日夜間即日検査	71	0	0
3	休日即日検査	35	0	0
	計	430	4	3

(3) ウイルス性感染性胃腸炎

平成 24 年は感染性胃腸炎の神奈川県全体の報告数は第 49 週に流行のピークがみられた。年齢別では、1 歳に報告が多かった。

(3) -1

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県における感染症予測監視事業の一環として、神奈川県域（川崎市、横浜市、横須賀市、相模原市および藤沢市を除く）の各小児科定点医療機関から得られた感染性胃腸炎患者の検体から原因ウイルスの検索を行った。

検索対象ウイルスは、ノロウイルス、A群ロタウイルス、アデノウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、C群ロタウイルスとした。

検査の結果、271 検体中 140 検体から感染性胃腸炎の原因ウイルスが検出された。検出数は、ノロウイルスが 83 検体、A群ロタウイルスが 33 検体、アデノウイルスが 6 検体、サポウイルスが 17 検体およびアストロウイルスが 4 検体で、C群ロタウイルスは検出されなかった。ノロウイルスは各年齢層で検出されたが、その他のウイルスは、大半が 6 歳以下の小児からの検出であった。

集計を行った平成 24 年 1 月から平成 24 年 12 月では、9 月を除いた月でウイルスの検出が認められ、8 月はノロウイルスのみの検出であったが、その他の月では 2 種類以上のウイルスが検出された。

ウイルスごとの検出状況をみると、ノロウイルスは春期から夏期にかけて検出数は減少し 8 月から 10 月には検出されなかったが、11 月、12 月には検出数が急増した。ノロウイルスの genogroup（以下、G）をみると、83 例のうち 75 例が G II、8 例が G I であり、検出数の増加した 11 月以降は G II/4 変異型が検出されるようになった。A群ロタウイルス、アデノウイルス、アストロウイルスは春期、サポウイルスは冬期から春期に検出が多かった。同時検出例は 3 例でノロウイルス G I と G II が 2 例、A群ロタウイルスとサポウイルスが 1 例あった。

（鈴木理恵子、金城恵子、木村睦未、近藤真紀規子、丹羽加代子）

表 1 年齢別ウイルス検出状況（平成 24 年 1 月～12 月）

	検体数	陽性検体数	検出ウイルス						検出数
			ノロウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	C群ロタウイルス	
6歳以下	181	100 ¹⁾	47	32	5	14	3	0	101
7～12歳	27	11	10	0	1	1	0	0	12
13～22歳	5	1 ²⁾	1	0	0	0	0	0	1
23～64歳	51	26	22	1	0	2	1	0	26
65歳以上	5	2 ²⁾	3	0	0	0	0	0	3
不明	2	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	271	140	83	33	6	17	4	0	143

1：複数ウイルス検出例（ノロウイルス G I，G II）

2：複数ウイルス検出例（A群ロタウイルス，サポウイルス）

表 2 発病月別ウイルス検出状況

年 月	陽性数							検出数
	ノロウイルス		A群ロタウイルス	アデノウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	C群ロタウイルス	
	G I ¹⁾	G II ²⁾						
平成24年 1月	1	10	1	0	3	1	0	16
2月	0	3	1	0	0	0	0	4
3月	0	3	10 ¹⁾	1	1 ¹⁾	0	0	15
4月	5 ¹⁾	6 ¹⁾	5	0	0	1	0	17
5月	0	3	11	1	2	0	0	17
6月	0	2	5	3	0	2	0	12
7月	0	1	0	0	1	0	0	2
8月	1	0	0	0	0	0	0	1
9月	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	1	1	0	0	2
11月	0	18	0	0	5	0	0	23
12月	1 ¹⁾	29 ¹⁾	0	0	4	0	0	34
小計	8	75						
合計	83		33	6	17	4	0	143

1：同時検出例を含む

(3) -2

平成 24 年のウイルス性集団胃腸炎の集団発生数は前年の 138 事例より多く 206 事例であり、横浜市が最も多く 164 事例であった。

	平成22年				平成23年				平成24年			
	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)
横浜市	129	523	381	73	104	442	336	76	164	767	531	69
川崎市	6	33	16	48	14	35	31	89	15	71	48	68
相模原市	1	2	2	100	—	—	—	—	4	72	42	58
横須賀市	2	15	14	93	7	91	45	49	6	32	22	81
藤沢市	5	20	18	90	6	19	14	74	7	27	24	89
上記を除く神奈川県	5	88	33	38	7	18	16	89	10	27	27	100
計	148	681	464	68	138	605	442	73	206	996	694	70

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が 10 事例確認された。いずれもの事例もノロウイルスによる事例で遺伝子群 G II による事例で、11 月以降に発生した 3 事例は、2012/2013 シーズンに流行した G II /4 変異型による事例であった。ノロウイルス以外の集団発生は平成 21 年に C 群ロタウイルス、平成 22 年に A 群ロタウイルス（G 1）、平成 23 年には A 群ロタウイルス（G 3）による集団事例があったが、平成 24 年はノロウイルス以外の下痢症ウイルスを原因とした事例の発生はなかった。

（鈴木理恵子、木村睦未、金城恵子、近藤真規子、丹羽加代子）

表 神奈川県ウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H24.1	高齢者福祉施設	4	4	4	ノロウイルス	G II
2	H24.1	高齢者福祉施設	10	3	3	ノロウイルス	G II
3	H24.1	高齢者福祉施設	11	1	1	ノロウイルス	G II
4	H24.1	高齢者福祉施設	不明	3	3	ノロウイルス	G II
5	H24.2	高齢者福祉施設	32	1	1	ノロウイルス	G II
6	H24.2	高齢者福祉施設	3	1	1	ノロウイルス	G II
7	H24.7	高齢者福祉施設	8	2	2	ノロウイルス	G II
8	H24.12	高齢者福祉施設	不明	5	5	ノロウイルス	G II
9	H24.12	高齢者福祉施設	不明	4	4	ノロウイルス	G II
10	H24.12	高齢者福祉施設	8	3	3	ノロウイルス	G II

② 横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横浜市衛生研究所

平成 24 年における横浜市内で発生した感染症としての集団発生事例の取扱事例数は 164 事例であった。ノロウイルスが 146 事例より検出され、その遺伝子群は GⅡが 136 事例、GⅠが 8 事例、GⅠと GⅡの混合事例が 2 事例であり、GⅡが大部分を占め全国の状況と一致していた。その他にロタウイルスが 6 事例、サポウイルスが 5 事例より検出され、さらにサポウイルスとノロウイルスの混合事例が 1 事例あった。なお、6 事例は起因ウイルス不明であった。

(熊崎真琴、小澤広規、宇宿秀三、森田昌弘)

表 横浜市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H24.1	高齢者施設	31	9	7	ノロウイルス	GⅡ
2	H24.1	福祉施設	9	2	2	ノロウイルス	GⅡ
3	H24.1	高齢者施設	12	3	3	ノロウイルス	GⅡ
4	H24.1	高齢者施設	39	4	3	ノロウイルス	GⅡ
5	H24.1	高齢者施設	8	2	2	ノロウイルス	GⅡ
6	H24.1	病院	23	4	3	ノロウイルス	GⅡ
7	H24.1	高齢者施設	13	3	3	ノロウイルス	GⅡ
8	H24.1	高齢者施設	16	3	3	ノロウイルス	GⅡ
9	H24.1	高齢者施設	23	2	2	ノロウイルス	GⅡ
10	H24.1	高齢者施設	23	8	7	ノロウイルス	GⅡ
11	H24.1	福祉施設	21	6	4	ノロウイルス	GⅡ
12	H24.1	高齢者施設	7	1	1	ノロウイルス	GⅡ
13	H24.1	福祉施設	11	6	6	ノロウイルス	GⅡ
14	H24.1	福祉施設	7	3	2	ノロウイルス	GⅡ
15	H24.1	飲食店	10	39	10	ノロウイルス	GⅡ
16	H24.1	保育園	12	2	2	ノロウイルス	GⅡ
17	H24.1	小学校	28	3	3	ノロウイルス	GⅡ
18	H24.1	高齢者施設	不明	4	3	ノロウイルス	GⅡ
19	H24.1	保育園	不明	4	4	ノロウイルス	GⅡ
20	H24.1	高齢者施設	不明	5	2	ノロウイルス	GⅡ
21	H24.1	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	GⅠ
22	H24.1	小学校	不明	5	3	ノロウイルス	GⅡ
23	H24.1	高齢者施設	11	8	8	ノロウイルス	GⅡ
24	H24.1	高齢者施設	不明	4	4	ノロウイルス	GⅡ

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
25	H24.1	高齢者施設	不明	2	2	ノロウイルス	GⅡ
26	H24.1	保育園	不明	3	3	ノロウイルス	GⅡ
27	H24.1	保育園	不明	2	1	ノロウイルス	GⅡ
28	H24.1	高齢者施設	不明	14	2	ノロウイルス	GⅡ
29	H24.1	福祉施設	不明	3	3	ノロウイルス	GⅡ
30	H24.1	福祉施設	不明	4	4	ノロウイルス	GⅡ
31	H24.2	高齢者施設	不明	6	6	ノロウイルス	GⅡ
32	H24.2	病院	不明	5	5	ノロウイルス	GⅡ
33	H24.2	高齢者施設	不明	5	4	ノロウイルス	GⅡ
34	H24.2	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	GⅡ
35	H24.2	保育園	不明	2	2	ロタウイルス	
36	H24.2	高齢者施設	不明	1	1	ノロウイルス	GⅡ
37	H24.2	高齢者施設	不明	5	4	ノロウイルス	GⅡ
38	H24.2	小学校	不明	3	1	ノロウイルス	GⅠ
39	H24.2	小学校	不明	4	4	サポウイルス	
40	H24.2	保育園	不明	8	6	ノロウイルス	GⅠ
41	H24.2	保育園	17	2	2	ノロウイルス	GⅡ
42	H24.2	小学校	不明	2	2	ロタウイルス	
43	H24.2	その他	不明	2	2	ノロウイルス	GⅡ
44	H24.2	その他	3	2	2	ノロウイルス	GⅡ
45	H24.2	小学校	18	3	3	ロタウイルス	
46	H24.2	小学校	不明	4	2	ノロウイルス	GⅠ
47	H24.2	保育園	不明	3	3	ノロウイルス	GⅡ
48	H24.3	小学校	不明	5	5	ノロウイルス	GⅠ、GⅡ
49	H24.3	高齢者施設	不明	4	3	ノロウイルス	GⅡ
50	H24.3	高齢者施設	不明	3	3	ノロウイルス	GⅡ
51	H24.3	小学校	不明	7	3	ノロウイルス	GⅡ
52	H24.3	幼稚園	13	3	2	ノロウイルス	GⅡ
53	H24.3	幼稚園	不明	5	5	ロタウイルス	
54	H24.3	小学校	不明	4	3	ノロウイルス	GⅡ
55	H24.3	高齢者施設	不明	1	1	ノロウイルス	GⅡ
56	H24.3	保育園	不明	2	1	ノロウイルス	GⅡ
57	H24.3	飲食店	不明	11	7	ノロウイルス	GⅡ
58	H24.4	高齢者施設	不明	2	2	ノロウイルス	GⅡ
59	H24.4	保育園	不明	6	6	ノロウイルス	GⅡ
60	H24.4	保育園	25	4	4	ロタウイルス	
61	H24.4	保育園	16	2	2	ノロウイルス	GⅡ
62	H24.4	高齢者施設	42	3	2	ロタウイルス	

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
63	H24. 4	保育園	34	4	2	ノロウイルス	GⅡ
64	H24. 4	小学校	16	4	3	ノロウイルス	GⅡ
65	H24. 4	小学校	40	5	4	ノロウイルス	GⅡ
66	H24. 5	小学校	61	5	5	ノロウイルス	GⅡ
67	H24. 5	小学校	10	3	2	ノロウイルス	GⅡ
68	H24. 5	保育園	30	3	1	ノロウイルス	GⅡ
69	H24. 5	保育園	28	2	1	ノロウイルス	GⅡ
70	H24. 5	小学校	8	2	2	ノロウイルス	GⅡ
71	H24. 5	保育園	33	4	1	ノロウイルス	GⅡ
72	H24. 6	小学校	97	19	7	サポウイルス、ノロウイルス	
73	H24. 6	小学校	9	4	4	ノロウイルス	GⅡ
74	H24. 6	小学校	19	2	2	サポウイルス	
75	H24. 7	福祉施設	7	22	10	サポウイルス	
76	H24. 9	保育園	20	10	4	ノロウイルス	GⅠ
77	H24. 10	高齢者施設	8	5	2	ノロウイルス	GⅡ
78	H24. 10	高齢者施設	12	9	8	ノロウイルス	GⅡ
79	H24. 11	保育園	12	5	3	ノロウイルス	GⅡ
80	H24. 11	小学校	9	3	2	ノロウイルス	GⅡ
81	H24. 11	保育園	11	4	4	ノロウイルス	GⅡ
82	H24. 11	保育園	10	5	3	ノロウイルス	GⅡ
83	H24. 11	高齢者施設	8	4	4	ノロウイルス	GⅡ
84	H24. 11	小学校	6	4	4	サポウイルス	
85	H24. 11	保育園	13	4	3	ノロウイルス	GⅡ
86	H24. 11	保育園	9	9	4	ノロウイルス	GⅡ
87	H24. 11	保育園	7	5	2	ノロウイルス	GⅡ
88	H24. 11	保育園	7	3	3	ノロウイルス	GⅡ
89	H24. 11	保育園	12	4	4	ノロウイルス	GⅡ
90	H24. 11	保育園	12	4	3	ノロウイルス	GⅡ
91	H24. 11	高齢者施設	不明	4	4	ノロウイルス	GⅡ
92	H24. 11	保育園	12	8	3	ノロウイルス	GⅡ
93	H24. 11	高齢者施設	4	1	1	ノロウイルス	GⅡ
94	H24. 11	保育園	10	4	4	ノロウイルス	GⅡ
95	H24. 11	保育園	12	3	2	ノロウイルス	GⅡ
96	H24. 11	小学校	8	5	4	ノロウイルス	GⅠ
97	H24. 11	保育園	12	4	2	ノロウイルス	GⅡ
98	H24. 11	病院	18	4	4	ノロウイルス	GⅡ
99	H24. 11	高齢者施設	13	4	4	ノロウイルス	GⅡ
100	H24. 11	幼稚園	30	12	5	ノロウイルス	GⅡ

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
101	H24. 11	保育園	6	5	2	ノロウイルス	GⅡ
102	H24. 11	小学校	18	3	3	ノロウイルス	GⅡ
103	H24. 11	高齢者施設	10	8	3	ノロウイルス	GⅡ
104	H24. 11	小学校	5	2	2	ノロウイルス	GⅠ、GⅡ
105	H24. 11	保育園	10	2	1	ノロウイルス	GⅡ
106	H24. 11	保育園	16	4	4	ノロウイルス	GⅡ
107	H24. 11	保育園	13	4	3	ノロウイルス	GⅡ
108	H24. 12	保育園	10	7	7	ノロウイルス	GⅡ
109	H24. 12	小学校	21	2	2	ノロウイルス	GⅡ
110	H24. 12	小学校	11	6	6	ノロウイルス	GⅡ
111	H24. 12	保育園	19	3	2	ノロウイルス	GⅡ
112	H24. 12	高齢者施設	16	5	5	ノロウイルス	GⅡ
113	H24. 12	保育園	33	5	5	ノロウイルス	GⅡ
114	H24. 12	高齢者施設	7	13	4	ノロウイルス	GⅡ
115	H24. 12	保育園	18	7	6	ノロウイルス	GⅡ
116	H24. 12	高齢者施設	12	4	4	ノロウイルス	GⅡ
117	H24. 12	高齢者施設	17	2	1	ノロウイルス	GⅡ
118	H24. 12	保育園	21	9	4	ノロウイルス	GⅡ
119	H24. 12	保育園	11	3	3	ノロウイルス	GⅡ
120	H24. 12	保育園	18	4	4	ノロウイルス	GⅡ
121	H24. 12	福祉施設	18	4	3	ノロウイルス	GⅡ
122	H24. 12	保育園	12	10	7	ノロウイルス	GⅡ
123	H24. 12	高齢者施設	17	18	9	ノロウイルス	GⅡ
124	H24. 12	小学校	24	4	4	ノロウイルス	GⅡ
125	H24. 12	保育園	22	7	5	ノロウイルス	GⅡ
126	H24. 12	小学校	31	4	3	ノロウイルス	GⅡ
127	H24. 12	保育園	11	4	2	ノロウイルス	GⅡ
128	H24. 12	高齢者施設	8	20	11	ノロウイルス	GⅡ
129	H24. 12	幼稚園	9	3	3	ノロウイルス	GⅡ
130	H24. 12	高齢者施設	10	8	2	ノロウイルス	GⅡ
131	H24. 12	保育園	18	3	1	ノロウイルス	GⅡ
132	H24. 12	高齢者施設	17	3	2	ノロウイルス	GⅡ
133	H24. 12	小学校	7	2	2	ノロウイルス	GⅡ
134	H24. 12	小学校	59	3	3	ノロウイルス	GⅡ
135	H24. 12	小学校	9	3	3	ノロウイルス	GⅡ
136	H24. 12	保育園	30	8	4	ノロウイルス	GⅡ
137	H24. 12	高齢者施設	11	2	2	ノロウイルス	GⅡ
138	H24. 12	小学校	27	5	3	ノロウイルス	GⅠ

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
139	H24.12	保育園	21	2	2	ノロウイルス	GⅡ
140	H24.12	小学校	14	3	2	ノロウイルス	GⅡ
141	H24.12	小学校	15	2	2	ノロウイルス	GⅡ
142	H24.12	高齢者施設	20	8	2	ノロウイルス	GⅡ
143	H24.12	高齢者施設	7	4	4	ノロウイルス	GⅡ
144	H24.12	小学校	11	1	1	ノロウイルス	GⅠ
145	H24.12	高齢者施設	不明	3	3	ノロウイルス	GⅡ
146	H24.12	小学校	14	5	5	ノロウイルス	GⅡ
147	H24.12	高齢者施設	14	3	1	ノロウイルス	GⅡ
148	H24.12	小学校	7	1	1	ノロウイルス	GⅡ
149	H24.12	高齢者施設	30	3	2	ノロウイルス	GⅡ
150	H24.12	高齢者施設	4	4	4	ノロウイルス	GⅡ
151	H24.12	高齢者施設	10	4	1	ノロウイルス	GⅡ
152	H24.12	保育園	13	3	3	サポウイルス	
153	H24.12	その他	10	3	3	ノロウイルス	GⅡ
154	H24.12	高齢者施設	8	3	2	ノロウイルス	GⅡ
155	H24.12	高齢者施設	12	3	3	ノロウイルス	GⅡ
156	H24.12	高齢者施設	3	1	1	ノロウイルス	GⅡ
157	H24.12	高齢者施設	19	6	6	ノロウイルス	GⅡ
158	H24.12	病院	56	8	8	ノロウイルス	GⅡ
				767	531		

③ 川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

川崎市健康安全研究所

川崎市ではノロウイルスを原因とした集団胃腸炎が 15 例発生した。検出された遺伝子群は G I が 1 例、G II が 14 例であった。

(松島勇紀、清水英明)

表 川崎市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H24. 1	高齢者福祉施設	48	3	2	ノロウイルス	G II
2	H24. 1	高齢者福祉施設	33	1	1	ノロウイルス	G II
3	H24. 1	高齢者福祉施設	25	2	2	ノロウイルス	G II
4	H24. 1	高齢者福祉施設	20	1	1	ノロウイルス	G II
5	H24. 1	高齢者福祉施設	29	3	2	ノロウイルス	G II
6	H24. 2	高齢者福祉施設	9	1	1	ノロウイルス	G II
7	H24. 2	高齢者福祉施設	9	3	2	ノロウイルス	G II
8	H24. 2	高齢者福祉施設	6	2	2	ノロウイルス	G II
9	H24. 2	高齢者福祉施設	10	3	3	ノロウイルス	G II
10	H24. 4	高齢者福祉施設	31	6	3	ノロウイルス	G II
11	H24. 6	小学校	57	35	22	ノロウイルス	G I
12	H24. 11	高齢者福祉施設	26	4	3	ノロウイルス	G II
13	H24. 11	保育園	10	2	1	ノロウイルス	G II
14	H24. 12	高齢者福祉施設	119	2	1	ノロウイルス	G II
15	H24. 12	高齢者福祉施設	51	3	2	ノロウイルス	G II

④ 相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

相模原市衛生試験所

平成 24 年 1 月から 12 月の間において、ノロウイルスによるものが 3 例、ロタウイルスによる集団胃腸炎が 1 例報告された。検出されたノロウイルスの遺伝子群はすべてノロウイルス G II だった。

(田村有美、鷺谷則子、佐藤宏樹、鈴木敏彦、笹野亜也子、金沢聡子、望月響子)

表 相模原市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス
1	H24. 1	高齢者福祉施設	不明	4	3	ノロウイルス G II
2	H24. 3	学校	6	15	2	ロタウイルス
3	H24. 11	病院	26	34	23	ノロウイルス G II
4	H24. 12	保育園	不明	19	14	ノロウイルス G II

⑤ 横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市ではノロウイルスが原因の集団胃腸炎が6事例発生した。遺伝子群は6事例すべてGⅡであった。

(沼田和也)

表 横須賀市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果（平成24年）

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H24.1	高齢者福祉施設	6	6	6	ノロウイルス	GⅡ
2	H24.1	高齢者福祉施設	4	4	2	ノロウイルス	GⅡ
3	H24.1	高齢者福祉施設	3	3	3	ノロウイルス	GⅡ
4	H24.7	高齢者福祉施設	11	3	2	ノロウイルス	GⅡ
5	H24.12	飲食店	8	8	2	ノロウイルス	GⅡ
6	H24.12	病院	8	8	7	ノロウイルス	GⅡ
合計			40	32	22		

⑥ 藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

藤沢市保健所

平成24年1月から12月の間に、ノロウイルスによる集団胃腸炎が7例発生した。いずれも施設内での感染が疑われた事例で、検出数は22件で遺伝子群はすべてGⅡであった。その他にサポウイルスが1事例より検出された。

(石井圭、松葉友美、平井有紀、佐藤健)

表 藤沢市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No	発症月日	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H24.1	高齢者施設	22	5	5	ノロウイルス	GⅡ
2	H24.1	高齢者施設	9	2	2	サポウイルス	
3	H24.2	高齢者施設	23	2	2	ノロウイルス	GⅡ
4	H24.12	高齢者施設	44	5	4	ノロウイルス	GⅡ
5	H24.12	高齢者施設	22	4	3	ノロウイルス	GⅡ
6	H24.12	高齢者施設	50	4	3	ノロウイルス	GⅡ
7	H24.12	高齢者施設	19	4	4	ノロウイルス	GⅡ
8	H24.12	高齢者施設	4	1	1	ノロウイルス	GⅡ
計			193	27	24		

(4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の検査状況

神奈川県衛生研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 61 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、42 例から 44 株のウイルスを分離・同定した。その内訳は、コクサッキーウイルス (C) A16 型 21 株、CA6 型 8 株、CA5 型 1 株、CA9 型 1 株、エンテロウイルス (EV) 71 型 7 株、ライノウイルス 4 株、エコーウイルス 7 型 1 株、アデノウイルス 1 型 1 株であった。このうち同一患者検体から重複して検出された例が 2 例あり、CA6 型とライノウイルスが 1 例、CA6 型とアデノウイルス 1 型が 1 例であった。平成 24 年は、夏季は CA16 型、秋季は EV71 型と CA6 型が多く検出された。

<ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 80 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、70 例から 71 株のウイルスを分離・同定した。その内訳は、コクサッキーウイルス (C) A4 型 34 株、CA5 型 19 株、CA2 型 5 株、CA6 型 4 株、CA8 型 1 株、CA9 型 1 株、CB2 型 1 株、エコーウイルス (E) 6 型 2 株、ライノウイルス 2 株、ポリオウイルス 1 型 1 株、単純ヘルペスウイルス 1 型 1 株であり、このうち同一患者検体から CA5 型と E6 型が重複して検出された。平成 24 年は CA4 型が流行の主流となった。

<咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 37 例についてウイルス分離検査を実施したところ、29 株のウイルスが検出された。最も多く検出されたウイルスは、アデノウイルス (Ad)3 型 14 株で、その他 Ad2 型 12 株、Ad1 型 1 株及び Ad5 型 1、エコーウイルス 6 型 1 株が検出された。

(佐野貴子、佐多 辰、渡邊寿美、近藤真規子、丹羽加代子)

② 川崎市の検出状況

川崎市健康安全研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 5 例についてウイルス分離検査を実施したところ、4 例からウイルスが検出された。

検出されたウイルスはコクサッキー A5 型 1 株、コクサッキー A16 型 3 株であった。

(松島勇紀、清水英明)

(5) 蚊媒介感染症

① 横浜市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

横浜市衛生研究所

1999 年の米国へのウエストナイルウイルス (WNV) の侵入、およびその後の流行に伴い、横浜市は行政的な防疫対策として死亡鳥類と蚊を用いた WNV のサーベイランス事業を平成 15 年 7 月 15 日から実施している。

本年度、死亡鳥類の WNV 検査については、実施はなかった。

一方で、デングウイルスや WNV、日本脳炎ウイルス、チクングニアウイルスなど、蚊を媒介とする感

感染症のサーベイランス事業を、平成23年度より横浜市内18区19ヶ所の公園にドライアイス併用のライトトラップを設置し、採集された蚊を用いて開始した。

採集方法としては、夕方にライトトラップを設置し、翌日の朝に採集された蚊を回収した。公園内での一連のライトトラップの設置、蚊の回収、当所への検体の搬送に関しては、横浜市各区福祉保健センター生活衛生課と協力して実施した。本年度の蚊の採集期間は、6月5日から10月17日までで、19ヶ所の公園において、10回ずつ採集した。検査した蚊の総個体数は、8,543匹であった。蚊の種類別ではアカイエカ群1,125匹、ヒトスジシマカ6,934匹、コガタアカイエカ10匹、ヤマトヤブカ238匹、オオクロヤブカ34匹、キンパラナガハシカ174匹、その他28匹であった。また、デングウイルスやWNV、日本脳炎ウイルスを含むフラビウイルス、チクングニアウイルス遺伝子は、全て不検出であった。

(林 宏子、小澤 広規、伊藤真弓、小曾根恵子、植木 聡、宇宿 秀三、森田 昌弘)

表 横浜市のWNV検査結果

		回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総計
区名		トラップ設置場所	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	
1	鶴見	大黒中央公園	153	39	49	13	27	14	22	30	7	18	372
2	神奈川	三ツ沢公園	21	82	35	120	94	45	82	103	18	31	631
3	西	掃部山公園	8	14	39	39	74	167	309	193	41	71	955
4	中	シンボルタワー	84	52	11	26	34	14	-	10	44	43	318
5	南	蒔田の森公園	21	2	17	13	62	203	46	34	84	2	484
6	港南	久良岐公園	9	12	12	16	49	15	32	52	73	4	274
7	保土ヶ谷	陣ヶ下溪谷公園	0	0	29	26	18	0	74	26	28	15	216
8	旭	こども自然公園	1	14	32	25	28	18	62	12	5	0	197
9	磯子	岡村公園	18	18	3	45	158	10	136	112	189	20	709
10	金沢	長浜公園	8	2	4	14	27	85	25	41	20	0	226
11	港北	大倉山公園	33	23	21	232	69	77	175	92	68	23	813
12	緑	北八朔公園	3	28	83	28	91	215	176	168	46	9	847
13	青葉	寺家ふるさと村	6	4	4	12	29	12	8	24	13	7	119
14	都筑	都筑中央公園	2	7	8	74	53	21	23	28	1	6	223
15	戸塚	舞岡公園	3	1	1	53	44	13	34	28	5	1	183
16	栄	小菅ヶ谷北公園	6	3	2	46	54	32	33	21	3	1	201
17	泉	泉区役所	0	1	0	3	14	0	1	2	7	4	32
18	瀬谷	瀬谷狝達公園	4	0	2	2	65	76	89	40	23	6	307
19	鶴見	馬場花木園	11	10	119	113	489	48	119	317	167	43	1436
総計			391	312	471	900	1479	1065	1446	1333	842	304	8543
蚊の種類			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
アカイエカ群			318	135	91	110	145	36	72	43	97	78	1125
ヒトスジシマカ			46	134	340	722	1234	974	1315	1261	694	214	6934
コガタアカイエカ			0	0	0	2	3	1	0	1	2	1	10
ヤマトヤブカ			10	22	26	26	49	33	33	18	17	4	238
オオクロヤブカ			1	0	5	7	7	6	1	3	3	1	34
キンパラナガハシカ			14	20	7	28	37	10	21	7	27	3	174
その他(*)			2	1	2	5	4	5	4	0	2	3	28
総計			391	312	471	900	1479	1065	1446	1333	842	304	8543
ウイルス遺伝子の検出結果			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
フラビウイルス			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
チクングニアウイルス			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

(*)その他には、カラツイエカ、フタクロホシチビカ等が含まれています。

② 川崎市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

川崎市健康安全研究所

市内7箇所の保健所にライトトラップを設置し、平成24年4月から11月まで蚊を毎週1回捕集した。種別した雌蚊317プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヤブカ属の蚊150プールについてはデングウイルス及びチクングニヤウイルスの保有状況も併せて調査した。その結果、ウイルス遺伝子は検出されなかった。

(中島関子、清水英明)

表 川崎市のWNVサーベイランス調査における蚊の月別及び種別採取数

採取日 2012年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	総計
川崎保健所	4	15	9	17	20	15	22	9	111
幸保健所	3	1	4	7	4	7	4	2	32
中原保健所	1	0	3	4	0	6	8	3	25
高津保健所	0	9	11	19	13	12	6	2	72
宮前保健所	0	1	2	1	0	3	0	0	7
多摩保健所	1	3	4	4	6	3	2	1	24
麻生保健所	2	5	6	7	10	8	6	2	46
合計	11	34	39	59	53	54	48	19	317

蚊の種類(雄雌合計匹数)

アカイエカ群	42	125	155	305	105	118	151	130	1131
ヒトスジシマカ	0	29	88	321	544	686	222	41	1931
オオクロヤブカ	0	3	0	3	2	0	0	0	8
キンパラナガハシカ	0	1	2	2	3	5	0	0	13
ヤマトヤブカ	0	1	4	22	20	2	0	0	49
コガタアカイエカ	0	0	0	1	0	0	0	0	1
総計	42	159	249	654	674	811	373	171	3133

ウイルス遺伝子の検出結果

ウエストナイルウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニヤウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

③ 横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

横須賀市健康安全科学センター

ウエストナイル熱等媒介蚊の調査として平成24年6月より9月まで計4回実施した。設置場所は三笠公園敷地内及び動物愛護センター敷地内とし、蚊を捕獲(ドライアイス併用CDC型ライトトラップ法)、分類した後、RT-PCR法によるウエストナイルウイルス遺伝子検査、デングウイルス遺伝子検査及びチクングニヤウイルス遺伝子検査を実施した。結果は、表に示すとおり捕獲した218匹の蚊(イエカ類19匹、ヤブカ類199匹)からウエストナイルウイルス、デングウイルス及びチクングニヤウイルスの遺伝子は検出されなかった。

(竹内恵美)

表 ウエストナイル熱等媒介蚊検査結果(平成24年)

設置回数		1	2	3	4	総計(匹)
設置月		6月	7月	8月	9月	
設置場所	三笠公園	9	20	25	66	120
	動物愛護センター	19	7	5	67	98
総計		28	27	30	133	218
内訳	イエカ類	2	6	10	1	19
	ヤブカ類	26	21	20	132	199
ウエストナイルウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニヤウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(6) その他のウイルス性感染症

(6)-1

① 神奈川県の日脳炎感染源調査

神奈川県衛生研究所

近年におけるわが国の日本脳炎患者は、西日本を中心に発生が見られている。日本脳炎ウイルスの侵淫度を追跡し流行予測を行うため、豚の日本脳炎ウイルス抗体保有状況を調査した。

神奈川食肉センターに持ち込まれた生後5~8ヵ月齢の県内産の豚を対象に、平成24年7月から9月までの期間に、8回、20頭ずつ、計160頭について、血中のJaGAR01株に対する血球凝集抑制抗体及び2-メルカプトエタノール感受性抗体をそれぞれ測定した。その結果、今年度は血球凝集抑制抗体および2-メルカプトエタノール感受性抗体は検出されず、県内における日本脳炎ウイルスの活動は確認されなかったが、西日本では例年同様に豚の日本脳炎ウイルス抗体保有率が高く、患者発生報告があることから、引き続き豚の日本脳炎ウイルスの抗体保有状況調査を行い、日本脳炎ウイルスの侵淫度について追跡する必要があると思われる。

(木村睦未、鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、丹羽加代子)

(6)-2

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹疑い患者からの麻疹ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市を除く）では国の通知に基づき、麻疹疑い例報告について PCR 検査を実施している。しかし、2012 年に当所に搬入された麻疹疑い報告 54 例からは麻疹ウイルス遺伝子が検出されず、原因ウイルスを把握するために麻疹と臨床症状の類似した風疹ウイルスについて PCR 検査を行い、54 例中 13 例から風疹ウイルスを検出した。ダイレクトシークエンスにより風疹の遺伝子解析を行ったところ、風疹 13 例は東南アジアを中心に流行している遺伝子型 2B であった。2011 年に神奈川県で検出された風疹も全て遺伝子型 2B であること、患者には渡航歴がないことから、神奈川県近郊での感染が疑われ、神奈川県を含む首都圏で定着していると思われる。

（鈴木理恵子、木村陸未、近藤真規子、丹羽加代子）

② 相模原市の麻疹ウイルス検出状況

相模原市衛生試験所

平成 24 年に相模原市内の医療機関において麻疹と臨床診断された 5 例（1～17 歳、男 2 名、女 3 名）について麻疹ウイルス遺伝子検査を実施したが、麻疹ウイルス遺伝子が検出された事例はなかった。

（田村有美、鷲谷則子、佐藤宏樹、鈴木敏彦、笹野亜也子、金沢聡子、望月響子）

(6)-3

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

昭和 53 年から義務接種として始まったわが国の麻疹ワクチン予防接種は、平成 6 年 10 月の予防接種法改正にともない勧奨性となり、平成 18 年 4 月からはそれまでの 1 回接種から 2 回接種へと移行した。平成 19 年には 10 代から 20 代を中心とする大規模な流行が発生したため、平成 20 年 4 月から 5 年間の時限措置として、中学 1 年生と高校 3 年生に相当する年齢者の 2 回目接種を追加するなど、麻疹対策が強化されている。小児の麻疹ウイルスに対する免疫状態を把握することが必要なことから、昭和 54 年以降、麻疹ウイルスに対する抗体の保有状況調査を行っている。

平成 24 年 7 月に採取された小児（0～14 歳以下）67 名および 15 歳以上の一般健康人 149 人の血清計 216 例について麻疹ウイルス抗原を吸着してあるゼラチン粒子による凝集反応法で麻疹ウイルスに対する抗体の測定を行った。年齢別に 1：16 以上の抗体保有率をみると、麻疹ワクチン接種前の 1 歳以下の乳児では 33.3%で抗体保有率は低く、第 1 期のワクチン接種対象年齢を含む 1 歳～4 歳の年齢群では 94.7%と上昇し、ワクチンの定期接種による効果がうかがえる。第 2 期ワクチン接種対象年齢を含む 5 歳～9 歳の年齢群では 95.7%、麻疹の予防接種スケジュール変更に伴い追加接種対象年齢となった第 3 期を含む 10 歳～14 歳では 90.9%、第 4 期を含む 15 歳～19 歳の年齢群では 100.0%、20 歳以上では 93.3%～100.0%と抗体保有率は高く、全年齢層の平均抗体保有率は 96.8%であった。しかし、ワ

ワクチン接種対象年齢および20歳以上の年齢層において、未接種未罹患と思われる者の存在も確認されている。また、発症予防可能レベルである1:128以上の全年齢層の抗体保有率は85.6%であり、今後も継続して麻疹ウイルスに対する抗体保有状況の把握を行い、予防接種の必要性和麻疹に関する適切な知識を普及させることが重要と思われる。

(木村睦未、鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、丹羽加代子)

表 麻疹ウイルス抗体保有状況 (平成24年7月)

年齢	抗体価		P A 抗体価							検査数 (人)	抗体 保有率 (%)
	<8	8	16	32	64	128	256	512	≥1024		
1歳未満	2	1								3	33.3
1～4歳	1				1	2	1	6	8	19	94.7
5～9歳	1		1	1	1	1	4	5	9	23	95.7
10～14歳	2			1	4	1	4	5	5	22	90.9
15～19歳		1			1	5	5	5	5	22	100.0
20～24歳	1				1	4	2	2	5	15	93.3
25～29歳				2	1	2	2	1	2	10	100.0
30～34歳			1	1		4	2	2	3	13	100.0
35～39歳						1	1	4	6	12	100.0
40～49歳					1	2	2	5	14	24	100.0
50～59歳			1		1	1	4	1	20	28	100.0
60歳以上		1	1		1	1	6	1	14	25	100.0
計	7	3	4	5	12	24	33	37	91	216	96.8

(6)-4

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

麻疹流行の予測とその推移を知るため、住民の麻疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。平成24年においては、一般健康人男女216名を対象として、麻疹ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体の測定を行った。

年齢別に1:8以上の抗体保有率をみると、ワクチン接種前の1歳以下の乳児で33.3%と最も低く、ワクチン接種対象年齢である1歳～4歳の年齢群では94.7%、5歳～9歳では95.7%、10歳～14歳では86.4%、15歳～19歳では90.9%であった。ワクチン接種対象年齢群以外では、20歳～24歳で抗体保有率が73.3%最も低く、25歳以上では82.1%～100.0%となり、全年齢の平均抗体保有率は88.4%であった。抗体価は16～256倍が78.7%を占め、平均抗体価は $2^{6.2}$ であった。

「感染症流行予測調査報告書（平成21年度）」には、男性の20歳以上に抗体を保有しない麻疹感受性者が10～30%存在し、注意が必要であると報告されていたが、今回の調査においての対象男女比は1:1で、男女別による抗体保有状況および抗体価には違いは見られなかった。しかし、ワクチン対象年齢

外の 20 歳～24 歳および 35 歳以上の年齢群で、男女問わずに抗体保有率が低い傾向にあった。抗体保有率の低い年齢層は今後の感染と流行の主体になると考えられ、これらの年齢層の抗体保有状況の推移を監視するとともに、妊娠前および妊娠可能年齢層への風疹ワクチン接種は継続して奨励する必要があると思われる。

(木村睦未、鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、丹羽加代子)

表 風疹ウイルス抗体保有状況（平成 24 年 7 月）

年齢	抗体価	H I 抗体価								検査数 (人)	抗体 保有率 (%)	
		<8	8	16	32	64	128	256	512			≥1024
1 歳未満		2		1							3	33.3
1～4歳		1		1	3	5	5	2	2		19	94.7
5～9歳		1		1	7	6	4	3	1		23	95.7
10～14歳		3	1	2	6	6	2	2			22	86.4
15～19歳		2	1	1	5	11	2				22	90.9
20～24歳		4	1	1	1	4	3	1			15	73.3
25～29歳		1			1	1	3	3	1		10	90.0
30～34歳					2	2	4	3	1	1	13	100.0
35～39歳		2		1		2	6			1	12	83.3
40～49歳		3			3	3	7	4	3	1	24	87.5
50～59歳		5		2	5	3	3	5	3	2	28	82.1
60歳以上		1	2	5	4	3	5	2	1	2	25	96.0
計		25	5	15	37	46	44	25	12	7	216	88.4

2 細菌性感染症

(1) 腸チフス・パラチフス

① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)のチフス菌等のフェージ型別結果

神奈川県衛生研究所

平成 24 年 1 月～12 月の間、神奈川県ではチフス菌事例の発生が 2 件認められた。1 名は渡航歴がなく、もう 1 名はミャンマー・ベトナムへの渡航が確認された。

(古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子)

所轄保健福祉事務所	性別	年齢	フェージ型	渡航歴
厚木	男	58	A	なし
秦野	男	48	E1	ミャンマー・ベトナム

② 横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果

横浜市衛生研究所

平成 24 年 1 月～12 月の間に横浜市内で分離されたチフス菌は 3 件、パラチフス A 菌は 1 件、計 4 件であった。本年は、全て海外に渡航した後にチフス、パラチフスを発症した事例であった。渡航先は、インドネシア 2 名、インド 1 名、パキスタン 1 名であった。患者情報とフェージ型別内訳は表に示したとおりである。薬剤感受性はインド、パキスタンに渡航した患者の 2 株がナリジクス酸耐性であり、これまでと同様、インドおよびその周辺国由来の株がナリジクス酸に耐性を示す傾向にあった。また、1 例はインド国籍の患者でインドに里帰りした際に感染した事例であった。

(松本裕子、山田三紀子、太田嘉)

番号	分離月日	性別	年齢	疾病名	フェージ型	備考
1	H24. 1. 3	女	45	パラチフス	5	パキスタンに渡航歴あり
2	H24. 2. 20	男	29	チフス	D2	インドネシアに渡航歴あり
3	H24. 4. 5	男	32	チフス	E1	インドに渡航歴あり (インド国籍)
4	H24. 9. 7	女	11	チフス	DVS	インドネシアに渡航歴あり

③ 川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果

川崎市健康安全研究所

平成 24 年 1 月～12 月の間に川崎市内で分離されたチフス菌は 2 件であった。1 名はインドへの渡航歴のある患者であった。患者情報とフェージ型別内訳は表に示したとおりである。

(小嶋由香 湯澤栄子 清水亜希子 佐藤弘康)

番号	発症日	年齢	菌種	フェージ型	渡航先
1	H. 24. 6. 18	8	腸チフス	M1	なし
2	H. 24. 6. 13	62	腸チフス	E1	インド

(2) 細菌性腸管系感染症

① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の腸管出血性大腸菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 24 年 1 月から 12 月における腸管出血性大腸菌 (*Enterohemorrhagic Escherichia coli*: EHEC) の分離状況を以下の表に示した。EHEC の受領株数は、O157 が 21 株、O26 が 2 株の計 23 株であった。表に所轄保健福祉事務所の分離数と毒素型を示した。今年度は、県域内において集団事例が 1 例確認され、PFGE 解析を実施した結果、PFGE パターンはすべて一致していた。他はすべて散発事例であり、散発的集団発生事例は認められなかった。

(古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子)

表 所轄保健福祉事務所からの EHEC 受領状況

所轄保健福祉事務所等	O157			O26	計
	VT1&2	VT2	VT1	VT1	
厚 木	7	2		1	10
茅ヶ崎	3	1	1		5
大 和	3	2			5
足柄上	1				1
鎌 倉				1	1
食肉衛生検査所		1			1
計	14	6	1	2	23

② 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の赤痢菌及びコレラ菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 24 年 1 月から 12 月において神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)に送付された赤痢菌株は 2 株(表)で、いずれも *Shigella sonnei* であった。渡航歴及びその他の情報は表に示した。

(古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子)

表 赤痢菌の血清型及び患者渡航歴

所轄保健福祉事務所	性別	年齢	菌種	渡航歴
秦 野	男	27	<i>S. sonnei</i>	インド
平 塚	男	27	<i>S. sonnei</i>	インド

平成 24 年 1 月から 12 月に神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)において、コレラ菌が検出された事例は認められなかった。

(古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子)

③ 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の散発下痢症患者からの病原菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 24 年 1 月から 12 月の間に、神奈川県の小児科定点医療機関から依頼された散発下痢症患者便について腸管系病原菌検査を行った。病原菌の分離・同定は常法により行った。

病原菌の検出数は 164 件中 21 件（12.8%）であり、その内訳は腸管病原性大腸菌(EPEC)15 件、毒素原性大腸菌(ETEC)2 件、カンピロバクター・ジェジュニ 3 件、エロモナス属菌 1 件であった。同一患者から重複して分離された事例は、毒素原性大腸菌及びエロモナス属菌の重複が 1 件、腸管病原性大腸菌及び毒素原性大腸菌の重複が 1 件認められた。

EPEC 15 株の血清型の内訳は、06（2 株）、08（2 株）、0124（2 株）、0166（2 株）、015（1 株）、025（1 株）、027（1 株）、029（1 株）、044（1 株）、0127a（1 株）、0146（1 株）であった。ETEC 2 株の血清型はいずれも 06 であった。

（古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子）

表 散発下痢症患者からの病原体分離状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	9	10	20	26	19	24	6	6	3	8	12	21	164
陽性数	1	2	0	5	3	1	3	0	1	2	0	3	21
%	11.1	20.0	0	19.2	15.8	4.2	50.0	0	33.3	25.0	0	14.3	12.8
検出病原体内訳													
腸管病原性大腸菌	1	1		5	1	1	2			1		3	15
毒素原性大腸菌					1		1						2
カンピロバクター・ジェジュニ		1							1	1			3
エロモナス・キャピエ					1								1

④ 横浜市の腸管出血性大腸菌検出状況

横浜市衛生研究所

平成 24 年 1 月～12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 92 株であり、その血清型と毒素型は表のとおりであり、0 群別では、例年どおり 0157 が一番多く 77 株（83.7%）であった。次いで 026 が 6 株（6.5%）、0111 が 3 株（3.3%）となり、全国の動向と同様であった。集団事例は、6 月に県域の焼肉店を利用した高校生等の集団食中毒事例があり 22 株が分離された。他の自治体にまたがる事例としては、広域では 8 月の北海道の漬物による食中毒事例、11 月のトルコツアー等があり、狭域では東京都、さいたま市、川崎市等の飲食店を利用した小規模な事例があった。

北海道の事例では札幌市や感染研への菌株送付の際に IS-printing による解析を行い菌株送付時に解析結果を伝える事ができた。IS-printing による解析は、PFGE と比較してその解像度は低いものの、迅速かつ簡便に結果が出るために、複数の自治体にまたがる集団発生の際にはアウトブレイクを探知する情報として有用であると思われた。

（山田三紀子 松本裕子 太田嘉）

表 腸管出血性大腸菌の血清型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT1&2	50
0157 : H7	VT2	22
0157 : H-	VT1&2	3
0157 : H-	VT1	2
026 : H11	VT1	5
026 : H-	VT2	1
0111 : H-	VT1&2	3
0103 : H2	VT1	2
0145 : H+	VT2	1
0145 : H-	VT1	1
0121 : H19	VT1	1
0165 : H+	VT2	1
計		92

⑤ 横浜市の赤痢菌及びコレラ菌検出状況

横浜市衛生研究所

平成 24 年 1 月～12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した赤痢菌は 7 株であり、その菌種、血清型は表のとおりであった。

Shigella sonnei が 5 株、*S. flexneri* 新血清型 88-893 が 1 株、*S. boydii* 血清型 2 が 1 株であった。1 月および 11 月に分離された *S. sonnei* の患者は渡航歴がなく国内発生が示唆された。

(松本裕子 山田三紀子 太田嘉)

表 赤痢菌の菌株情報

番号	分離月日	性別	年齢	菌種	血清型	渡航歴
1	H24. 1. 20	男	64	<i>S. boydii</i>	2	バングラデシュ
2	H24. 1. 20	男	43	<i>S. sonnei</i>		なし
3	H24. 8. 30	男	24	<i>S. sonnei</i>		ミャンマー
4	H24. 8. 30	男	76	<i>S. flexneri</i>	88-893	朝鮮民主主義人民共和国
5	H24. 10. 15	女	23	<i>S. sonnei</i>		インド
6	H24. 11. 6	男	33	<i>S. sonnei</i>		なし
7	H24. 12. 3	女	68	<i>S. sonnei</i>		エジプト

平成 24 年 1 月～12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入されたコレラ菌は 2 株であり、表のとおりであった。菌が分離された 2 名はいずれも、東南アジアに渡航歴があり、海外からの持ち込み事例であると思われた。

(松本裕子 山田三紀子 太田嘉)

表 コレラ菌の菌株情報

番号	分離月日	性別	年齢	血清型	O1生物型	渡航歴
1	H24. 1. 11	男	42	O1 小川	エルトール	フィリピン
2	H24. 5. 2	女	42	O1 小川	エルトール	マレーシア

⑥ 川崎市の下痢症患者からの腸管病原菌検出状況

川崎市健康安全研究所

平成 24 年 1 月～12 月までに川崎市内の医療機関を訪れた下痢症患者を対象にして腸管系病原菌検査を実施した。

材料は、市内医療機関に Cary-Blair の輸送培地を配布し、医療機関を訪れた下痢症患者から大便を採取し、保健所を経由して搬入された検体について検査を行った。検査方法は、既報と同様に行った。

病原菌検出状況は表 1 に示すとおり、検体数 153 件中腸管病原菌陽性数 22 件（14.4%）であり、サルモネラ 1 件（0.7%）、腸炎ビブリオ 1 件（0.7%）、カンピロバクター・ジェジュニ 18 件（11.8%）、カンピロバクター・コリ 2 件（1.3%）の検出であった。

検出病原菌のうちカンピロバクター・ジェジュニが 81.8%を占め、下痢症患者の主要病原菌であった。

検出病原菌の血清型は表 2 に示すとおりである。サルモネラは 1 株分離され、血清型は *S.Corvallis* であった。腸炎ビブリオは 1 株分離され、血清型は K3 であった。

以上のように本市内の下痢症患者から腸管系病原菌が 14.4%検出され、カンピロバクター・ジェジュニが 11.8%と最も多く検出された。また、その他の食中毒菌も低率ながら分離されていることから今後も細菌性下痢症の原因菌追究のため検査を強化していく必要があると思われる。

（小嶋由香 湯澤栄子 清水亜希子 佐藤弘康）

表 1 川崎市の散発下痢症患者からの病原菌検出状況（平成 24 年）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	23	13	18	18	17	15	13	12	9	2	13	0	153
陽性数	2	0	1	3	5	2	4	2	3	0	0	0	22
(%)	(8.7)	(0)	(5.6)	(16.7)	(29.4)	(13.3)	(30.8)	(16.7)	(33.3)	(0)	(0)	(0)	(14.4)
サルモネラ属菌							1						1(0.7)
腸管病原性大腸菌													0(0.0)
腸管出血性大腸菌													0(0.0)
毒素原性大腸菌													0(0.0)
腸炎ビブリオ									1				1(0.7)
カンピロバクター・ジェジュニ	2		1	3	5	2	1	2	2				20(13.1)
カンピロバクター・コリ							2						2(1.3)

表 2 川崎市の検出病原菌の血清型(平成 24 年)

病原菌	株数	菌種および血清型
サルモネラ属菌	1	<i>S.Corvallis</i> (1)
腸炎ビブリオ	1	K3(1)

⑦ 相模原市の腸管病原菌検出状況（三類感染症発症者の家族等の病原菌検索）

相模原市衛生試験所

感染症法に基づく感染症病原菌検索として、発症者の陰性確認、発症者の家族、家族以外の接触者の便検査を実施した。

平成 24 年 1 月から 12 月までの検査対象事例は三類感染症 9 事例で、検査対象者はのべ 28 名、病原菌は 2 名から赤痢菌が検出された。2 名はそれぞれ別事例で検出され、一方の事例には渡航歴があった。なお、渡航歴のない事例の感染経路は不明であった。

月別の検査状況は表のとおりであった。赤痢菌の検査については直接平板塗抹法を用いた。

（田村有美、鷺谷則子、佐藤宏樹、鈴木敏彦、笹野亜也子、金沢聡子、望月響子）

表 相模原市の三類感染症病原菌検索状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
検体件数			3				6	11	2	6		
事例数			1				1	5	1	1		
赤痢菌								3(1)	2(1)			
腸管出血性大腸菌			3(0)				6(0)	8(0)		6(0)		

()は陽性数

⑧ 横須賀市の散発下痢症・接触者等からの腸管系病原菌検出状況

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市内各医療機関から提出された下痢・腹痛を主症状とする患者糞便と菌株、感染症法に基づく発症者、発症者家族及び接触者の糞便を対象に腸管系病原菌検査を実施した。実施期間は平成 24 年 1 月から 12 月で、これらの結果について報告する。材料は糞便 19 件、菌株 19 件の合計 38 件であった。病原菌分離・同定は常法により行った。

病原菌検出状況を表 1 に示す。検査した 38 件のうち、陽性数は 5 件(13.2%)であった。陽性の内訳は、腸管出血性大腸菌が 4 株、毒素原性大腸菌が 1 株であった。

検出病原菌の血清型を表 2 に示す。腸管出血性大腸菌は O157:H7 が 4 株であった。毒素原性大腸菌は O159:H34 が 1 株であった。

（天野肇、片倉孝子、古川美奈子、木村実千明）

表1 散発下痢症・接触者等からの病原菌検出状況（平成24年1月～24年12月）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体件数	3(0)	2(1)	3(0)	3(0)	7(0)	2(0)	3(0)	4(0)	5(0)	0(0)	5(0)	1(0)	38 [†] (1)
陽性数	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	5(1)
%	0.0	50.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	40.0	0.0	13.2
病原菌													
腸管出血性大腸菌					1(0)			1(0)			2(0)		4(0)
毒素原性大腸菌		1(1)											1(1)

備考： † 印の内訳（糞便19件，菌株19件）

（ ）は海外渡航者由来を示す。

表2 検出病原菌の血清型（平成24年1月～24年12月）

病原菌	株数	菌種及び血清型
腸管出血性大腸菌	4	0157:H7 (4)
毒素原性大腸菌	1	0159:H34 (1)

備考：（ ）は菌株数を示す。

⑨ 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況

藤沢市保健所

平成24年1月から12月の間に発生した三類感染症の患者、患者の陰性確認、患者の家族等接触者及び海外旅行同行者の病原菌検出状況について報告する。

検査対象の事例数及び検体数は8事例25検体で、病原菌検出状況は表に示したとおりである。内訳は、腸チフスが1事例4検体、パラチフスが1事例1検体、コレラが1事例1検体、腸管出血性大腸菌感染症は5事例19検体あった。検出された血清型は、0157が2株、0145が2株、0111が1株、026が1株、OUTが1株の計7株で、1名の患者から0157(VT1&VT2)、0145(VT2)、0111(VT1)の3種類の血清型が検出された事例があった。

(石井圭、松葉友美、平井有紀、佐藤健)

表 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況

No	病原菌	事例数	検体数	陽性株数
1	チフス菌	1	4	0
2	パラチフス菌	1	1	0
3	コレラ菌	1	1	0
4	腸管出血性大腸菌	5	19	7
	計	8	25	7

(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たりの患者報告数によると、平成24年は冬～春、初夏、に報告が増加し、例年と同様の流行であった。年齢別では5歳から6歳を中心に報告が多かった。

① A群溶血レンサ球菌の分離及びT型別成績

神奈川県衛生研究所

溶血レンサ球菌レファレンスセンター（関東甲信静支部）活動の一環として2012年におけるA群溶血レンサ球菌分離及びT型別成績について県内5施設の情報をまとめた。県内の感染症発生動向調査におけるA群溶血レンサ球菌の分離株数は、神奈川県衛生研究所（53株）、横浜市衛生研究所（57株）、川崎市衛生研究所（4株）及び相模原市衛生試験所（2株）の計116株で、去年の120株と同程度であった。図1に分離株数及びT型別の成績を示した。なお、横須賀市健康安全科学センターでは分離はなかった。検出されたT型は、1型、2型、4型、6型、12型、25型、28型、B3264型および型別不能の9種類であった。これらのうち、T12型が30株（25.9%）と最も多く、以下TB3264型が19株（16.4%）、T1型、T4型が各々17株（14.7%）およびT28型が13株（11.2%）の順で、これら5血清型で全体の82.9%を占めた。最近5年間のT型の経年推移を図2、図3に示した。2011年に比べ、検出数は、T4型およびT12型で増加した。検出率では、例年T4とT12型が高い傾向にあるが、去年は検出率が最も高くなった。また、T3型およびT28型の検出率が大幅に増加している。

（大屋日登美、渡辺祐子、高橋智恵子、丹羽加代子）

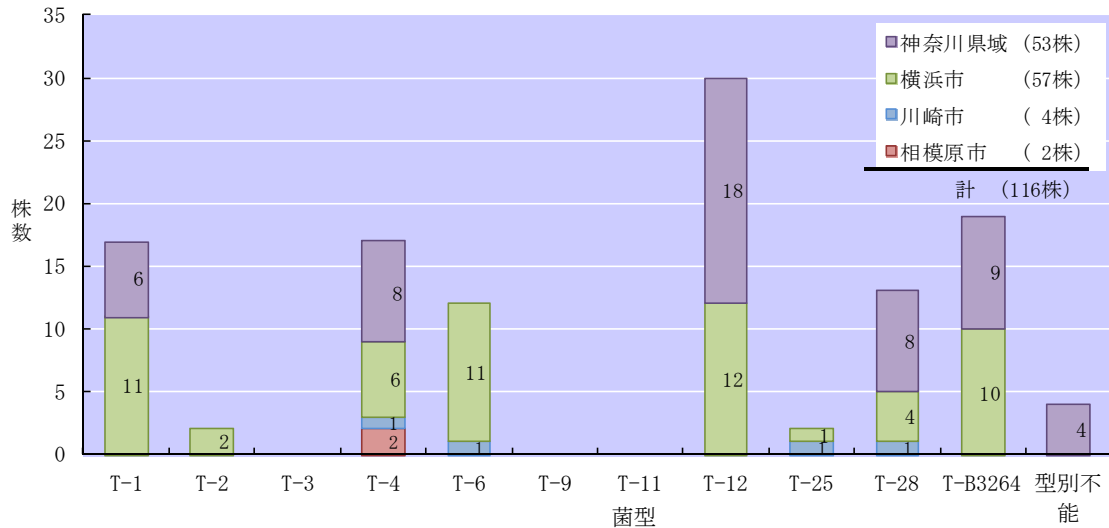


図1 A群溶血レンサ球菌T型の検出状況(平成24年1~12月)

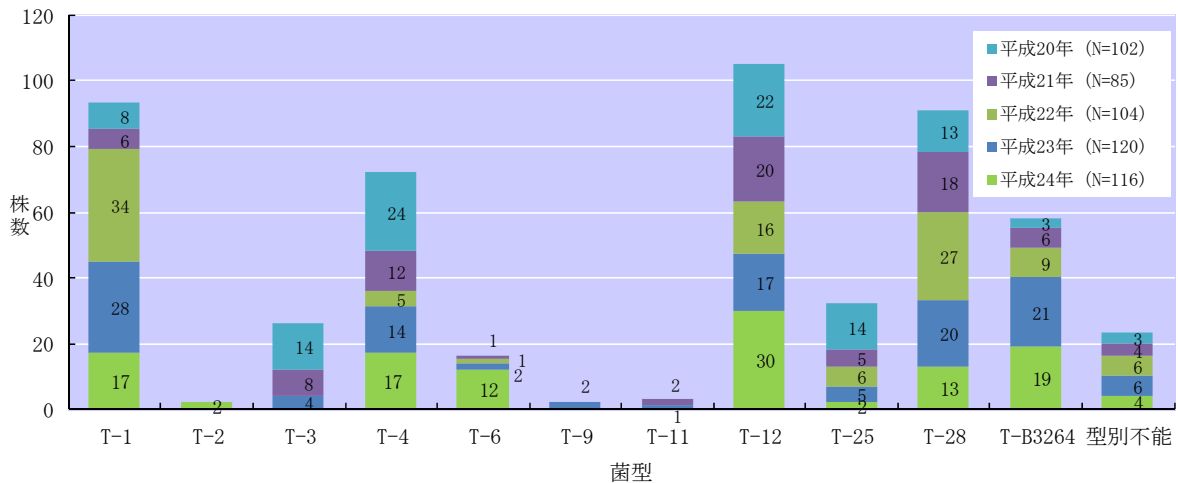


図2 A群溶血レンサ球菌T型検出数の経年推移(平成20~24年)

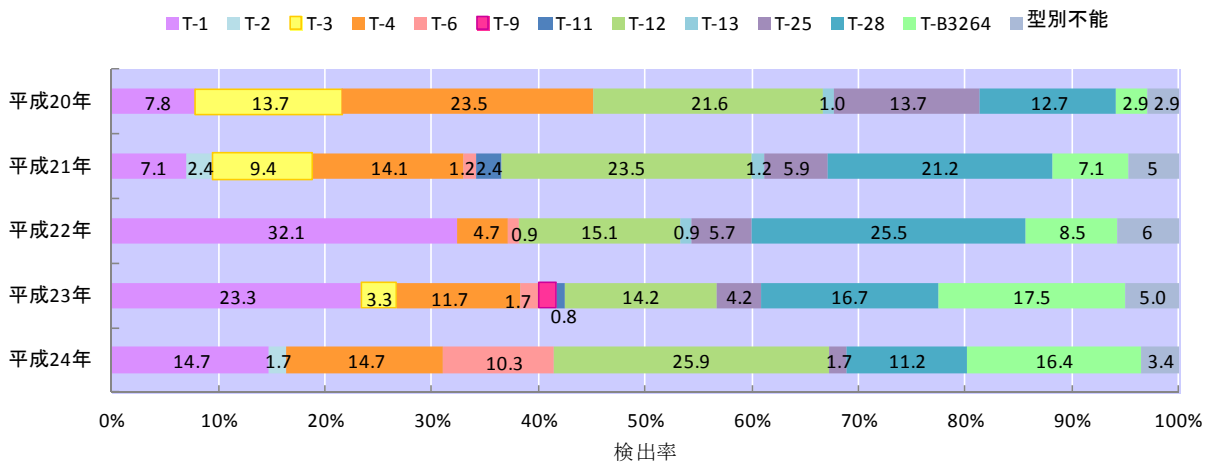


図3 A群溶血レンサ球菌T型検出率の経年推移(平成20~24年)

② 横浜市の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

横浜市衛生研究所

横浜市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関（9ヶ所）において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。平成 24 年 1 月から 12 月までの検出状況は咽頭炎、発疹等の症状があり、溶血レンサ球菌の依頼があった 82 件中のうち、A 群溶血レンサ球菌は 57 件から分離された。その T 型別は表のとおりであった。

(松本裕子 山本芳郎 太田嘉)

表 A 群溶血レンサ球菌の T 型別結果

	T 1	T2	T4	T6	T12	T25	T28	TB3264
2012年1～12月	11	2	6	11	12	1	4	10

③ 川崎市の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

川崎市健康安全研究所

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性連鎖球菌の検索を実施した。平成 24 年 1 月から 12 月までの検出状況は 4 件中 A 群溶血連鎖球菌が 4 件（100.0%）から分離された。その T 型は T-4 が 1 件、T-6 が 1 件、T-25 が 1 件 T-28 が 1 件であった。

(小嶋由香)

(4) 結核の検査

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の QFT 検査成績

神奈川県衛生研究所

QFT 検査は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の改正（平成 19 年）により潜在性結核感染症の診断検査法の一つとなり、感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き（改訂第 4 版 平成 22 年）の中では QFT が第一優先の検査法と位置づけられ、国内で広く実施されるようになった。

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）では、検体数が年々増加し、平成 24 年には 295 事例 1,156 検体の依頼があり、前年（245 事例、776 検体）より大幅に増加した。結果は、陽性が 126 検体（10.9%）、判定保留が 95 検体（8.2%）、陰性が 930 検体（80.4%）、判定不可が 5 検体（0.4%）であった（表）。

平成 20 年から平成 24 年の 5 年間の事例数を被験者と患者の接触場所別にみると（図）、前年同様に家庭が 146 事例と最も多く、次にその他 52 事例、医療機関 47 事例、職場 46 事例、学校 4 事例の順であったが、1 事例あたりの検体数は、学校 16.5 検体と最も多く、職場 6.6 検体、その他 4.7 検体、医療機

関 4.9 検体で、家庭は 2.1 検体と最も少なかった。

陽性率が最も高かったのはその他で 17.1%、ついで家庭 12.9%、職場 9.5%、医療機関 5.7%、学校 3.0% の順であった。

(高橋智恵子、大屋日登美、浅井良夫、丹羽加代子)

表 結核接触者健診における QFT 検査結果 (平成 24 年)

検体数	陽性数		判定保留		陰性数		判定不可	
	検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%
1156	126	10.9	95	8.2	930	80.4	5	0.4

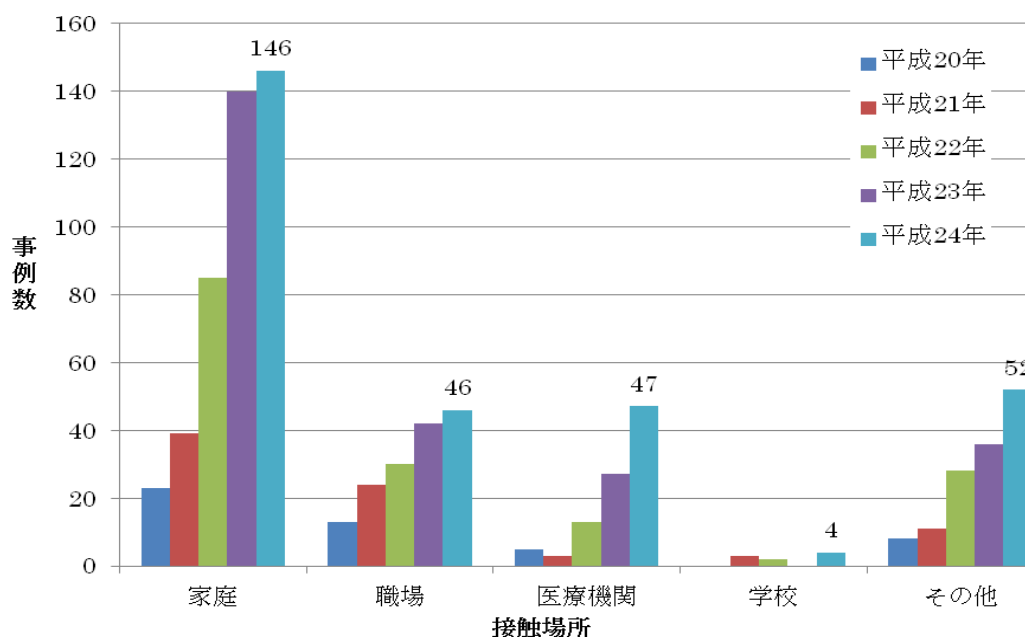


図 被験者と患者の接触場所別の事例数 (平成 20~24 年)

② 横浜市における QFT 検査成績

横浜市衛生研究所

横浜市では平成 19 年 11 月より結核接触者健診における QFT 検査を開始した。平成 24 年には 48 事例 1143 検体の依頼があった。表に示すように、陽性 45 検体 (3.9%)、判定保留 95 検体 (8.3%)、陰性 999 検体 (87.4%)、判定不可 4 検体 (0.4%) であった。

(小川敦子 松本裕子 太田嘉)

表 結核接触者健診における QFT 検査結果

検体数	陽性数		判定保留		陰性数		判定不可	
	検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%
1143	45	3.9	95	8.3	999	87.4	4	0.4

③ 横須賀市における QFT 検査成績

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市では平成 20 年 4 月から結核接触者検診における QFT 検査を実施している。平成 24 年には 270 件の依頼があった。表に示すように、陽性 46 件(17.0%)、判定保留 22 件(8.2%)、陰性 200 件(74.1%)、判定不可 2 件(0.7%)であった。陽性率(17.0%)は、平成 22 年(9.9%)、平成 23 年(14.8%)と比較して高くなっている。

(天野肇、片倉孝子、古川美奈子、木村実千明)

表 結核接触者検診における QFT 検査結果 (平成 24 年)

検査件数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
270	46	17.0	22	8.2	200	74.1	2	0.7

(5) 百日咳の検査

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の百日咳検査成績

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関及び医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、培養法、IS481-PCR 法及び PTp1/p2-PCR 法による検査を実施している。平成 17 年までは検出はなく、18 年に 3 検体、19 年に 49 検体でいずれも陽性検体はなかった。平成 20 年以降、病原体が分離培養及び PCR で検出されるようになった。平成 24 年は、51 検体を検査し、培養法で 4 検体 (7.8%)、IS481-PCR 法で 5 検体(9.8%)が陽性であった。IS481-PCR 法での陽性検体は、PTp1/p2-PCR 法による毒素もすべて陽性であった。この 5 年間における検体数は平成 20 年が 118 検体、21 年が 95 検体、22 年が 38 検体、23 年は 80 検体、24 年は 51 検体、合計 382 検体であった(図 1)。検出状況は、培養法で 382 検体中 19 検体 (5.0%)、IS481-PCR 法で 382 検体中 23 検体 (6.0%) であった。

また、月別検出状況をみてみると季節に関係なく検出されていた(図 2)。

(大屋日登美、高橋智恵子、丹羽加代子)

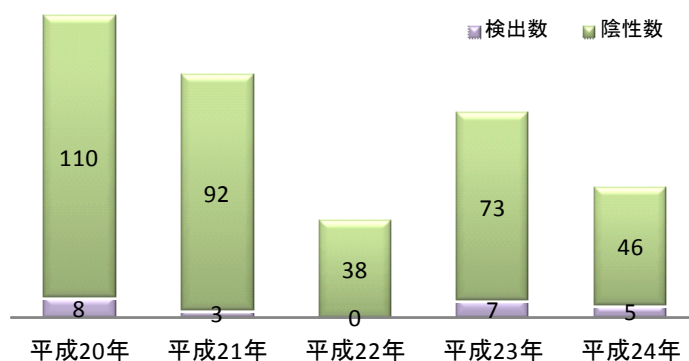


図1 百日咳の年別検出状況

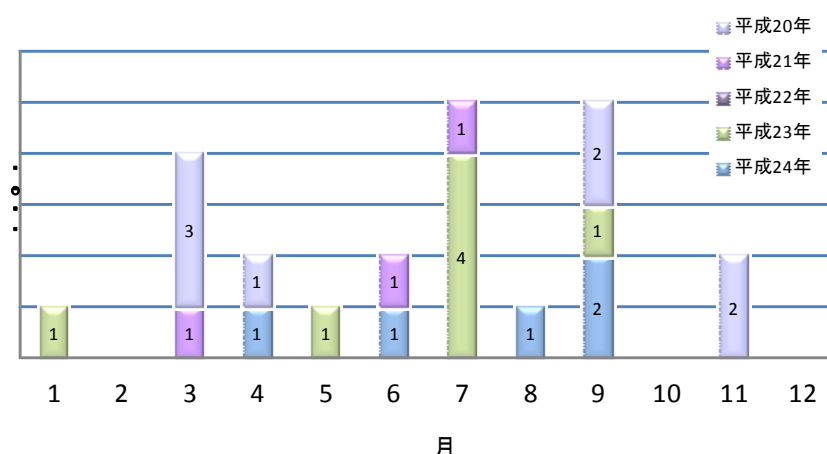


図2 百日咳の累積月別検出数

② 横浜市の百日咳検査成績

横浜市衛生研究所

横浜市内の小児科病原体定点医療機関及びその他の医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、LAMP法による百日咳菌遺伝子検査を実施している。平成24年は11検体につき検査を行い、3件(27.3%)が陽性となった。患者の由来は表のとおりであり、全員が1歳未満であった。DPTワクチン歴は未接種または、1回接種であり、1回接種の乳児も陽性となっていた。また、検体は3月から12月まで持ち込まれていたが、陽性となった患者は全て5月に持ち込まれた検体であった。

(松本裕子 小泉充正 太田嘉)

表 百日咳の患者情報

番号	検体採取月	性別	月齢	主症状	DPTワクチン接種歴	結果
1	3	女	9M	不明	不明	陰性
2	3	男	1M	喘鳴、気管支炎	なし	陰性
3	5	女	3M	咳嗽、哺乳力低下	なし	陽性
4	5	女	6M	発熱、肺炎	DPT 1回	陽性
5	5	男	1M	下気道炎、咳	なし	陽性
6	6	男	4M	気管支炎	なし	陰性
7	7	男	1M	咳、上気道炎、無呼吸	なし	陰性
8	8	女	1M	下気道炎、無呼吸発作	なし	陰性
9	9	女	1M	上気道炎	なし	陰性
10	10	女	6M	上気道炎、咳嗽、チアノーゼ	DPT 1回	陰性
11	12	男	1M	発熱、気管支炎、湿性咳嗽	なし	陰性

(6) マイコプラズマ肺炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）の肺炎マイコプラズマ検査成績

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関および医療機関からのマイコプラズマ肺炎を疑う患者検体について、培養法およびPCR法による検査を実施している。平成24年1月から12月の検出状況は、PCRで100検体中53件（53.0%）が検出された。このうち分離培養では陽性が42件、陰性が10件および判定不可（雑菌増殖）が1件となった。平成23年に比べ、病原体検出数が6月および9～11月に多くなった。肺炎マイコプラズマは、小児科領域においては重要な呼吸器感染症の原因菌の一つである。マイコプラズマ肺炎感染症の第一選択薬剤であるマクロライド系薬剤に耐性を示す肺炎マイコプラズマが、2000年以降国内外で検出されている。神奈川県においても23S rRNA遺伝子のドメインV領域の2063番目のアデニンAがグアニンGに点変異しているA2063Gが最も多く検出され、A2064Gも検出されている。この変異を持つ耐性株は、14員環マクロライドに高度耐性を示し、A2064Gは16員環マクロライドにも高度耐性を示す特徴がある。なお、この他にA2063C、A2063Tの変異をもつ耐性菌が出現してきている。今後も病原体検出状況を継続して監視する必要がある。

（大屋日登美、高橋智恵子、丹羽加代子）

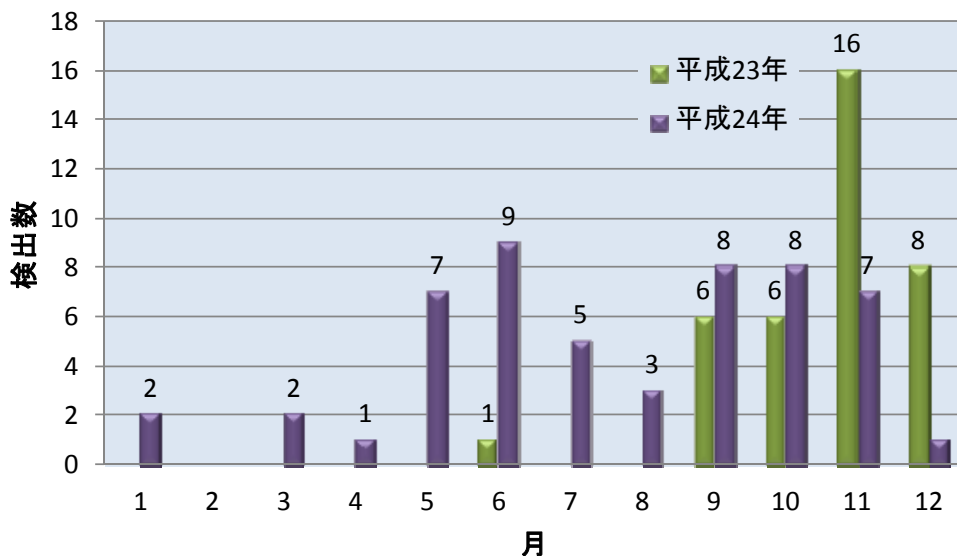


図 肺炎マイコプラズマ月別検出状況

3 その他の感染症

(1) つつが虫病

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で発生したつつが虫病

神奈川県衛生研究所

神奈川県の患者発生数の推移は、全国の患者発生数とほぼ同じ傾向が見られ、平成2年に112名の患者が報告され、その後、減少傾向を示すものの、平成10年より増加傾向に転じ平成12年に42名が報告された後、平成13年は7名、14年には4名と減少した。15年からは年間10名から25名程度の患者数で推移し、平成23年の患者発生数は24名と増加が見られたが、平成24年には例年と同様の患者数で13名であった（図1）

つつが虫病患者発生を季節別にみると、毎年秋期（9～11月）に患者が多く、平成24年も10月1名11月6名、12月1名（計8名）であり、秋期に大部分の患者が発生した。本年度に県内で感染が見られた株はKawasaki およびKuroki の2種類であり、それぞれ5例（62.5%）、3例（37.5%）であり大部分がKawasaki 株による感染であった。

つつが虫病患者より聞き取り調査で得られた感染推定地域は、例年、足柄上郡山北町、松田町および南足柄市の3地区に集中していたが、本年は、山北町、松田町、大雄町および秦野市の計4地域であり、南足柄市からの患者報告はなかった。昨年は小田原市や愛川町を含めた広い地域での感染が報告されていたが、本年度は患者数および発生地域は減少していた。平成24年のつつが虫病感染時の行動も、昨年と同様に山地や平地の畑、田圃などでの農作業が多く、日常生活での感染の機会が多いことが判明した。

（鈴木理恵子、金城恵子、木村睦未、近藤真規子、丹羽加代子）

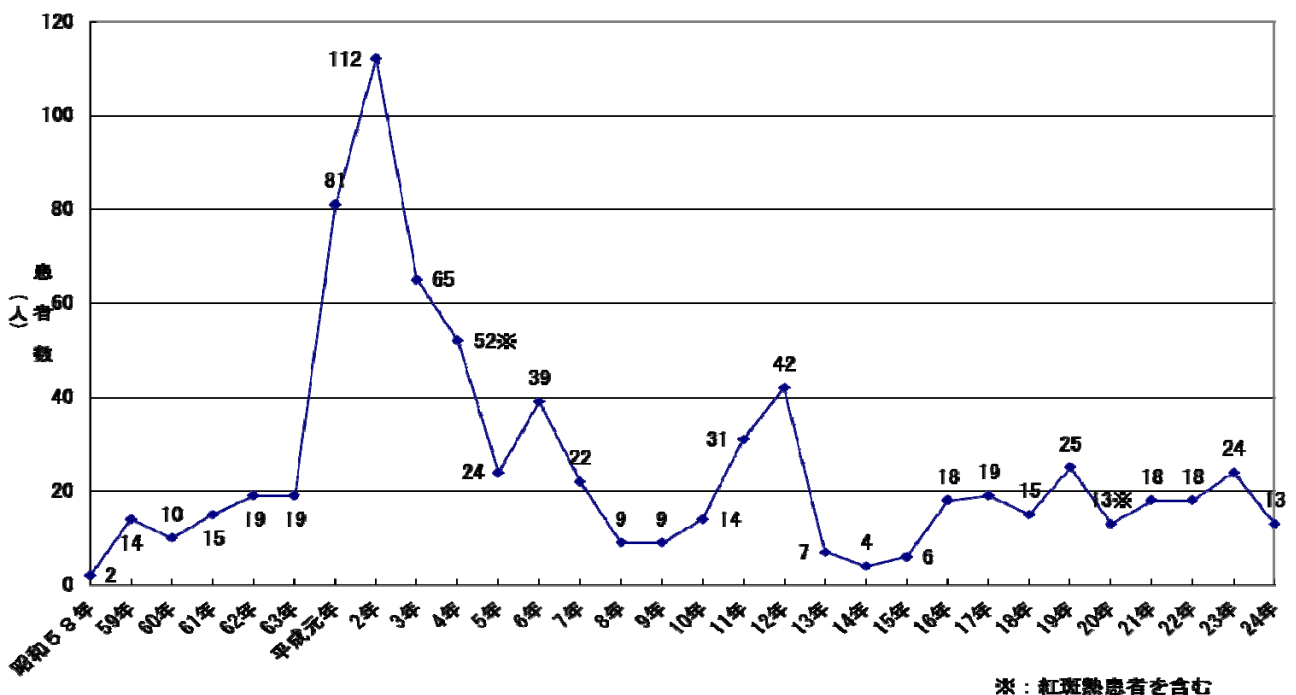


図 県域におけるつつが虫病患者発生状況

＜予防接種実施状況＞

参考資料

予防接種法に基づく定期予防接種は、感染症の発生及びまん延の予防等、公衆衛生の向上を目的に、実施主体である市町村により行われている。

		平成22年度			平成23年度		
		対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B) / (A)	対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B) / (A)
ジフテリア 百日せき 破傷風	1 期初回 1 回	81,641	80,603	98.7%	83,242	79,898	96.0%
	1 期初回 2 回	81,781	79,479	97.2%	83,209	78,671	94.5%
	1 期初回 3 回	81,985	78,611	95.9%	83,213	78,064	93.8%
	1 期追加	83,338	80,978	97.2%	84,083	80,009	95.2%
	2 期	84,778	62,001	73.1%	85,635	67,891	79.3%
ポリオ	1 回	84,689	76,841	90.7%	92,382	55,643	60.2%
	2 回	85,434	77,203	90.4%	92,029	62,183	67.6%
麻しん	1 期	81,004	76,270	94.2%	79,493	75,813	95.4%
	2 期	80,017	70,503	88.1%	77,292	70,737	91.5%
	3 期	82,513	66,233	80.3%	83,719	68,994	82.4%
	4 期	80,733	50,260	62.3%	80,163	56,938	71.0%
風しん	1 期	81,004	76,274	94.2%	79,493	75,810	95.4%
	2 期	80,017	70,473	88.1%	77,292	70,734	91.5%
	3 期	82,513	66,355	80.4%	83,719	69,069	82.5%
	4 期	80,733	50,436	62.5%	80,163	57,110	71.2%
日本脳炎	1 期初回 1 回	98,270	134,288	136.7%	108,114	140,278	129.8%
	1 期初回 2 回	98,566	130,989	132.9%	107,831	149,304	138.5%
	1 期追加	94,655	45,160	47.7%	112,897	131,033	116.1%
	2 期	88,426	16,701	18.9%	100,912	63,743	63.2%
インフルエンザ		1,853,793	827,878	44.7%	1,886,387	786,404	41.7%
内 訳	65歳以上	1,830,025	825,627	45.1%	1,862,764	784,130	42.1%
	予防接種法施行令で定める 60歳以上65歳未満の者	23,768	2,251	9.5%	23,623	2,274	9.6%

「地域保健・健康増進事業報告（地域保健編）」（厚生労働省）のデータを修正・加工して作成

(※)ジフテリア・百日せき・破傷風の1期初回及び追加については、DPTでの接種者数を計上している。

(※)麻しんは麻しんワクチン及び麻しん風しん混合ワクチンの接種者数を計上している。

(※)風しんは風しんワクチン及び麻しん風しん混合ワクチンの接種者数を計上している。

(健康危機管理課)

<感染症関係機関>

機 関 名	所 在 地	電 話
横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課	横浜市中区港町 1-1	045 (671) 2463
横浜市鶴見福祉保健センター	横浜市鶴見区鶴見中央 3-20-1	045 (510) 1827
横浜市神奈川福祉保健センター	横浜市神奈川区広台太田町 3-8	045 (411) 7138
横浜市西福祉保健センター	横浜市西区中央 1-5-10	045 (320) 8439
横浜市中福祉保健センター	横浜市中区日本大通り 35	045 (224) 8332
横浜市南福祉保健センター	横浜市南区花之木町 3-48-1	045 (743) 8241
横浜市港南福祉保健センター	横浜市港南区港南中央通 10-1	045 (847) 8436
横浜市保土ヶ谷福祉保健センター	横浜市保土ヶ谷区川辺町 2-9	045 (334) 6344
横浜市旭福祉保健センター	横浜市旭区鶴ヶ峰 1-4-12	045 (954) 6146
横浜市磯子区福祉保健センター	横浜市磯子区磯子 3-5-1	045 (750) 2444
横浜市金沢福祉保健センター	横浜市金沢区泥亀 2-9-1	045 (788) 7840
横浜市港北区福祉保健センター	横浜市港北区大豆戸町 26-1	045 (540) 2362
横浜市緑福祉保健センター	横浜市緑区寺山町 118	045 (930) 2357
横浜市青葉福祉保健センター	横浜市青葉区市ヶ尾町 31-4	045 (978) 2438
横浜市都筑福祉保健センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1	045 (948) 2350
横浜市戸塚福祉保健センター	横浜市戸塚区戸塚町 16-17	045 (866) 8426
横浜市栄福祉保健センター	横浜市栄区桂町 303-19	045 (894) 6964
横浜市泉福祉保健センター	横浜市和泉町 4636-2	045 (800) 2444
横浜市瀬谷福祉保健センター	横浜市瀬谷区二ツ橋町 190	045 (367) 5744
横浜市衛生研究所	横浜市磯子区滝頭 1-2-17	045 (754) 9800
川崎市健康福祉局保健医療部疾病対策課	川崎市川崎区宮本町 1	044 (200) 2441
川崎区役所保健福祉センター	川崎市川崎区東田町 8	044 (201) 3223
幸区役所保健福祉センター	川崎市幸区戸手本町 1-11-1	044 (556) 6681
中原区役所保健福祉センター	川崎市中原区小杉町 3-245	044 (744) 3271
高津区役所保健福祉センター	川崎市高津区下作延 2-8-1	044 (861) 3321
宮前区役所保健福祉センター	川崎市宮前区宮前平 2-20-5	044 (856) 3270
多摩区役所保健福祉センター	川崎市多摩区登戸 1775-1	044 (935) 3306
麻生区役所保健福祉センター	川崎市麻生区万福寺 1-5-1	044 (965) 5163
川崎市健康安全研究所	川崎市川崎区殿町 3-25-13	044 (276) 8250
相模原市保健所	相模原市中央区富士見 6-1-1	042 (754) 1111
相模原市衛生試験所	相模原市中央区富士見 1-3-41	042 (769) 8348
横須賀市保健所	横須賀市西逸見町 1-38-11	046 (822) 4300
横須賀市健康安全科学センター	横須賀市日の出町 2-12	046 (822) 4057
藤沢市保健所	藤沢市鶴沼 2131-1	0466 (50) 3592

機 関 名	所 在 地	電 話
神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課	横浜市中区日本大通り 1	045 (210) 4793
平塚保健福祉事務所	平塚市豊原町 6-21	0463 (32) 0130
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市由比ガ浜 2-16-13	0467 (24) 3900
茅ヶ崎保健福祉事務所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-8-7	0467 (85) 1171
大和保健福祉事務所	大和市中央 1-5-26	046 (261) 2948
小田原保健福祉事務所	小田原市荻窪 350-1	0465 (32) 8000
三崎保健福祉事務所	三浦市三崎町六合 32	046 (882) 6811
秦野保健福祉事務所	秦野市曾屋 2-9-9	0463 (82) 1428
厚木保健福祉事務所	厚木市水引 2-3-1	046 (224) 1111
足柄上保健福祉事務所	足柄上郡開成町吉田島 2489-2	0465 (83) 5111
神奈川県衛生研究所	茅ヶ崎市下町屋 1-3-1	0467 (83) 4400
横浜検疫所	横浜市中区海岸通 1-1	045 (201) 4458
東京検疫所川崎検疫所支所	川崎市川崎区東扇島 6-10	044 (277) 1856
横浜検疫所横須賀・三浦出張所	横須賀市田浦港無番地	045 (201) 4456
輸入食品・検疫検査センター	横浜市金沢区長浜 107-8	045 (701) 9502
横浜市立市民病院	横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56	045 (331) 1961
川崎市立川崎病院	川崎市川崎市新川通 12-1	044 (233) 5521
横須賀市立市民病院	横須賀市長坂 1-3-2	046 (856) 3136
藤沢市民病院	藤沢市藤沢 2-6-1	0466 (25) 3111
平塚市民病院	平塚市南原 1-19-1	0463 (32) 0015
相模原協同病院	相模原市緑区橋本 2-8-18	046 (722) 4291
厚木市立病院	厚木市水引 1-16-36	046 (221) 1570
神奈川県立足柄上病院	足柄上郡松田町松田惣領 866-1	0465 (83) 0351



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 - 3 - 1

〒253-0087 電話 (0467) 83-4400 (代表)